

3-3-3 「民泊体験」

実験内容

2010年9月18日（土）～19日（日）に民泊体験のまちづくり実験を行った。基本方針からの地域資源のキーワード「農」から計画されたものである。首都圏の学生と家族¹⁵が、大越の7件の民家に宿泊し、個々で大越の生活を体験した。実験参加者全員の共通した行程として、1日目は、首都圏参加者が娯楽場に到着→自己紹介、昼食→別れてそれぞれで民泊体験、2日目は全員あぶくま洞集合→あぶくま洞見学→商工祭→鳴神城址で昼食→娯楽場で意見交換→解散という行程であった。

実験目的

「大越の魅力の再発見をする」大越町の民家に都市部の学生、家族を招待し、農家体験を行うことで、受け入れ側と都市部住民の交流を深め、刺激しあい、大越の魅力を再発見することを目的とする。



各民家での様子



共通した行程での活動の様子

実行主体

大越まちづくり実験実行委員会（学生、UDCT、市PT、住民実行委員）

¹⁵ 東京大学柏キャンパス学生と、柏の葉キャンパス駅前のマンション住民に呼びかけた。

参加者

受け入れ側	7件の大越の民家（上大越3件 下大越1件 牧野2件 栗出1件）
民泊参加者	学生16人（東京大学7人、千葉大学2人）
	家族3組 8人
	学生夫婦1組
	UDCK関係者 ¹⁶ 1組

実験までのプロセス

1. 提案から検討

2009年度に、学生が大越住民のS氏宅、H氏宅に民泊体験をした。特に、S氏が民泊に対して積極的であり、スムーズな流れで2月の実験検討会で提案をした。しかし、受け入れ側が見つからないのではないかと懸念されていた。実験検討会で提案を行うと、住民側の反応が良く、学生も自信をもって提案をしていくことにした。民泊事例の調査を学生4人で行い、調査結果を実際の計画に生かした。

2. 実施計画

受け入れ件数を10件ほどに設定をし、回覧版で受け入れ先を募集した。しかし、受け入れ希望者はいなかった。参加者は、東大柏キャンパス学生と柏の葉キャンパス駅周辺に住む家族を対象とした。呼びかけはポスター、チラシ、インターネットで行った。回覧版で集まらなかったため、実行委員民泊担当者2人、その2人が呼びかけた4人、実行委員が呼びかけた3人の合計7人の家が受け入れ先と決定した。10件を集めるのは厳しい状況となったため、東大柏キャンパス学生と柏の葉キャンパス駅周辺に住む家族の締切りを8月途中で打ち切った。オープニングイベントの直前にも受け入れ住民と学生で民泊当日スケジュールの確認をした。そこで、市PTから、隣地区の滝根であぶくま祭りに行くのはいかがでしょうかと提案があり、話し合いの末、2日目に行くことが決定した。当日スケジュールは、住民受け入れ者各自に任せることにした。住民委員H氏が、自らまちづくり活動を行っている鳴神城址で、2日目にキノコ汁を振る舞うと計画していた。

3. 実施

1日目に娯楽場に受け入れ側、都市部参加者が集合し、昼食会と自己紹介を行った。その後は各自の民泊体験をした。受け入れ先の住民は、自ら行程を考え、実行した。2日目は、あぶくま洞に集合し、全員であぶくま洞見学をした。大越行政局で商工祭を行っていると知り、急遽立ち寄ることになった。

¹⁶ 柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）とは千葉県柏市・柏の葉エリアを中心に、市民、行政、NPO、企業、大学（公・民・学）が連携・協働してまちづくりを考え、実勢するための「組織」であり「場所」である。

全体のまとめ

民泊体験の実施までのプロセスを整理すると、以下のような動きがあることがわかった。

各主体の行動

大学からの動き 日程決定、首都圏参加者への呼びかけ

住民委員からの動き 受け入れ先の呼びかけ、鳴神城での飲食提供、コンテンツの提案、各自の行程作成作業

行政（市 PT）の動き コンテンツの提案

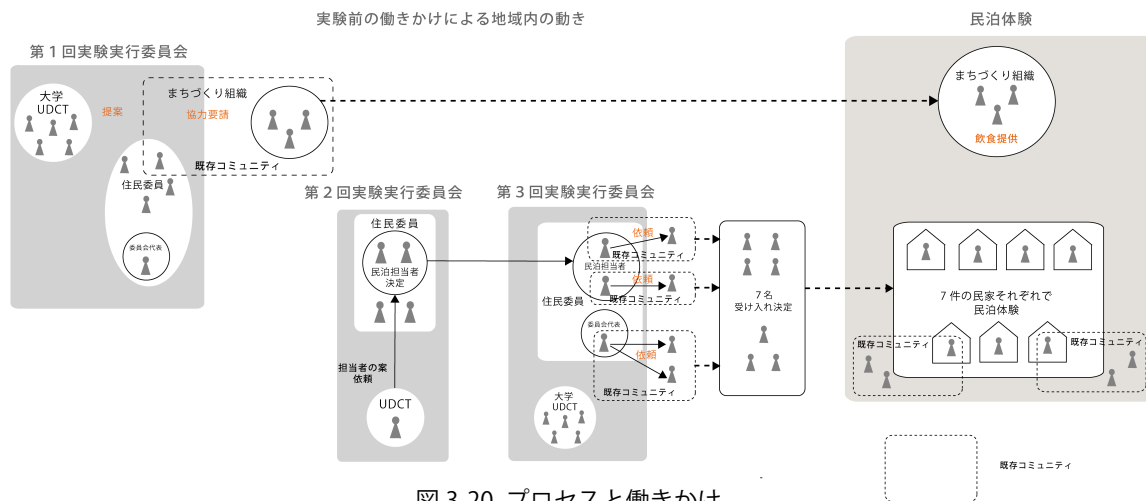


図 3-20 プロセスと働きかけ

まとめ

協働まちづくりの中で、スケジュールを住民各自が計画することは、この民泊が初めてであった。住民発信の2日目の鳴神城址での昼食会が実現した。市 PT からの提案もあり、コンテンツが充実した。

3-3-4 大越あるきあるき大会

実験内容

2010年10月24日（日）に、大越地区内をコースとした大越あるきあるき大会というウォーキング大会をまちづくり実験として開催した。基本方針による地域資源5つのキーワードのうちの「人」の提案に基づくものである。参加者数は176名であった。



大越あるきあるき大会の様子

実験目的

大越で個別に行われている活動ではなく、一つのイベントとして多くの住民が参加すること。大越のまちなかを歩き、大越の良さを再発見すること、住民同士の交流を深めてもらうことを目的とした。

実行主体

大越まちづくり実験実行委員会（学生、UDCT、市PT、住民実行委員）

協力 我が里を考える会スタッフ6名、交通安全協会スタッフ

参加者

参加者数は176名で、上大越住民が72%を占めた。また、家族での参加は上大越で26組、下大越で4組、牧野・栗出で1組ずつ、その他地区で3組であった。また、81名の当日参加者がいた。

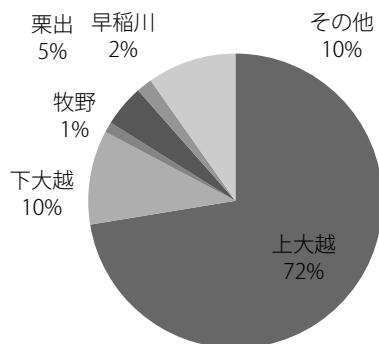


図 3-21 参加者分布

大越あるきあるき大会	人数	家族で参加	欠席数	当日参加
上大越	126	26	7	67
下大越	18	4	8	5
牧野	2	1	0	2
栗出	8	1	1	0
早稲川	3	0	0	2
その他	17	3	5	3
不明	2			2
合計	176	35	21	81

実験までのプロセス

1. 提案から検討

2月の実験検討委員会の際には、まだ提案していなかった。5月に実験についての話し合いを学生でしている時に、多くの人に参加でき大越の恒例イベントとなるような企画が必要ではないか、と話が出て、5月のまちづくり実験実行委員会で住民に提案した。住民からも開催するべきだと声が上がリ、あるきあるき大会を実施することにした。コースの検討、マップの作成、スタンプの作成、当日準備物などを学生、市PT、UDCTを中心に検討していった。住民委員には、コースマップを一度見てもらった上で、コース改善のために意見をもらった。民泊実験の後に、住民委員とまちを歩き、コースの修正をした。そのまち歩きをもとに、最終的なコース決定とした。

2. 実施計画

市PTのあるきあるき大会担当者が中心となり、当日のスタッフの配置、必要物の準備を行った。檜枝岐歌舞伎上演日を10月から11月に変更した関係で、10月23日開催となった。しかし、10月23日だと田村市大越町文化祭¹⁷と日程が重なるため、文化祭の協賛行事としたが、9月上旬の文化祭実行委員会で、23日から24日への変更が妥当ということになり、10月24日開催と決定した。また、檜枝岐歌舞伎上演の情報を新聞に載せたところ、船引の団体で大衆舞踊を歌舞伎の前座として実施したいという連絡がUDCTに入り、ボランティアであるきあるき大会当日に実施してもらうことになった。大会の事前申込みが少なかったことから、UDCT職員が第4回実行委員会で住民委員に対し、周りの住民参加を呼びかけてほしいとお願いをした。実行委員会で、住民委員Hさんから、当日にキノコ汁を用意したいと意見をもらいお願いをした。小学校でも参加を呼びかけた。

3. 実施

午前中に実行委員会は集合し、準備をした。住民委員のあるきあるき大会担当者Sさんは、自身のまちづくり組織に協力を依頼し、その組織から6名ほどがスタッフとなった。またSさんは、行政局の交通安全協会に当日スタッフを依頼していた。大会の集合時間には180名ほどが集まった。短いコース、長いコースに分かれ、委員も配置に着き、実施した。住民委員Hさんは、ゴール地点の娯楽場前空き地でキノコ汁をゴールした人に振る舞った。

また、ヒアリング調査により、大越地区内で30-40名ほどの団体が他イベントに参加していたが、あるきあるき大会の参加者が少ないと心配し、午前中で切り上げ午後にあるきあるき大会に参加したということが分かった。殆どが住民組織の会員や近くに住む人たちであり、実験実行委員であり住民組織会長であるH氏に協力しようという気持ちがあったとする¹⁸。

¹⁷ 3章に田村市大越町文化祭について詳細に記載。

¹⁸ 大越住民へのヒアリングから[巻末資料ヒアリングNO.32]

各主体の動き

実験までのプロセスをまとめると、地域内の実験成功のための自主的な動きがあったと考えることができる。

大学からの動き・・・コースのたたき台を作成、実施計画を進める

住民委員からの動き・・・コースの提案、スタッフの協力要請、飲食の提供

行政（市PT）の動き・・・小学校への呼びかけ



他地域からの大衆舞踊の参加



住民委員による飲食提供



安全協会の協力



あるきあるき大会後の懇談会

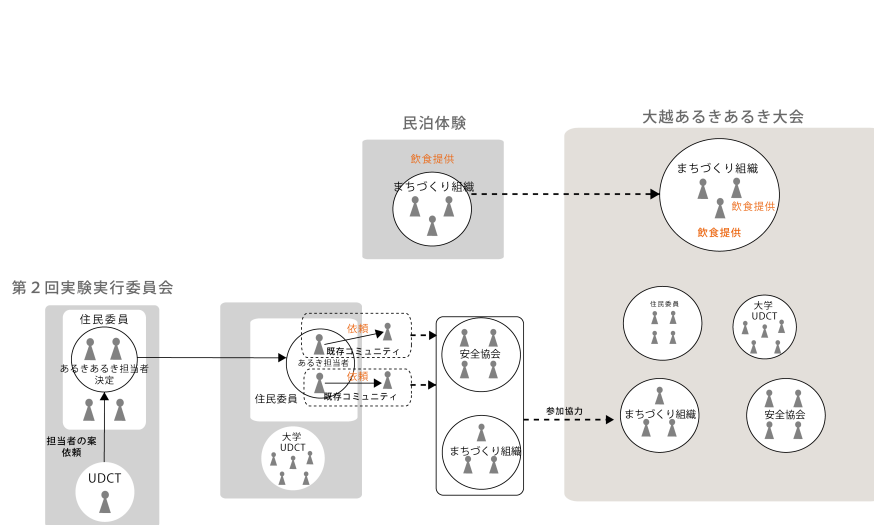


図 3-22 プロセスと働きかけ

3-3-5 娯楽場の活用③ 檜枝岐歌舞伎上演

実験内容

娯楽場活用の一環として、福島県伝統芸能である「檜枝岐歌舞伎」の上演会を行う。2010年11月6日（土）に開催し、これが大越まちづくり実験の最終日である。また、娯楽場今昔物語展も開催し、展示の最終日ともなった。

実験目的

「娯楽場の活用」娯楽場の価値を再認識、または理解してもらうこと。また、昔のように娯楽で賑わっている娯楽場の光景を再現して、住民に今後の娯楽場利用について考えてもらうきっかけになることが目的である。



檜枝岐歌舞伎上演会の様子

①実行主体

大越まちづくり実験実行委員会（学生、UDCT、市PT、住民実行委員）

②参加者

当日参加者は、291名であり、そのうち54%が大越地域住民であり、46%が田村市内の大越地域以外からの参加者であった。事前申し込み者は323人であり、申し込みをしたが当日欠席をした住民は56人であった。福島県の伝統芸能である檜枝岐歌舞伎の人気が高く、田村市全域からの参加があった。

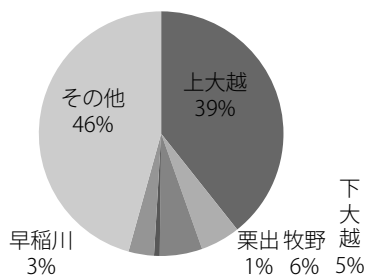


図 3-22 参加者データ

	参加者	事前申込み	欠席数
上大越	105	121	16
下大越	14	18	4
牧野	15	16	1
栗出	2	2	0
早稲川	9	20	11
その他	122	146	24
特別優待券	24		
合計	291	323	56

実験までのプロセス

1. 提案から検討

娯楽場の活用の企画として、国の重要有形民俗文化財に指定されている福島県の檜枝岐歌舞伎を上演することになった。娯楽場の建築価値を最大限に生かすために、伝統芸能でコンテンツを学生が探していて、檜枝岐歌舞伎があがった。UDCT、学生の間で歌舞伎を娯楽場でやったらどうか、という話は早くから持ち上がっていたが、決定には至っていなかった。実行委員会の際に、住民委員との話し合いで歌舞伎上演をすることになった。7月に学生2人とUDCT職員1名で、檜枝岐村へ打ち合わせに行った。当初の日程は10月23日を予定していたが、歌舞伎上演側の都合で11月に行くこととなった。

2. 実施計画

歌舞伎上演に必要な物を市PT、UDCTが中心となって準備していった。檜枝岐から上演者が娯楽場を一度見た上で、打ち合わせを重ねた。10月のあるきあるき大会終了後に行った実行委員反省会で、住民委員が歌舞伎上演日に屋台村をやらないか、という話が持ち上がり、後日UDCTに提案をした。そして、観光協会主体で屋台村を実施する運びとなった。

3. 実施

歌舞伎上演に必要な舞台の設置を前日に、市PT、住民で行った。同日に娯楽場から50mほど離れた空き地で、屋台村準備が観光協会有志、住民有志、市PTで行われた。当日は、学生が展示の設営、市PTが歌舞伎上演の会場準備を行った。住民委員は事前集合時間が伝えられていなかったため、2、3人が準備時間に来た。会場撤収作業は当日のうちに、学生、市PT、住民委員で行われた。

各主体の自主的な動き

実験までのプロセスをまとめると、地域内の実験成功のための自主的な動きがあったと考えることができる。

大学からの動き 日程決定、娯楽場活用のコンテンツとして檜枝岐歌舞伎上演会を提案
住民委員からの動き 屋台村の開催



前日の屋台村準備



屋台村

3-4 分析 問題解決に向けた動き

まちづくり実験成功を目的とする時に発生した問題に対して、地域内の積極的な動きがあった。その動きは、2009年度のワークショップなどの議論の場ではみられなかった動きであったといえる。各実験でみられた実験成功のための問題と、それに対する地域内の問題解決へ向けた動きを整理する。

1. 娯楽場の活用 ～プレ実験 サッカー観戦～

まちづくり実験実行委員会発足前であったため、住民の問題解決へ向けての動きはみられなかった

2. 娯楽場の活用 ～オープニングイベント～

問題 A オープニングイベントのコンテンツ不足

それに対する解決策→実行委員会で、住民委員から三匹獅子舞と鬼太鼓上演したらいいという提案

問題 B 参加者数不足の不安

それに対する解決策→市 PT による、小学校への呼びかけ

3. 民泊体験

問題 A 受け入れ先が回覧板で見つからなかったこと

それに対する解決策→実行委員会委員長、住民委員の民泊担当者からの呼びかけ

問題 B 全体の行程、コンテンツに関すること

それに対する解決策→住民委員による、鳴神城での飲食提供

市 PT による、芸能祭に行くことの提案

問題 C 個々の行程作成作業

それに対する解決策→各自の既存コミュニティを通じたつながり

4. 大越あるきあるき大会

問題 A 協力スタッフの不足

それに対する解決策→住民委員 S さんによる、自身のまちづくり組織への呼びかけと、交通協会への呼びかけ・・・この呼びかけがあったことで、スタッフの増員が実現した。

問題 B 参加者数の不足

それに対する解決策→第4回まちづくり実行委員会での協力呼びかけ、それによる住民委員各自からの呼びかけ

問題C コンテンツの不足

それに対する解決策1 →船引地域からの参加で大衆舞踊の上演

それに対する解決策2 →住民委員による、ゴール地点の旧娯楽場前での飲食の振る舞い

5. 娯楽場の活用 ～檜枝岐歌舞伎上演～

問題解決に向けた動き

問題A 住民委員で何かしなければいけないのではないかという意識

それに対する解決策→観光協会での屋台村の実施

考察 実験でみられた問題解決に向けた動きを誘発させた要因

問題意識からの目的共有期にはみられなかったような5つの実験の地域内の問題解決に向けた動きがあったことから、動きが誘発された要因について考察すると、提案によって大越地域の問題が細分化され、明確になったことが問題解決に向けた住民の動きを誘発できたと考えられる。住民自らが解決できる問題であると認識できたことが、住民が自らの役割を探ることができ、問題解決に向けた動きに繋がったといえる。

小結 細分化された問題解決に向けた動き

問題を明確化できなかったものに対しては、まちづくりに対して意欲的である住民や市 PT メンバーにとっても問題解決のために動くことができなかった。

提案によって大越地域の問題が細分化され明確になったことで、地域内の問題解決の動きを誘発させることができ、地域内の個々の結束力、問題解決力を集結することができたといえる。

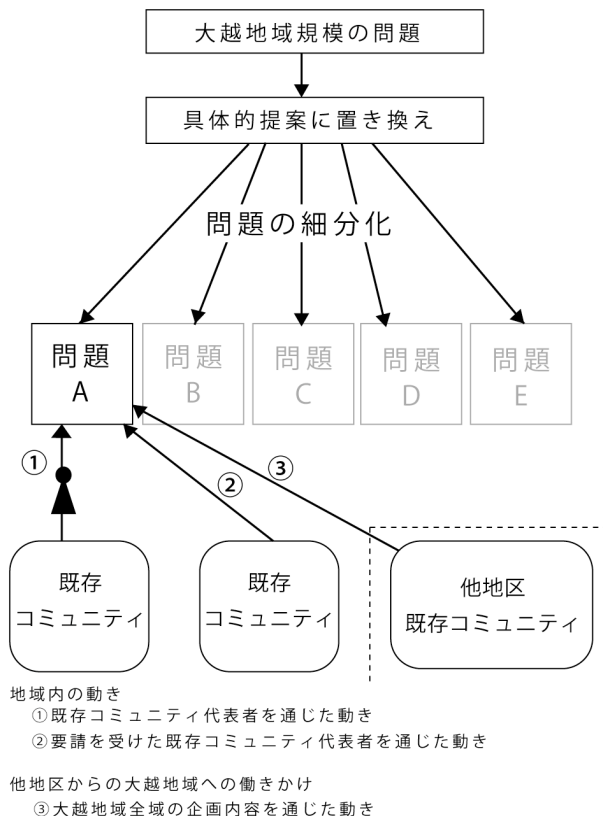


図 3-23 問題の細分化

第4章 行動と意識向上の関係

- 4-1. 実験参加者が行動によって受けた影響
- 4-2. 問題解決の行動がもたらした変化
- 4-3. 行動と意識向上の関係

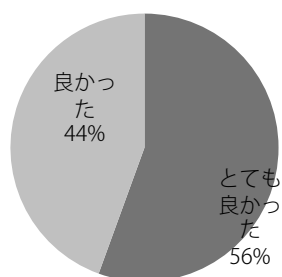
4-1. 実験参加者の行動したことによって受けた影響

大越まちづくりの目的共有をしていない住民にとっても、まちづくり実験に参加したことで変化した意識がある。その意識の変化を、参加住民へのアンケート結果から明らかにする。

1. 娯楽場の活用① プレ実験

配布方法	後日自宅に郵送
回収方法	各自 UDCT に郵送
回収率	18 / 48 (37%)

1) 今回のワールドカップサッカー観戦の企画への評価

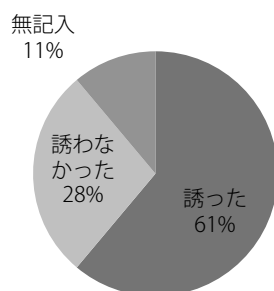


「とても良かった」と答えた人が 56%、「良かった」と答えた人が 44%であり、悪かったと答えた人はいなかった。しかし、単にパブリックビューイングに対する評価が高いのか、娯楽場の活用であるから評価が高いのかわからない。

2) 今回の「プレ実験～サッカー観戦」に参加した理由

「まちづくり活動の一環だと知っていたので」と答えた人が 11 名であり、まちづくりに興味を持ち参加した住民が多かったことが分かった。まちづくり活動が目的であることが、住民の行動力を引き出すことにつながったと言える。

3) 周りの人を誘ったか

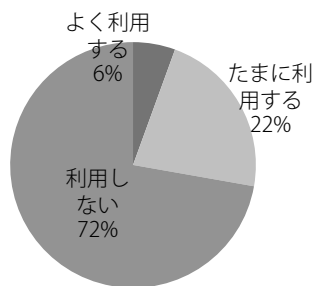


誘ったのは誰か

家族…1 夫…2 妻…1 親類…1
友人…2 近所の人…2 会のメンバー…1

家族・友達・近隣住民を誘った人が半数以上いた。既存コミュニティを活用して行動を誘発した可能性があることがわかる。

4) 普段、娯楽場は利用するか？



「利用しない」と答えた人が72%であった。普段、娯楽場を利用しない人がプレ実験のまちづくり活動に参加するという新しい行動に踏み出したと言える。

5) どのようなイベントがあると参加したいと思うか？大越のまちづくりに対して思うことは？（自由回答から抜粋）

「貴重な建物の持つ良さの中で大越の古き良き時代のいろいろな多様な活用により新しい大越が生まれ、町民や町民外の人たちと交流の中から未来の大越が生まれ、街の活性化や人々のいやしになれば良い」というような「大越」の単位でまちをとらえている意見がある。また、「行政や東京大学の学生さんが私共の地域（田村市）の活性化を図るため、又地域の自然や文化、歴史や遺跡等の再認識をさせられる機会であり参加、協力をしなければと考えています。」というように、東京大学の協働まちづくりを理解した上で、「田村市」の単位でまちを捉えている意見もあった。「新しい大越の始まりだと思い、よかったと思う」という今回のプレ実験が大越地域のまちづくりにプラスに働いていると感じている住民がいることも分かった。

まとめ 娯楽場の活用①プレ実験において、住民参加者の行動したことによる変化

実験参加者は、まちづくり実験の主催者でなく、役割も決まっていなかったために、参加することが義務づけられていない。参加自由な中で48名の住民の行動がみられたこと、まちづくり活動に参加することが目的で参加するという行動を起こした住民がいたこと、「大越地域」「田村市」規模の問題意識をもつ住民がいること、プレ実験という企画が大越地域にとって前進した企画となったという手応えを感じた住民もいた。

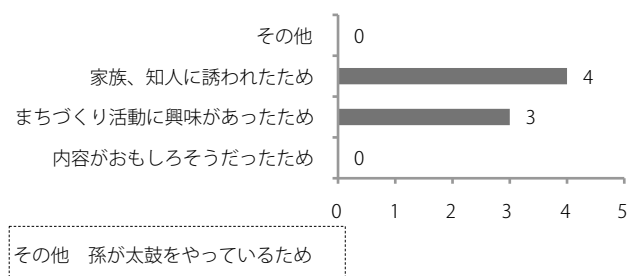
2. 娯楽場の活用② オープニングイベント

実験の評価

アンケート結果より、まちづくり実験に参加した地域住民の反応を整理し、分析を行う。アンケートは大人が少なかったこと、後日郵送により依頼したことから7通の回収しかできなかった。少数の反応からしか検証することができないが、影響があった事実として記載する。

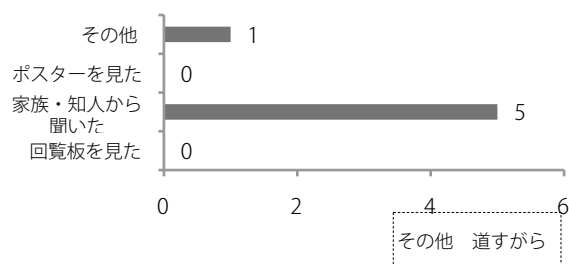
実施日	2010年9月4日(土)
配布方法	後日自宅に郵送
回収方法	各自UDCTに郵送
回収率	7/24(29%)

1) オープニングイベントに参加した理由



「家族、知人に誘われたため」と答えた人が4名、「まちづくり活動に興味があったため」と答えた人が3名であった。既存コミュニティによる行動の誘発と、まちづくり活動であることがもたらした行動であるといえる。

2) オープニングイベントのことを、どのように知ったか



1のアンケートと同じように、既存コミュニティ内での告知があったことがわかる。また、「道すがら立ち寄った」と人も1人いた。ポスターや回覧板でも告知活動は行ったが、それによって参加した住民は、アンケート回答者にはいなかった。

まとめ 娯楽場の活用③ オープニングイベントにおいて、住民参加者の行動したことによる変化

オープニングイベント参加者として、小学生の参加者が多かった。小学校に呼びかけてチラシを配布した動きが、小学生の参加を促したといえる。告知活動は行ったが、それよりも家族や知人からの誘いによって参加するという行動に至ったということは、既存コミュニティによる行動の誘発がみられる。オープニングイベントでは、実験を行うことでみられた変化はなかった。

3. 民泊体験

実施日	2010年9月19日(土)
配布方法	娯楽場にて配布
回収方法	その場で記入後に回収
回収率	受け入れ側 7/7 (100%) 参加者 学生12/12 (100%) 家族4/4 (100%)

■受け入れ側へのアンケート結果

1)都市部の人と交流してどうだったか

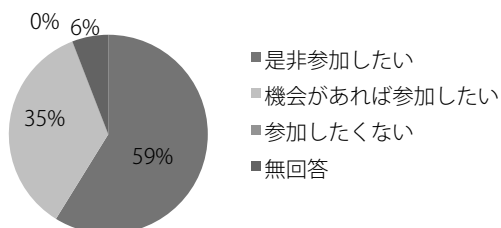
7件中7件が、「楽しかったので継続したい」と答えた¹⁾。

2)民泊体験を通して感じたこと(自由回答から抜粋)

実験実行委員会には入っていない受け入れ住民による回答で、「11月に受け入れた家族が最後民泊に来てくれることになっている。田舎ならではの味わいがあったのか、大変うれしく思っている。」という回答があった。今回の民泊体験で当初は受け入れを考えていなかった住民が、受け入れをしたことで、民泊を再び行うほどの行動力を引き出せたといえる。

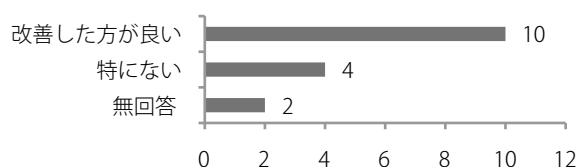
■参加者側へのアンケート結果

1)また参加してみたいか



「是非参加したい」と回答した参加者は59%、「機会があれば参加したい」と回答した参加者は35%であり、「参加したくない」と答えた参加者はいなかった。

2)民泊体験をして改善した方がよいと感じた点はあったか



改善した方がよいと答えた参加者は、16人中10人であった。改善した方がよいと感じた点について、具体的には、「地元と他の地域の違う点をもっと際立たせるべき」「行政(市)をもっと巻き込んだ方がお金の面でも活性化

に結びつけやすいのではないか」「受け入れ側がボランティアとして大変である。次につながっていく取組みにしていけないといけない」といった意見があった。

¹⁾ 民泊実験アンケートから[巻末資料 アンケート結果 民泊]

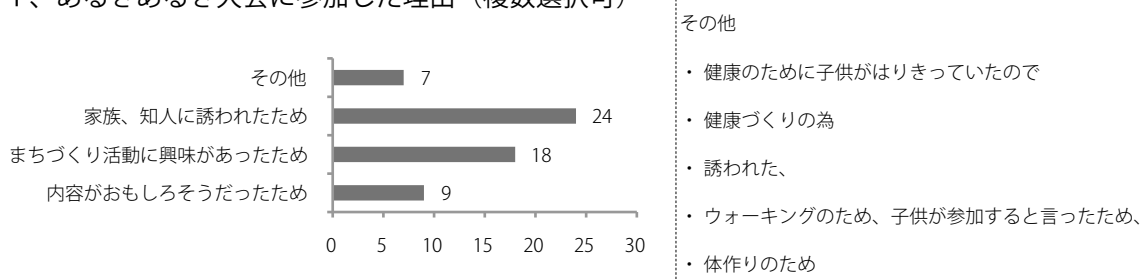
まとめ 民泊体験 住民参加者の行動したことによる変化

受け入れ側は、大越地域全域に回した回覧板での公募では見つからず、住民委員からの呼びかけで集まった。最初から自主的なまちづくり活動参加の意欲がなかった住民でも、受け入れ先となって参加することで前向きになった。また、受け入れ先として体験することで、楽しさを感じて、自ら次の民泊の約束を取り付けるまでの行動を起こした。

4. 大越あるきあるき大会

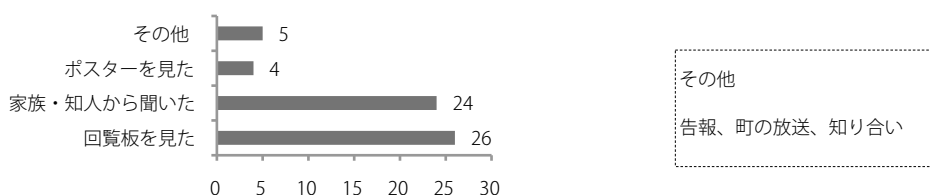
実施日	2010年10月24日（日）
配布方法	ゴール後に実行委員が配布
回収方法	ゴール後に記入
回収率	55

1、あるきあるき大会に参加した理由（複数選択可）



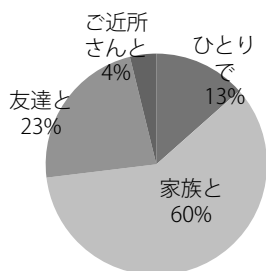
あるきあるき大会に参加した理由として、「家族、知人に誘われたため」と答えた人が24人、「まちづくり活動に興味があったため」と答えた人が18人であった。既存コミュニティによって、参加するという行動に至ったということがいえる。また、あるきあるき大会がまちづくり活動であるということを事前に知っており、それを理由に参加した人も多いことがわかる。

2、あるきあるき大会のことを、どのように知ったか。（複数選択可）



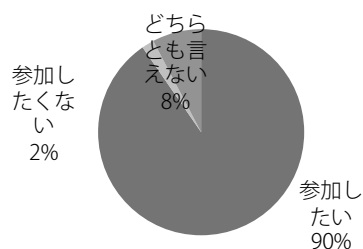
あるきあるき大会を知った方法として、「家族・知人から聞いた」「回覧板をみた」が24人、26人と多く、アンケート回答者のうちの大部分を占めた。大越地域における既存コミュニティに力の大きさを示すものといえる。また、このまちづくり実験以前にあったプレ実験とオープニングイベントでも回覧板で告知を行ったが、アンケート回答者には「回覧板で知った」と答える人は居なかったのに対し、今回のあるきあるき大会では多かった。

3、あるきあるき大会は、誰と参加したか



家族での参加が60%と多いことが分かった。これは参加者データからも分かることである。あるきあるき大会という家族でも参加しやすく、イベントのイメージもつきやすかったことが参加するという行動を起こす原因の一つとして挙げられる。

4、今後もウォーキング大会があったら参加したいか？



「参加したい」が90%であり、大部分の人が次回の大会に向けて前向きであることが分かった。次回もう一度開催した際にも、参加者が多い可能性がある。

5、コースの中で、良かったポイントは？また、理由は？

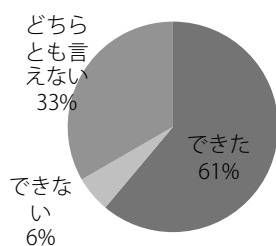
アンケートは、別紙の地図によかったところを記入して、アンケート用紙にその理由を書く方法で行った。良かったところとして、11箇所が挙げられた。

	良かった場所	良かった理由	回答数	初めて・普段とは違うから という意見
1	杉並木	初めて通ってびっくりした。きれいだった。	1	●
		杉林が林道の様な景色で良かった。	1	
		涼しかった。	1	
		杉並木がきれい	1	
2	採石場	今まで見たことがなかったのでよかった。	2	●
		こんな近い所にあると思わなかった。	1	
		日常働いている石灰採石場を見ることができよかった。	1	
3	トンネル	歩いたのが初めてだった。	2	●
		今までとは違った景色が見ることができた。	1	●
4	工場跡地	古工場を見ることができた。	1	
		工場の裏はあまり見ることがないので。	1	●
		長年住んでいたが見たことがなかった。	1	
		息子が働いていた工場見学できよかった。	1	●
5	引き込み線	引き込み線のあるけた。	1	
		眺めがよかった。	5	
		土手と桜並木があり、車も通らずよかった	1	
6	行動跡地に向かう カーブした道	良いカーブだった。	1	
7	田んぼの風景	緑の風景がとてもよかった。	1	
8	線路沿い	見たことのない風景だったので新鮮だった。	1	●
9	河川沿い	歩いていて気持ちよかった。	1	
10	工場周りの道	巨大な工場は見たことのない景色だった。	1	●
		工場施設が人みたい。	1	
11	こども園のまわり	大越こども園をはじめて近く見ることができたから。	1	●

表 4-1 良かった理由

表 4-1 での良かったところと良かった理由についてのアンケート結果をみると、良かった理由として、「初めて行ったから」「あまり見ることがなかったから」という回答が多い。あるきあるき大会に参加したことで、大越地域に住んでいてできえも、「初めて見た、行ったことでの発見」と、「普段体験しないことの体験での発見」をしたことが分かる。また、その参加して得られた発見が良かったことだと認識されていることがいえる。

6)まちを歩いてみて、まちの魅力を再発見できたか。また、できた理由は何か。

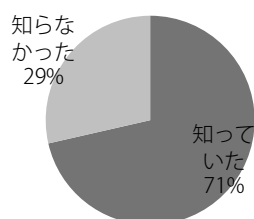


再発見できた理由(自由回答から)

- ・ ・初めて「歩いた」「見た」ところがあったから。
- ・ 出勤でいつも通る道を歩いてみて、普段と違う風景を味わえた。
- ・ 新しい発見があった。
- ・ 今まで歩かなかった所を歩いた。
- ・ あまり歩く事のない所を歩けた事。
- ・ 今まで大越に住んでいて歩いてみなかった所があり、新発見に出来たようでよかった。
- ・ 今まで知らなかった道を歩けた。

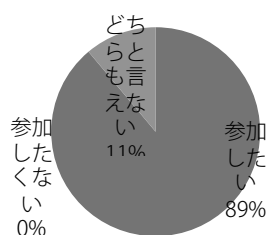
まちを歩くことでまちの魅力を再発見できたと答える人が61%であった。魅力を再発見できた理由として、「初めて“歩いた”“見た”ところが多かったから」「今まで歩かなかったところを歩いたから」などの、意見があり、普段住んでいる大越地域の中でも知らない場所は存在し、このあるきあるき大会に参加したことで魅力の再発見につながったといえる。

7)2010年度、大越町でまちづくり実験を実施していることを知っていたか。



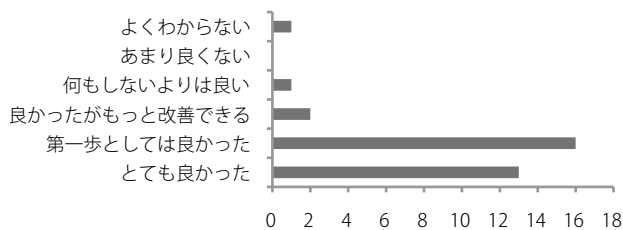
参加者の71%が2010年度にまちづくり実験を実施していることを知っていた。

8)今後も大越まちづくりの一環の活動があったら参加したいか。



「参加したい」と回答した人が89%であり、質問4の結果と同じような結果となった。

9)大越あるきあるき大会は、大越のまちづくりの取組みとして、どうであったか？また、そう思う理由はなにか。



「とてもよかった」と13人が、「第一歩としてはよかった」と16人が回答している。とてもよかった理由としては、「新しい発見があった。」「参加者がたくさんいてよかった」「まちづくりの内容が理解できた」「このような機会がないと歩かないのでよかった」という意見があった。

第一歩としてよかった理由として、「参加者が多かった」などの意見が挙げられた。参加者が多かったこと、新しい発見があったことがまちづくりの取組みとしてよかったと評価する人が多いことがわかった。

まとめ あるきあるき大会において、住民参加者の行動したことによる変化

大越全域の提案により、既存コミュニティを活かした行動を促すことができた。ウォーキング大会という家族で参加しやすくイメージしやすい企画であったことが、参加するという行動を促したといえる。また、まちづくり活動の一環であったことも参加を促した。参加者が多かったこと、大越全域対象の企画に参加したことでまちの新しい発見があったことがまちづくりの取組みとして良かったと感じる住民が多かった。

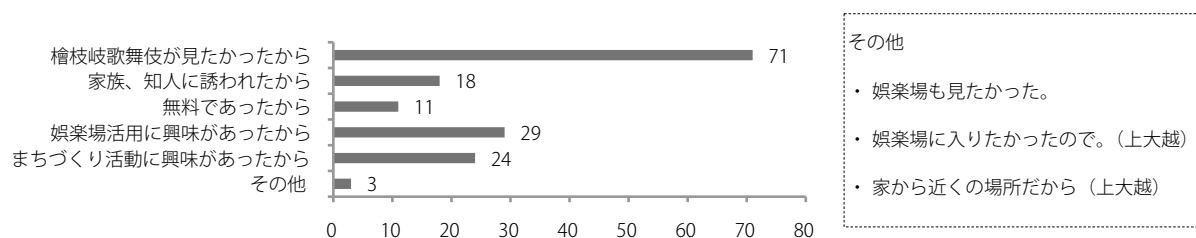
5. 娯楽場の活用③「檜枝岐歌舞伎上演」

実験の評価

アンケート結果より、まちづくり実験に参加した地域住民の反応を整理し、分析を行う。アンケートは事前申込みの2人に一枚を配布した。

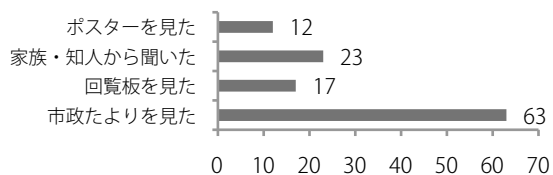
実施日	2010年11月6日(土)
配布方法	受付時に配布
回収方法	各自 UDCT に郵送
回収率	86/146 (回収率 59%)

1) 本日の檜枝岐歌舞伎上演会の抽選に応募したのは理由はなにか。(複数選択可)



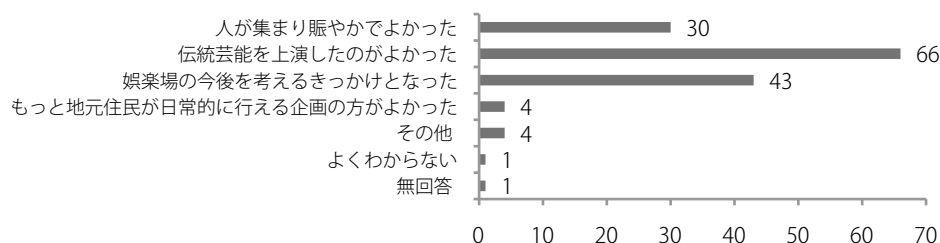
「檜枝岐歌舞伎が見たかったから」という理由で応募した人が最も多い。「家族、知人に誘われたから」と答える人は少なく、個人が自主的に応募したと考えられる。娯楽場の活用や、まちづくり活動と意識して応募した人は少ない。コンテンツにより、住民の行動力を引き出したといえる。

2) 檜枝岐歌舞伎上演会のことを、どのようにお知りになりましたか。(複数選択可)



「市政たよりを見た」という人が最も多い²。口コミでない田村市の告知力とそれによって参加するために応募するという個人の行動の誘発があったといえる。

3) 今回の檜枝岐歌舞伎上演は、娯楽場の活用として、いかがでしたか。(複数選択可)

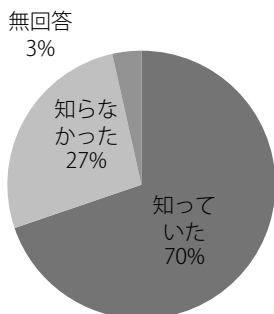


「伝統芸能を上演したのがよかった」という企画が娯楽場活用にとってプラスに働いたという意見と、「今後を考えるきっかけとなった」という今後のまちづくりを意識する意見と、「人が集まり賑や

² 市政たよりについては、2章に詳細に記載。

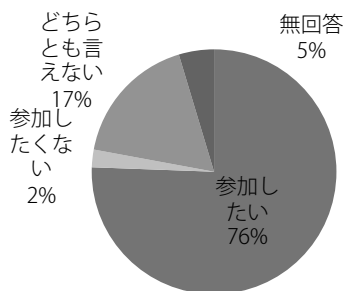
かでよかった」という意見が多くあった。人が集まるのが娯楽場活用に向けたいい働きかけだと住民が認識していたことになる。

4)本日の「娯楽場の活用」が、まちづくり実験の一環であったと知っていましたか？



知っていた人が70%であり、知らなかった人が27%である。まちづくり実験のことを知らなかった住民の参加もあった。

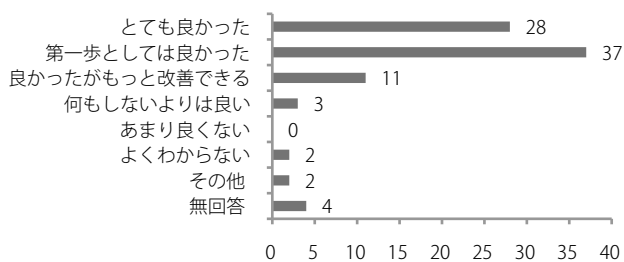
5)今後のまちづくり活動に参加したいと思いますか？



参加したいと答えた人が76%であった。応募をする時点でまちづくり活動を目的としての参加でなくても、今後の大越地域のまちづくりに対して行動を起こすことに前向きであることがわかる。

6)今回の娯楽場の活用は、大越のまちづくりの取組みとして、いかがでしたか？

その理由をお聞かせ下さい。



「とても良かった」「第一歩としてはよかった」と回答する住民が多い。

とてもよかったという意見の理由としては、「素晴らしい建物なので、活用したことはまちの取組みとしてよかった」「多くの人に建物を知ってもらえたから」と、まちづくりの取組みとして評価する意見があった。

また、第一歩としてよかったという意見の理由としては、「娯楽場を知るきっかけとなった」「関心がもてた」「町の人々も興味を持ち始めた気がする」「他人ごとではないと危機感をもった」という意見があった。実験に参加したことで、知ること・関心をもつ事・危機感をもつこと・多くの人に興味を持ったのではないかと手応えを感じたことに繋がり、それがまちづくりの取組みの第一歩となったと認識している住民がいることがわかった。

まとめ 娯楽場の活用③ 檜枝岐歌舞伎上演において、実験参加者の行動したことによる変化

檜枝岐歌舞伎をみるという目的で参加した住民が多かった。しかし、参加の目的はまちづくりとしてではなくても、娯楽場の活用のまちづくり実験に参加することで、関心をもち危機感を抱くこと二つながら、それがまちづくりとして前進したことと認識したという結果をもたらした。

実験の全体的評価の比較 実験の積み重ねによる効果

参加者人数の変化をグラフに示した。図 4-2 に示す。

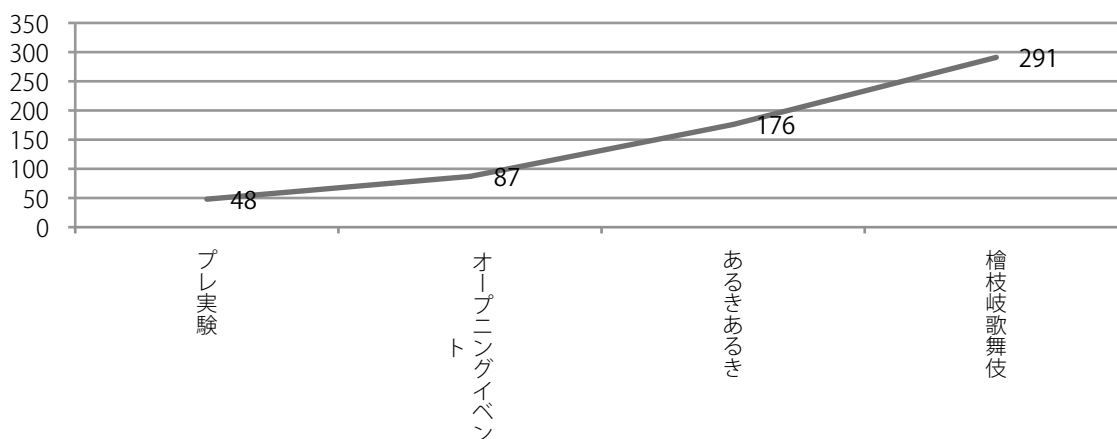


図 4-2 実験参加者の推移

住民の実験参加者人数をグラフに表す。民泊は、住民の受け入れ先が限定的であるため除いている。アンケート結果からは、実験に参加することが次の参加に繋がったことかを検証することは不可能であるが、住民の参加を促すような実験を次々に行ったといえる。

また、アンケート結果から、事前にまちづくりに興味があった参加者人数の割合をグラフに表した。図 4-3 は参加者名簿からの把握であるのに対し、アンケート結果からの人数であるため、アンケートに回答しなかった住民の意識を把握することは不可能であるため、割合で示す。プレ実験では参加者のうち 60%以上がまちづくりに興味があった上で参加したが、その割合は徐々に減少していく。参加人数が多くなった要因として、まちづくりに興味がない住民の参加を促すことができたと考えられる。

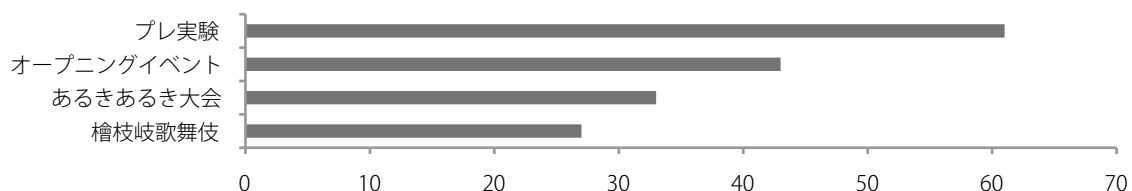


図 4-3 事前にまちづくりに興味があった参加者の割合

住民にとって、プレ実験やオープニングイベントなどのまちづくりを目的としたイベントであるというのが明確である実験よりも、まちづくりという目的が全面的に出ない実験である方が、参加という行動を誘発できるということが明らかである。

4-2. 問題解決の行動がもたらした変化

実験参加者でなくても、住民委員へのヒアリング調査で、「行動してみたことでわかったことがある」と答える人が多かった。その行動して得られた変化を整理して分析を行う。調査は、問題解決への行動がみられた5人について行った。住民委員の5人の属するコミュニティと普段の活動範囲、協働まちづくりでの動きと、得られた影響についての関係について明らかにする。

民泊担当者 まちづくり組織代表 S 氏（牧野）

S 氏のまちづくり組織の活動範囲と、まちづくり実験が行われた場所を図 4-4 に示す。

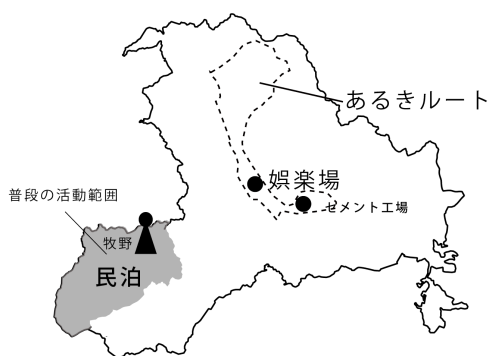


図 4-3 活動範囲と実験の拠点

■協働まちづくりでの動き

- ① 民泊の受け入れ先を、自身のまちづくり組織内で探す。
- ② サッカー観戦で、自身のまちづくり組織内で誘う。
- ③ 民泊の受け入れ 自身のコミュニティ内で、民泊の行程を組む

■協働まちづくりを通しての変化

- ・ 実験を通して他のまちづくり組織と関わることで、その地域のもつ問題を知ることができた。
- ・ 実際に活動するのはその地域のまちづくり組織ではあるが、何かあったときは協力できればいいと思う。
- ・ 協力することで、お互いにあるものを共有できるため、牧野規模ではなく大越規模で民泊なども行った方がいい。
- ・ 行政のバックアップ体制もある。また、この関わりを無駄にしないために、コミュニケーションの行動を起こした。仕事が終わった後、民泊を成功させたいと思っている。

■実験後の動き

- ① 交流を図る行動を起こした。

行動と影響

まちづくり実行委員会の中で、民泊体験の担当者であったこともあり、自身で民泊の受け入れ先を自身のまちづくり組織内で探した。サッカー観戦の際にも、まちづくり組織内から参加する住民を2

～3人連れて来たとしている。しかし、今回のまちづくり実験では娯楽場の活用など、上大越を中心とした活動が多く、上大越に意識が向いていない牧野住民にとっては参加しにくい活動であったとしている。³それに対し、民泊は自宅が拠点で活動も周辺コミュニティ範囲内であった。民泊を行ってみたことで、今後の民泊事業の成功に対しての意欲も強い。

民泊担当者 まちづくり組織代表 H 氏（上大越 町郷区）

H 氏のまちづくり組織の活動範囲と、まちづくり実験が行われた場所を図 4-5 に示す。

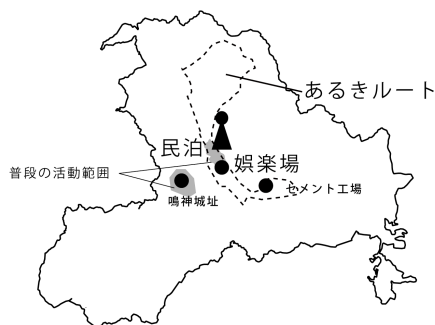


図 4-5 活動範囲と実験の拠点

■協働まちづくりでの動き

- ① 2009 年度のワークショップにおいて自身のまちづくり会員を連れてくる
- ② プレ実験での飲食提供
- ③ 民泊の受け入れを近所、知り合いに呼びかける
- ④ 民泊体験の際に、自身のまちづくり組織の活動場所において、民泊参加者に飲食を振る舞う
- ⑤ あるきあるき大会の際にゴール地点前の駐車場で飲食提供をおこなった。

■協働まちづくりを通しての変化

- ・ 最初は民泊や娯楽場の活用に対して反対だったし、将来性もないと思っていた提案があった。
- ・ やってみることで、悪いところは直し、いいところは取り入れて、ということができるからよかった。
- ・ 行動に起こして改善点が見えてそれを直していくことがまちづくりとして進んでいく。
- ・ 自分から起こした行動も、反応がよかったため、自分も成功のために貢献できたと思った。

■実験後の動き

- ① 娯楽場の利用をしようと考えて行動している。（娯楽場にバレエ教室を呼ぶ）
- ② 協働まちづくりで燃え上がった火を消さないために、仕事を早めに退職してまちづくり活動をしたと思っている。
- ③ 新しいことに挑戦したいと思っている。

³ 大越住民ヒアリングから[巻末資料 ヒアリング 2010 NO.33]

行動と影響

まちづくり実行委員会の中で、民泊体験の担当者であったため、自身のコミュニティ内で行程を組んだ。また自宅が上大越の中心地に位置し、娯楽場の近くであるため、以前から娯楽場活用の試みを行っていたが、手応えがなかったことから、娯楽場の活用の実験に関して否定的であった。しかし、大学側との意見交換で考えを変え、娯楽場の活用に対して前向き姿勢娯楽場の活用の実験では、飲食提供や、自身のまちづくり組織に声を掛けるなどの積極的な働きかけをした。そのため、全ての実験で実験に貢献したという手応えを感じている。その手応えが今後のまちづくりの意欲につながり、もう既に娯楽場の活用する予定をたてている。

まちづくり組織代表 O氏 (下大越)

O氏のまちづくり組織の活動範囲と、まちづくり実験が行われた場所を図4-6に示す。

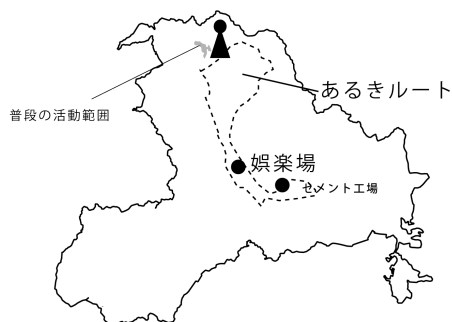


図4-6 活動範囲と実験の拠点

■協働まちづくりでの動き

特にない

■協働まちづくりを通しての変化

- ・ 実験をやることで、特に歌舞伎は、建物を利用するので、これからのまちづくりでは既存建物の利活用を考えていかなければならないと思った。

■実験後の動き 特にない。

行動と影響

問題解決のための行動はみられなかった。自身のまちづくり活動範囲は下大越に位置しており、娯楽場の位置する上大越とは距離的分断が原因だとかんがえられる。檜枝岐歌舞伎は大越全域から注目される実験であった。その実験には参加し、今後の建物の利用を考えなければいけないというまちに対する意識の変化がみられた。

あるきあるき大会担当・まちづくり組織代表S氏（上大越 求中（セメント行動付近））

S氏のまちづくり組織の活動範囲と、まちづくり実験が行われた場所を図4-7に示す。



図4-7 活動範囲と実験の拠点

■協働まちづくりでの動き

- ① 自身が活動に参加できない時に、自身のまちづくり組織会員に参加してもらった
- ② あるきあるきのコースを学生と一緒に検討、意見をだした

■協働まちづくりを通しての変化

- ・ 最初はあるきあるきは外部の人を呼んでやるものだと思っていて、そうではなかったため乗り気ではなかったが、やってみることで、このやり方もまちの問題解決につながるんだと思うことができた。
- ・ あるきあるき大会では、地元の人が第六感で感じたことは意義深いところがあった。

■実験後の動き

- ① 会の拡大に向けて行動。会員人数を増加させた。

行動と影響

S氏のまちづくり活動範囲は、自宅のある求中地区の範囲内であり、セメント工場跡地に工場誘致を目的として活動している。当初は、あるきあるき大会は大越地域外から人を呼ぶものだと認識しており、大越住民対象のイベントであったことから、開催しても意味がないと思っていた。しかし自ら考え方を変え、まちづくり組織、周辺住民の協力要請を行った。普段の活動範囲内であるセメント工場まわりをコースに入れたことで、今後の問題解決につながるのではないかという今後のまちづくりに対しての意欲の向上がみられた。

娯楽場の活用担当・観光協会代表 E 氏

■協働まちづくりでの動き

①娯楽場の活用・檜枝岐歌舞伎上演の際に、屋台村を娯楽場近くの駐車場で開催

■実験後の動き

①観光協会が発行する絵はがきにひまわり会の活動を入れた。

まとめ 住民委員の行動による変化

住民委員の問題解決に向けた動きと影響の関係から以下のことがいえる。

- ・ 自らが役割を探し出し、自主的に行動することが意欲向上につながる傾向がある
- ・ 自身の属するコミュニティ内の活動であると、成功の手応えを感じるにより、次のステップの活動につながる傾向、可能性がある
- ・ 協働まちづくり開始前から抱いていた問題意識に対する提案は受け入れにくい、受け入れ行動することで手応えを感じるにつながる

4-3 住民の問題解決に向けた行動・参加するという行動の範囲と影響

4-1では実験参加者が行動によって受けた影響について明らかにした。4-2で、問題解決に向けた動きと影響の関係について明らかにした。その視点を含めて、ここではその問題解決への動き・参加する動きがみられた範囲と意欲向上の関係について、5つのまちづくり実験の特性の比較から明らかにする。次ページの図4-2に実験の特性と問題解決の動きがあった範囲、意識向上の比較についてまとめる。

実験	ブレ実験	サッカー観戦	オープニングイベント	民泊体験	あるきあるき大会	檜枝岐歌舞伎上演
実施日程	2010年6月19日	2010年9月4日	2010年9月18~19日	2010年10月24日	2010年11月6日	
内容	<p>楽</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9月からのまちづくり実験本番前に、娯楽場の娯楽場にてパブリックビューイングを行う ・ 娯楽場にて鬼太鼓の上演 ・ 娯楽場にて鬼太鼓の上演 ・ 娯楽場にて鬼太鼓の上演 ・ 娯楽場にて鬼太鼓の上演 	<p>農</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大越の民家に都会暮らしの住民を呼び、大越の農家暮らしを体験 ・ 大越の民家に都会暮らしの住民を呼び、大越の農家暮らしを体験 ・ 大越の民家に都会暮らしの住民を呼び、大越の農家暮らしを体験 ・ 大越の民家に都会暮らしの住民を呼び、大越の農家暮らしを体験 	<p>人石駅</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大越地域の駅をスタート、娯楽場をゴールとして、セメント工場跡地を通るコースとしてまちなちを歩く ・ 大越を歩いてみて、新たな魅力・問題を発見し、多くの人に参加してもらい、人の交流の機会となる ・ 多くの住民に参加してもらい、娯楽場の魅力を認識してもらおうこと ・ 娯楽場の今後の活用について考えるきっかけづくり 	<p>農</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 田圃風景の活用 ・ 都会の人との交流によってまちの魅力の再発見 ・ 都会の人との交流によってまちの魅力の再発見 ・ 都会の人との交流によってまちの魅力の再発見 	<p>人石駅</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大越地域の駅をスタート、娯楽場をゴールとして、セメント工場跡地を通るコースとしてまちなちを歩く ・ 大越を歩いてみて、新たな魅力・問題を発見し、多くの人に参加してもらい、人の交流の機会となる ・ 多くの住民に参加してもらい、娯楽場の魅力を認識してもらおうこと ・ 娯楽場の今後の活用について考えるきっかけづくり 	<p>楽</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 娯楽場の活用として、福島県の伝統芸能である檜枝岐歌舞伎を上演 ・ 娯楽場の活用として、福島県の伝統芸能である檜枝岐歌舞伎を上演 ・ 娯楽場の活用として、福島県の伝統芸能である檜枝岐歌舞伎を上演 ・ 娯楽場の活用として、福島県の伝統芸能である檜枝岐歌舞伎を上演
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9月からのまちづくり実験本番前に、娯楽場の娯楽場にてパブリックビューイングを行う ・ 娯楽場にて鬼太鼓の上演 ・ 娯楽場にて鬼太鼓の上演 ・ 娯楽場にて鬼太鼓の上演 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大越の民家に都会暮らしの住民を呼び、大越の農家暮らしを体験 ・ 大越の民家に都会暮らしの住民を呼び、大越の農家暮らしを体験 ・ 大越の民家に都会暮らしの住民を呼び、大越の農家暮らしを体験 ・ 大越の民家に都会暮らしの住民を呼び、大越の農家暮らしを体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大越地域の駅をスタート、娯楽場をゴールとして、セメント工場跡地を通るコースとしてまちなちを歩く ・ 大越を歩いてみて、新たな魅力・問題を発見し、多くの人に参加してもらい、人の交流の機会となる ・ 多くの住民に参加してもらい、娯楽場の魅力を認識してもらおうこと ・ 娯楽場の今後の活用について考えるきっかけづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 田圃風景の活用 ・ 都会の人との交流によってまちの魅力の再発見 ・ 都会の人との交流によってまちの魅力の再発見 ・ 都会の人との交流によってまちの魅力の再発見 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大越地域の駅をスタート、娯楽場をゴールとして、セメント工場跡地を通るコースとしてまちなちを歩く ・ 大越を歩いてみて、新たな魅力・問題を発見し、多くの人に参加してもらい、人の交流の機会となる ・ 多くの住民に参加してもらい、娯楽場の魅力を認識してもらおうこと ・ 娯楽場の今後の活用について考えるきっかけづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 娯楽場の活用として、福島県の伝統芸能である檜枝岐歌舞伎を上演 ・ 娯楽場の活用として、福島県の伝統芸能である檜枝岐歌舞伎を上演 ・ 娯楽場の活用として、福島県の伝統芸能である檜枝岐歌舞伎を上演 ・ 娯楽場の活用として、福島県の伝統芸能である檜枝岐歌舞伎を上演
活動拠点と動きの範囲						
種別	拠点集約型	拠点集約型	拠点分散型	多拠点移動型	多拠点移動型	拠点集約型
実験成功のための問題	<ul style="list-style-type: none"> ①参加者の不足 	<ul style="list-style-type: none"> ①コンテント不足 ②参加者の不足 	<ul style="list-style-type: none"> ①受け入れ先の不足 ②民泊の各民家での行程が未定 ③コンテント不足 	<ul style="list-style-type: none"> ①協力要請 ②住民委員各自の呼びかけ ③・他地域からの参加 ・住民委員による飲食提供 	<ul style="list-style-type: none"> ①協力要請 ②住民委員各自の呼びかけ ③・他地域からの参加 ・住民委員による飲食提供 	<ul style="list-style-type: none"> ①協力要請 ②住民委員各自の呼びかけ ③・他地域からの参加 ・住民委員による飲食提供
問題解決に向けての行動	<ul style="list-style-type: none"> ①有志住民による自身のまちづくり組織内への呼びかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ①住民委員からの鬼太鼓上演の提案 ②市PTからの小学校への呼びかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ①実行委員会委員長・住民委員からの呼びかけと、受け入れた住民委員の既存コミュニティを通じたつながり ②・住民委員による飲食提供 ・市PTによる観光地訪問の提案 	<ul style="list-style-type: none"> ①②交流したことにより良い経験だったと実感 ③飲食提供によって喜んでもらえたことが意欲向上につながった 	<ul style="list-style-type: none"> ①②交流したことにより良い経験だったと実感 ③飲食提供によって喜んでもらえたことが意欲向上につながった 	<ul style="list-style-type: none"> ①②交流したことにより良い経験だったと実感 ③飲食提供によって喜んでもらえたことが意欲向上につながった
行動によっての意識向上	特にみられなかった	特にみられなかった	特にみられなかった	特にみられなかった	特にみられなかった	特にみられなかった
実験後の変化	特にみられなかった	特にみられなかった	①・11月に再び民泊を行った。 ・民泊を今後成功させたいという決心	<ul style="list-style-type: none"> ①拠点の周りに大勢の参加者に見てもらったことで、問題解決に繋がるという手広え ②飲食提供によって今後のまちづくりの意欲向上 	<ul style="list-style-type: none"> ①拠点の周りに大勢の参加者に見てもらったことで、問題解決に繋がるという手広え ②飲食提供によって今後のまちづくりの意欲向上 	<ul style="list-style-type: none"> 娯楽場を利用したことで、住民委員が今後利用する予定をたてる

図4-2 実験後ごとの地域内の動きのあった範囲・動きによって得られた意識の変化

分析1 実験に参加した住民の意識の変化

まちづくり実験でイベントを開催したことで、根本の問題意識からの目的というのは変化していくが、変化していくことが住民の「参加する」という行動に繋がり、そのイベント参加者が多いことが企画側のまちづくりの活力になるというサイクルが発生することがわかった。人口減少の進む地方小都市であるほど、まちづくり活動に参加する目的がまちの問題解決ではない住民も多く参加するという動きが必要である。

分析2 問題解決に向けて行動した住民の意識の変化

3章で、細分化された問題に対して住民の動きがあり、その動きは地縁コミュニティを活用したものであることを明らかにした。さらに、4章では住民が行動に移したことで、その問題解決のために行動した住民にとっては今後のまちづくりへの意欲につながり、また目的共有をしていない実験参加住民にとっても、まちづくりへの意識を向上させることができたといえる。各実験ごとの特性から、問題解決に向けた自主的な住民と行政の動きと、動きによって得られた意識の変化の関係を明らかにする。

1、娯楽場の活用

娯楽場の活用は、拠点集約型とする。娯楽場は上大越地区に位置している、大越地域全体で守るべき地域資源である。しかし、大越地域全域といっても、これまでずっと大字や集落ごとの地縁コミュニティが強すぎることで他地縁コミュニティ間の交流がなく隔たりがあった地域においては、上大越地区に位置する地域資源を地域内で共有するということが困難であると思われる。

一方、上大越地区の中でも娯楽場のある行政区の町郷区で活動するまちづくり組織は、協働まちづくり以前にも娯楽場を活用したことがあったこと等から言えるように、まちの地域資源として認識していたといえる。今回の実験では資源として活用できないという考えを、大学との話し合いによってプラスに変えたことで飲食提供に結びつき、今後の活用に向けた取り組みにもつながった。このように、大学協働まちづくり以前から問題意識をもって活動していた住民にとっては、大学側の提案はかなり食い違うものがある。外部の大学の意見や考え方が受け入れられない例もあった。

実験参加者においては、特に檜枝岐歌舞伎上演会に参加したことで、建物に対する意識の変化はあったが、まちづくり行動力に関する意識の変化というものは見られず、「自ら企画し活用する」というより、「何か面白いものを企画したら参加する」という受け身の体制であることに変わらない。しかし、参加することにより、建物に対する意識の変化があったことは、今後のまちづくりにおいてどのように活かされるべきであるか、ということを検討する必要がある。

2、民泊

民泊は拠点分散型といえる。拠点とは、民泊の受け入れ先となった住民の自宅である。受け入れ先住民が自ら行程を考え、地縁コミュニティ内で活動してことで、当初は受け入れを考えていなかった住民も、再び民泊を行うほどの意欲の向上がみられた。各受け入れ先の民家が拠点となり、その拠点

を核としてその周辺のコミュニティで農作業の体験などを行っている。民泊は、受け入れ先の住民が自ら主導的に行程を考え、実行することが、民泊を再びやりたいという意欲の向上に繋がったといえる。

自ら行程を考え、意欲の向上につながる一方、拠点が自宅であり責任が重大であることから、民泊を受け入れるという決心をするのが困難である。それが、回覧板を回したときに受け入れ先が一件もみつからなかった原因だと考えられる。

3、あるきあるき大会

あるきあるき大会は、多拠点移動型である。大越地域全域に存在する地域資源が拠点となり、コースとして線でつながれている。コースの種類によって、拠点は大会ごとに変更することが可能である。今回の実験では、コースは上大越中心であり、広範囲のコースを設定するのも限界がある。しかし、コースを大会ごとに変更することが可能であり、長期的にみると多くの個人・住民組織の力を集結させることができると考えられる。

実験の特性による地域内の行動と意識向上の関係

以上のことから、娯楽場の活用、民泊体験、大越あるきあるき大会の3つのまちづくり実験は特性が異なる。特性により、「参加するという行動があるか」「問題解決に向けての動きを誘発できるか」「まちづくりに対して意欲の向上に結びついているか」という点で異なる。

娯楽場の活用

拠点集約型であり、コンテンツによって注目度が異なる。多くの住民に建物について知ってもらいたいという目的であれば、檜枝岐歌舞伎のように、注目されるイベントを開催すればいいかもしれない。しかし、本当の目的は大越地域の問題解決であるとするならば、そこでみられた、「建物の魅力を発見したこと」「今後も利用されてほしい」といった意見を次にどう活かすかが重要となる。盛大な実験であったが、きっかけづくりに留まってしまう危険性がある。

民泊体験

拠点分散型であり、住民が自ら受け入れる役割があり、実験を行うことで次の民泊に向けての意欲的な姿勢がみられる。受け入れ先の負担が大きい分、得られる達成感は強いといえる。民泊体験では、実験参加者は多数を呼び込む娯楽場の活用やあるきあるき大会とは異なり、限定的であるため、参加した住民と参加していない住民の意欲の差がしやすい実験であったといえる。この限定された個人個人の意欲を今後のまちづくりに活かす方法を検討する必要がある。

あるきあるき体験

多拠点移動型であり、イベントを重ねるごとに、多主体が関わることのできる大会であり、地域内の連携に向けて期待できる実験であった。イベント当日には様々な参加目的をもった住民が参加し、

交流も生まれる可能性がある。しかし、娯楽場の活用、民泊体験に比べて、一番まちの問題解決に向かうイメージがされにくい実験であった。参加目的が多用であることから、多くの住民の参加が可能であるといえるが、その反面「何を目的として開催しているのか」というのが見えにくい実験である。

小結 今後のまちづくりへの課題

自ら役割を探し問題解決に向けた行動をしたことで、まちづくりに対して意欲向上の傾向があることがわかった。

協働まちづくりを通じて、「行動したことでまちづくりに対する意欲の向上」、「まちづくりに意識を向かわせるきっかけ」が地域内で発生したといえるが、3つの実験の特性によって、上記2点の影響がみられる範囲と、その影響を今後に活かす上での課題が明らかとなった。

第5章 地域内自律型まちづくりに向けて

- 5-1. 大学協働まちづくりの成果と課題
- 5-2. 地域内自律型まちづくりに必要な役割
- 5-3. 地域内連携型まちづくりの提案

5-1. 大学協働まちづくりの成果と課題

大学の役割

当初の大学の役割として、3点が挙げられる。

- ① 大越地域全域の問題意識を共有することの働きかけ
- ② 大越地域全域に向けた提案
- ③ 大越地域全域の住民を実行委員に入れ、大越全域でまちづくりを行う

そして、まちづくり実験を行った後で明らかになった大学の役割として、

- ① 大越全域の問題を提案に置き換え、地域内の住民・行政が自ら解決可能に問題を細分化し明確にしたこと
- ② 目的転換が可能である提案を行ったこと

以上が大学の役割であったといえる。

大学が、問題把握からの基本方針策定→まちづくり実験→フォローアップという3箇年計画で大越地域に関わっていた。筆者が本論文の執筆する時期は、まちづくり実験が終了し、フォローアップ体制に変化し始めている段階である。

大学が大越地域のまちづくりに関わる目的として、大越地域の問題がまちづくり実験を通して地域内の行政や住民が大越地域の問題に立ち向かう意欲を強めること、または問題解決策への道筋のたてかたを得ることが考えられる。その目的があるなかで、大学は役割を果たすことができたのだろうか。

問題解決のために、個人や既存組織の問題解決能力を集結する場としてまちづくり実験実行委員会を立ち上げ、その結果交流もなくお互いの問題意識を知り得なかった住民同士が意見を交わし、今後交流の兆しがあることは、大越地域のまちの問題解決に向かってプラスに働くことに繋がるだろう。

大学の課題

しかし当初の目的であるまちの問題解決のためにまちづくり実験を行ったが、住民や行政にとっては、大きな目的としてまちづくり実験というイベント成功を大きな目的とし、イベントを成功するための問題を解決するための積極的な動きがあった。地域内の行動力を引き出すことは、第4章で明らかにしたように大学の成果であるといえる。しかし、「実験をしてみてどうであったか？」というヒアリングから住民・行政がまちの問題解決の糸口をみつけたという意見がないことから、イベント成功を目的とした問題解決の行動がまちの問題解決に繋がっているとはいえない。大学側からのまちづくり実験の提案がまちの問題解決に直接的に繋がっていなかったといえる。その点が、大学が地域に関わる上での改善すべき点といえるだろう。

5-2. 地域内自律型まちづくりに必要な役割

2009年度～2010年度のまちづくり実験終了までを初動期と位置づけるのであれば、まちづくり実行委員会メンバーとして、住民と行政がイベント成功を目的としていながらも問題解決のために行動を起こしたことで得たまちづくり活動に向けての意欲向上がみられた。

意欲の向上による今後の行動が、まちの問題解決に向かうこと、またはまちの問題解決策を探ることに繋がるように進めることが、2011年度のフォローアップ期間の課題であり、関わる主体の役割であるといえる。

5-3. 大越地域 地域内連携型に向けた提案

地域内連携のあり方とは、活動活発な既存組織の問題解決能力を集結することのできる場の構築である。その場に必要主体として既存コミュニティによる活動範囲の抑制を受けずに大越地域全域をみる能力と、問題を既存コミュニティや個人が役割を探し出し問題解決できるまでにまで転換する能力が必要である。また、初動期の地域内の転換された問題解決に向けての動きによって得られた意欲向上を、まちの問題解決策の探求への動きに繋げることが、初動期の次のステップであるといえる。

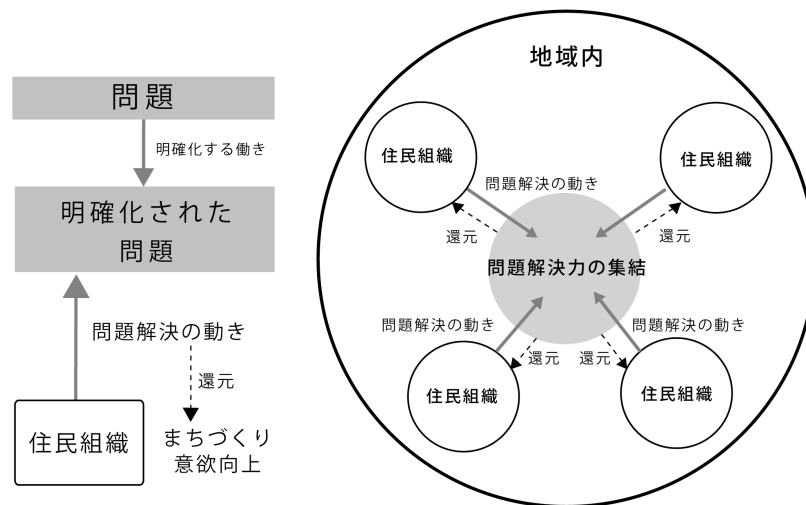


図 5-1 地域連携型のまちづくり体制の提案

地方小都市における地域内自律型まちづくり体制において必要な役割

地域内連携にむけたまちづくりのみではなく、地方小都市のまちづくり体制において、問題を転換する能力をもつ、初動期から次のステップに進める働きかけを行う主体として、地域内に位置して継続的にまちに関わることのできる主体が必要である。

その主体として、今後の大越地域に継続的に関わることのできる UDCT（田村地域デザインセンター）が挙げられる。UDCT は、東京大学の研究員が任期を終えたあとも田村市の管轄のもと設置されるように進められている。その運営スタッフは、問題を転換し動きを誘発しその動きをまちの問題解決に繋げる役割を担う必要があるため、継続的に業務を行える専門家であること、またはその能力を身につけた UDCT での業務を主とする地域内の住民・行政職員であることが望ましい。しかし2者は突発的に表れるものではない。短期的にでも関わることのできる専門家が、UDCT での業務を担う意欲をもった住民を探し、能力を身につけさせることが必要である。

以上を、今後の地方小都市のまちづくりの展望として本論文の結論とする。

第1章

- ・「地域と大学の共創まちづくり」 小林英嗣 地域・大学連携まちづくり研究会 学芸出版社 2008年11月
- ・「地域活動と行政まちづくり単位からみた地域の自律的運営の課題と可能性」 藤井良彦・小林英嗣・石田準 日本建築学会大会学術講演梗概集 2006年9月
- ・「市町村と地縁組織―市町村合併と一論点―」 渡辺榮文 アドミニストレーション 8(3/4), 215-234, 2002-03-30
熊本県立大学
- ・「栃尾表町住民と新潟大学工学部建設学科学生との協働によるまちづくり」 西村 伸也, 岩佐 明彦 建築雑誌 124 2009年8月
- ・「喜多方における学生プロジェクトチームによるまちづくり実践活動の教育効果と課題」 内山隆史ら 日本建築学会大会学術講演梗概集 2005年9月
- ・「地方小都市のまちづくりにおける中間機能に関する研究～福島県田村市船引町の中心市街地をケーススタディとして～」 柏原沙織 2008年度
- ・「地方小都市の初期協働まちづくりにおける専門家の役割について～福島県田村市船引町の中心市街地をケーススタディとして～」 佐古奈々美 2009年度

第2章

- ・「大正・昭和初期のロマン―大越娯楽場・竹久夢二を中心として―」 福島県田村市教育委員会 2008年10月
- ・「旧大越娯楽場国登録有形文化財記念講演会 資料」 荻原正三 工学院大学名誉教授 2008年10月
- ・「田村市総合計画」 田村市 2007年3月
- ・「田村市大越地域まちづくり基本方針検討報告書」 東京大学大学院新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻空間計画研究室・田村地域デザインセンター 2010年3月
- ・「田村市都市マスタープラン」 田村市 2007年
- ・「大越町都市マスタープラン」 大越町 2000年
- ・「大越町史 第1巻 通史編」
- ・「大越町史 第2巻 資料編Ⅰ」
- ・「大越町史 第2巻 資料編Ⅱ」
- ・「大越町史 第3巻 民俗編」
- ・「町内会と地域集団」 倉沢進・秋元律郎 ミネルヴァ書房 1990年9月
- ・「コミュニティ団体運営の手引き」"総務省 コミュニティ組織のガバナンスのあり方に関する研究会" 総務省 2010年3月
- ・「町内会に関する文献目録」 (財)東京市政調査会市政専門図書館編集
- ・「日本における最近のコミュニティ政策」 横道清孝 " (財)自治体国際化協会
- ・「政策研究大学院大学」 2009年3月
- ・「自治コミュニティの構築と近隣政府の選択」 日本都市センター自主研究 報告書 2001年
- ・「市民社会と近隣自治～小さな自治から大きな未来へ～」 小滝敏之 公人社 2007年7月

巻末資料編

1. 議事録
2. ヒアリング 2009
3. ヒアリング 2010
4. 実験アンケート

資料編 議事録

総数 10回

ミーティング スケジュール

	日時	名称	議題	記録者
①	2009年 5月21日	第1回ワークショップ	大越地区の課題発見	不明
②	2009年 6月26日	タウンミーティング	1、田村市内5地域代表者による意見交換 2、大越地域の地域資源	福角
③	2009年 7月25日	第2回ワークショップ	まちづくりのアイデア出し	不明
④	2009年 9月25日	第3回ワークショップ	計画実行するための手法の検討	不明
⑤	2010年 2月2日	まちづくり実験検討会	まちづくり実験の提案に対する意見交換	竹田
⑥	2010年 5月13日	まちづくり実験 ワークショップ	実験の実施に向けた提案の意見交換	ヨンア
⑦	2010年 6月19日	第1回 まちづくり実験実行委員会	実行委員会発足 実験の実施に向けての意見交換 ①民泊体験 ②娯楽場の活用 ③大越あるきあるき大会	阿南
⑧	2010年 7月26日	第2回 まちづくり実験実行委員会	①民泊体験 ②娯楽場の活用 ③大越あるきあるき大会 の実験における 住民委員担当者決定	学生不参加のため 記録なし
⑨	2010年 8月7日	第3回 まちづくり実験実行委員会	まちづくり実験の内容を詰める・考現学ワ ークショップの試し	竹田
⑩	2010年 8月7日	第4回 まちづくり実験実行委員会	大越あるきあるき大会の参加呼びかけの依 頼	竹田

1. 議事録

名称	第1回ワークショップ		
日時	2009年5月21日 19:00~21:00		
内容	大越地域の課題発見		
会場	大越行政局		
参加者	大学		
	UDCT 職員		
	市 PT		
	参加住民	案内状を送付した住民	8名
そのうち参加者		7名	

■A班 テーマ「観光・交流」

整備

- ・駅前 大屋根があるところのイベントをするべき（商工会で3回ほどイベントを行った。屋台は今もある。）
- ・シャッター街 去年、お店が4件ほど閉まった。外に働きに出ない人がお店を出してくれればいい。
- ・娯楽場はもっと利用すべきじゃないのか。
- ・温泉の整備

交通問題

- ・交通が通っていないから観光は難しい。バスが通っていない。
- ・福祉バスもあるといい。

PRをするとしたら？挙げられた大越の資源

- ・河川
- ・蛭
- ・高柴山
- ・花
- ・カルシウム（水など）
- ・ヤマメ、イワナ
- ・「鬼」商品（今はあまりPRがうまくいっていない）

■B班「生活」

- ・合併によってバスの運行規定がなされ、交通の便がとても不便になった
- ・合併後の格差社会→大きい地域（船引、郡山など）の求心性が強い
- ・地域間でもっと話し合いの場が必要（今回のWSが初めて）
- ・交流が足りない→各々広報誌をつくるなど地域のための活動をしている人はいるが、集まって交流する機会がない→広報は100号を迎え、冊子にまとめてある
- ・九州から大学の先生が集まって来て、「田舎に住もう」の企画があったが、話し合いはうまくいかなかった→田

舎の生活は難しい

- ・ 田村全体のまちづくり、活性化よりも、身近な地域の活性化が重要
- ・ 大越は小さな土地を守ろうとしている保守的な人間が多い、儉約的でもある

提案

- ・ 四国の葉っぱ産業のような高齢者ができる農業を充実させていく
- ・ 小学校に近い場所を拠点として、多くの世代が交流できる場所をつくり、地域の人の集まる場所にする

■C班「産業」

参加者

石井さん（商工会青年部）、佐藤さん（商工会）、根本さん（田村市役所都市計画課課長）、坪井さん（田村市役所都市計画課）、菊池原、小島、黒川、阿南（東大）

<セメント工場について>

- ・ モニュメンタル化すべきなんじゃないか。
- ・ レジャー施設として建替える。
- ・ とりあえず早めに撤去すべき。
- ・ 撮影場所としての価値を見出す？（PV ロケ地）
- ・ 下大越出身なので、工場への愛着はあまりない。（坪井さん）
- ・ 工場付近に住んでいた住民にとっては、2本の煙突やサイレンの音には愛着がある（石井さん）
- ・ 昔は活気があったのに、今は無残な姿で取り残されているのが、悔しい。
- ・ 昔は貨物列車が走り、雇用も300人程度あった。

<道>

- ・ スマートインターを作れば、工業団地も有効利用できそう。
- ・ バイパスで人の移動ルートが変動するから、それによる影響がありそう。

<農業>

- ・ 新しい産物を絞って取り入れる
- ・ 菊、リンドウなどが候補にあがったが、事業化まではいたらなかった。

<設備>

- ・ 公衆トイレの整備が必要。

<観光>

- ・ 既存のもの以外の観光資源を発掘していく必要がある。
- ・ フォトブックなどを作って販売する。
- ・ 高柴山をもっと宣伝する。
- ・ ひまわりの里計画？イルミネーション。

<雇用問題>

- ・ 工業団地を有効利用したい。
- ・ 船引や他の地域にも工業団地があり、周辺地区から人がそちらに集まっている。

<その他>

- ・ 定期市を開催する。

1. 議事録

名称	タウンミーティング		
日時	2009年6月26日 18:00~20:00		
内容	1.田村市内5地区代表者による意見交換 2.大越地区の地域資源		
会場	大越行政局		
参加者	大学 記録者：福角		
	UDCT 職員		
	市 PT		
	参加住民	案内状を送付した住民	8名
そのうち参加者		5名	

司会：田中（UDCT 副センター長）

パネラー：北澤（東京大学）、富塚（田村市長）

コメンテーター：渡辺このむ（船引／船引観光案内）、郡司むねまさ（滝根／菅谷を元気にする会）、佐久間辰一さん（大越／ひまわり会）、吉田（常葉／こどもの国虫虫ランド）、吉田（都路）

- ・田中あいさつ
- ・市長あいさつ
- ・北沢あいさつ

船引、滝根、大越と3地区の調査の節目として、意見交換を行おう。
それぞれの特徴を活かし、地域間の相互作用を目指す。

《船引・滝根活動報告》

- ・船引活動報告（菊池原）
- ・田中「フォローアップ」についての説明
 - 菅野（田村市民組合）：フォローアップ1
 - 蒲田（田村市商工観光課）：フォローアップ2「市有施設活用」
 - 田中：フォローアップ3「ミュージアムストリート」
- ・田中：滝根基本方針説明→まちづくり実験説明

〈コメンテーター意見〉

■ぐんじ

滝根では、去年夏から東京大学と一緒に活動している。

滝根の菅谷駅トイレをどうにかしたい。駅前の人であつまる。

まちづくりは自分たちでやっていかなければならない。地域づくりはひとづくり。まずはみんなで勉強会を。地域案内人。社会貢献した人に対する評価が必要と考える。住みやすい地域にするためにはみんなで協力していかなければならない、ということで集まって活動してきた。地域に合った解決策を。

まずはトイレから。進めていけるように頑張ろう！

みんなで話し合いを相当数行っている。これからも一生懸命がんばります。

■吉田（常葉）

これまでの田村の活動を聞いて・・・自分のイメージの船引は中心になることができると思う、頑張ってもらいたい、駅前活性化に興味があり、応援している。しかし、HPにアップされてはいるが、どれくらいの人知っているのだろうか、市民の意識、認知度が心配。

矢吹さんの作品を見て、とても感動。田村市にすることを知って、もっとこんな人がいることをたくさんの人に伝えたい。

今度オープンする喫茶店にも、矢吹さんつながりでたくさんの人を呼び込むことができるのではないかと楽しみにしている。

まずは自分の地域の素敵な人・ものを見つけて、発信していくこと。これから協力していきたい。

地区の連携が必要。常葉だけでは難しい。田村市全体で素敵な場所、自慢できる場所を発信していきたい。

■渡辺（船引）

グリーンツーリズムについて。25年前、滝根の池上で仕事をしていた。割と原風景は変わらないが、入り水鍾乳洞付近の商店がなくなっている。

子どもを呼ぶことよりも、大人を呼ぶことに力を入れている。絵手紙の小池先生を巻き込んでやっている。たくさんの方が来ている。その時にご飯を食べるところがない。レストランではなくて、農家レストランの方が好まれる。そこあたりのアピールを考えていけば、お客が来るのではないか。駅前を活性化させる。また、そこにやってくる人はその後三春に行く人が多い。和紙を買いにいく。こっちでも売れば良い。

■吉田（都路）

今回の取り組みについては良い取り組みだと思っている。第三者の目から調べてもらうのは良いこと。船引のまちづくり実験に参加。地元商店街の皆さん 自分の力だけではできず、地元の人と協力しなければ！という思いがあったが、実際は地元商店街の人は協力的ではないため、メインで活動してくれる人を地元につくるのが大切。東大の活動が終わった後でも続いていくような流れをつくっていかなければならない。

ほかの地域の顔を見るために、今の調査は必要だが、もっとそれぞれの地域の地域性が見えて来て、田村市全体として今後どのような連携をしていくべきかというのが見えると良い。

■渡辺

小池先生の絵手紙（配布資料）

■吉田（常葉）

田村百景は50しかできなかった。「後世に残したい」というフレーズはあまり良くなかったのかも・・・もうすこし意欲がわくような、百景のつくりかたがあるのでは？

■白岩（船引）

吉田さんの指摘は正しいが、土地を持っているため、自分たちで動くのは難しい。吉田さんのような2ヶ月滞在

1. 議事録

の方も必要。これからもよろしくおねがいします

■吉田

新しい風が入ったときに、どうしていくかが重要だと考えている。

休憩

《大越について》

- ・ 概要説明（三牧）
- ・ 途中経過報告（小島）

■佐久間

地元の良さ「良い部分もあるのだな」と感じる事ができた。違った目でみると、マイナスだと思っていた部分がプラスなのだ、という発見ができる。

ひまわり会で行っている大きなたんぼづくり→景観的に微妙

ではどうしよう・・・花を植えよう！ということになった。現在は全国から会費を集めて行っている。色んな人から色んなアイデアを。飲みにケーションで交流。フォーク歌手をよんでイベントを行う等、少しずつ成果が見えて来た。ボランティアはやってなんぼ。しかしお金の工面は結構大変。

大学側でできること、住民でできること、この境界が大変。住民の力は大きい。できることから始める、というのは大切。

高柴山の木の表示など、ただ見るだけではなく、学ぶことも大切。

高柴山のみやげ屋がないのが観光客にとってあまりよくない。

実行できる取り組みを考える。

■北沢

私たちの役割→資源を整理することだと考えている。

人材の魅力を！！

外に伝えるために、中にいる人が自覚しなければならない。

ポストイットのまとめ

【大滝根川源流】

高原の気候で過ごしやすい

自然の良さをアピールしたい

しゃくなげ、松肌どうだん

白ヤシオの群生地はすごい

欠入林道

薬師様

大滝根山（登山）

早稲川の里

別荘地

医療機関

【高柴山】

山頂からの眺めが良い

蛍が見られるようになった

山頂のつつじの群生

牧野口からの登山道の砂利道は歩きにくい、特に下りは危険

【田園風景】

減反政策の悪農政に負けず後世に残す。

耕作放棄水田・畑の活用（資源として最大活用できる中身）

畜産の資源（資料の栽培）

バイオ燃料の栽培、水田面積の約40%が転作、バイオ燃料製造工場の誘致

メダカ・タニシ・ホタルの生息地自然保護

失われた風景

里山（整備された山林）クヌギ林など雑木林

葉タバコの地干し場としての草地（芝草+ネジリ花、アキナグサ等）

田んぼの中には小フナ、ドジョウ、エビ、タニシが住まなくなった

【駅周辺の環境】

駅北側の空き地に保養施設はどうか

駅前広場、大屋根利用

空屋が349号沿いにあると、景観に悪い印象を感じる。市費などで撤去出来ないか。

中心街にコンビニがない

大越町と滝根町との町境はどこからなのか、似たような町の印象が強い。

駅に繋がる道が狭く、車が行き交う時、どちらかが待つようになる。

学生も多く通う歩道がない

基本的にどの道も狭い

【住友大阪セメント跡地の問題】

魅力的←→残したくない風景

大越公民館の駐車場から見た住友工場跡と大滝根山の風景

映画のロケ地として活用出来ないかな？

セメント工場の閉鎖で町の活力が失われたのかもしれないが、これを逆手に取って地域の独自性を発揮させることの出来る産業の育成を目指すのが良いのではないか

跡地に対する有効活用を望む

採石場の白い山

1. 議事録

大越駅ホームから見た住友への引き込みと磐東線の線路の並んだ風景

住友セメントのトロッコ（電車レール）を利用し、楽しんでもらえるようなトロッコ列車のようなものを走らせる。

春にはさくらまつりを行う。

【ひまわりの風景】

ひまわりやイルミネーションがとてもよい

牧野のひまわり大好き

【建築資源—牧野小学校、大越武道館、鳴神城跡（からの風景）】

残したい

大越娯楽場を昔のように芝居が見えるように改築出来ない

武道館の利用法

娯楽場が面白いと思った。ここを活用して大越らしい文化の発信は出来ないものかと思います。

《ポストイット意見交換》

娯楽場→魅力的な建物、娯楽場は国指定になってから、訪れる人も増えた。中の利用も考える必要がある。地域にあるものを地域の人が利用しなければ！

駅周辺→まちをつくるには駅を中心にしたまちづくりが必要。これから大学と住民で考えていかなければならない。

石灰石鉱山と大滝根山風景→公民館からの眺めが良い。このまちは石灰石に頼って生活し、生きていた。今後もそれと関わっていきたい。

■三牧コメント

前回からの調査で良いなと思っている点は住民の方も思っていることがわかった。

意見

■渡辺

なるがみ城跡なるがみ城保存会というのがある。まちの眺望確保や道の整備、花の植樹等を行っている。現在の遊歩道は1m位で危ない。せめて2m位にする等整備をしたい。

ルートの整備を！

■市長あいさつ

なるがみ城 1000万円投じて、今年度行う。

要望をよく考えてほしい。

消火栓の夜間用ライト設置。

5地区で五輪。花の色5色で、地域の色をつくる。

観光の面と、残す面をしっかりとしないといけない。

娯楽場は文化財になってしまったため、建築するのは難しい。

それぞれの分野で、自分の分野をおもいきり PR してもらいたい。

人のやる気！大きくしていく。

地域間の連携がうまくいってない。

ここに来た人にアンケートをとらない

住宅景観応募者なし→やめる

温泉もでる

田村市全体でする！

1. 議事録

名称	第2回ワークショップ		
日時	2009年7月25日 13:00~17:00		
内容	まちづくりのアイデア出し・アイデアカード作成		
会場	大越武道館（旧大越娯楽場）		
参加者	大学		
	UDCT 職員		
	市 PT		
	参加住民	案内状を送付した住民	8名
		そのうち参加者	5名
その他参加者		1名	

■WS初期の住民の意見：

- ・駅を中心としたまちづくりをしたい。
- ・セメント跡地の活用に関わっている。小学校時代に作られ、40年経過し、工場は閉鎖された。別の工場や産業が進出、あるいは、公共施設の参入を考えたい。まちづくりの中心の一つとして考えて行きたい。
- ・郵便局で35年暮らしてきた。遊び所がないから、芝居を見に娯楽場に来た。農業の町から、セメントの町へと変わっていった経緯がある。
- ・23万㎡のセメント工場が閉鎖になって多大な影響を与えた。跡地の利用を考えたい。石灰の町に興味がある。
- ・高齢化。子供が少ない。
- ・駐車場、遊歩道を作る。散歩道が欲しい。
- ・自分たちが出来ることからやりたい。
- ・滝根から大越へ嫁いできて、33年がたった。なぜ、過疎したのか。考えた。我々が悪い。定住がない。若者は3K（考えない、関係ない、関わりたくない）老人に優しいまちづくり。人と人が結びつくまちづくり。
- ・娯楽施設の再生を考えたい。小学校から中学校の遊歩道を考えてる。寺の連携も考えている。
- ・Uターンしてきて帰ってきたら、懐かしい行事がなくなってきた。活気がない。
- ・滝根町を活性化すると大越も活性化する。
- ・広く大きなネットワークで、情報交換をし発展をしたい。（滝根等との連携）

■ワークショップのテーマごとの発表

□生活

- ・地域に関わるきっかけとして仕掛けが何があるか。青年がない。

「結婚」

- ・出会いが少ない。男と女をつなげる。
- ・お見合い結婚。等、少子化を防ぐ策を立てるべき。
- ・男女で、大越でキャンプする。
- ・イベントを通して、男女の絆を深める。

「交通」

- ・らくらくタクシーを田村市全体に拡げる必要がある。

・バス、お年寄りが自由に買い物が出来ない。宅配サービスではなく、自分で買い物出来る環境を。コミュニティーバスが必要。

「文化」

- ・娯楽場。コンテスト。園芸大会を開催したい。地域の人を楽しめるようなイベント。
- ・風習をどう引き継いでいくか。
- ・後世に何かいいことを残す作業。

□産業

- ・カルシウムを軸とした産業。カルシウムきゅうり。カルシウム水。健康としてのイメージもいい。
- ・工場が出来て雇用が出来るのが理想。別の使い方があるのでは。山学校を作るのもあり。
- ・イルミネーションカフェが欲しい。仮設的にイルミネーションをやっている時にカフェを設立する。
- ・駅と中学校の間に温泉が出る。温泉を作る。
- ・情報共有をする。
- ・兼業農業の可能性。平日サラリーマン。休日は農業。農業の収入は少なくてもいいのでは。
- ・山学校は面白いと思う。
- ・採掘現場は活用が出来れば面白いスポットとなるはず。→同意の意見多数あり。しかし要検討。上手く利用したい。行程作業に興味がある。

□地域資源

- ・民泊とバーベキュー
- ・組織作り。評価機能を付随する。
- ・駅前広場の映画やスポーツ観戦。
- ・保存食がこの地域に適している。
- ・娯楽場の活用。駐車場の連携利用による問題解消。
- ・娯楽場の高齢者が楽しめる活用。
- ・ゴミ処理所の誘致も検討。
- ・地ビール。
- ・一つのイベントを娯楽場にて、行政とも協力して行ないたい。一度、満員にしたい。
- ・肉のPR、石灰のPRを娯楽場を行なう。駅から娯楽場までの道路を活かす。
- ・娯楽場にて映画を見たい。試写会を行なう。子供向けと大人向けにプログラムを分けて行なう。
- ・民泊を考えたい。農業体験。どんな組織で、どうやるというのを考えたい。行政でやるのは簡単だが、それでいいのかも分からない。老人をターゲットにしたい。

1. 議事録

名称	第3回ワークショップ		
日時	2009年9月25日 18:00~20:00		
内容	計画実行のための手法について検討		
会場	大越行政局		
参加者	大学		
	UDCT 職員		
	市 PT		
	参加住民	案内状を送付した住民	8名
		そのうち参加者	5名
その他参加者		1名	

質疑応答

佐久間さん 発表された成果を、冊子の形でほしい
 次回の報告の際に配る予定

2、石

体験ツアー あぶくまどうとの連携
 かけいの湯? 温泉と体験ツアーを組み合わせる
 良質な石灰 カルシウム 歯磨き粉 うどん カルシウムの効能を活かす
 鬼のイベント 夏祭り
 10年後の企業誘致、イベント会場化
 良い水を利用した農業体験

意見

カルシウムの話 大越町の農産物にカルシウム、と題うって売り出す
 強い馬の話 どれくらい含まれているのか? 検証が必要

3、駅

議論 今あるものを議論によって吟味する
 参加者が少ない、内容が事前に伝わっていない
 交通の需要の調査
 イベントの回数を増やす

4、娯

市民、企業、行政、その他
 宣伝 昔の服装できてもらおう?
 小回りのきく娯楽場の使い方
 市民の方々の発表の場・駐車場問題

名称	実験検討委員会		
日時	2010年2月2日		
内容	まちづくり実験に向けての意見交換		
会場	大越行政局		
参加者	大学		
	UDCT 職員		
	市 PT		
	参加住民	案内状を送付した住民	8名
		そのうち参加者	4名
その他参加者		1名	

提案についての意見交換

佐久間さん（ひまわり会）

人は大事だが、組織としてどうやってまとめていくのが難しい。民泊はやりやすく、効果もあるのではないかと。外に対する発信もあって、取り込みやすいことがいい。受け入れる農家はたくさんあるはずなので、組織がしっかりすれば自由にできるのではないかと。

橋本さん

学生には感謝をしているが、実際やるのは住民。行政と三者一体でやるべき。行政、企業、ボランティアが力をあわせるべき。ただぼんやりやっても成果があがらない。効果をあげる体制を整えるべき。花の取り組みはお金もあまりかからないし、取り組みやすいのではないかと。学生が何が取り組みやすいと考えているのか意見を聞きたい。初年度は取り組みやすいのから始めた方がいいが、そのうち全てリンクさせて実行していくべき。グリーンツーリズムをやりたかったけど、今までは意見が通らなかった。

佐久間さん

すぐできるものは、花や、農業体験だと思う。重要なのは、まちの人たちがどう思っているのか。まちの人たちが、自分たちのためだと意識をもって取り組まないと意味がない。まちを活性化するのは難しい。労働者がいた時期はまちが潤っていたが、今はそうではない。提案をきっかけとして、住民たち一人一人がやる気を出すことが大事なのではないかと。シンボリックなものが必要。

橋本さん

シンボリックなもので、外に発信していくこと重要。行政もバックアップしていけば、信頼もできて、連携もできる。

区長さん

地元の人の考えがしっかりしていないから活性化しない、うまくいかないのではないかと。人口が増えないことには活性化は進まない。石のツアーもおもしろいと思うが、地元の人が考えをもたないとうまくいかない。

1. 議事録

佐久間さん

農業体験からいろいろ広がるのではないかと。何かを核にして進めていけば、つながっていくのではないかと。

根本さん

議員さんに説明しているが、なかなか理解を得られない。今までのまちづくりは行政主導でやっていて、まちの人はついてこない。これからは住民主導でやっていきたい。東京大学は平成22年度で終わるが、UDCTは平成23年度以降も続く。これからも継続してまちづくりに取り組みたいので、まちの人にも積極的に参加してもらいたい。暗中模索状態だが、とりあえず実験をやってみて前に進みたい。そのためにはPRをしっかりとやりたい。

区長さん

人まかせで終わらせないでほしい。

佐久間さん（我が里）

例えば「石がいい」といっても、何がいいのか。石はカルシウムがあることで、人にいいもの。その良さを伝えるために、行政の力をかりて調査することが必要。

根本さん

ある程度の財源は確保していきたい。

橋本さん

大学と一緒にやるという機会を無駄にしない、という強い精神力が必要。

組織が必要で、組織を行政がバックアップして、のちには組織が主体的に進めていくべき。今のままバラバラだといけな。それぞれの提案を進めていくのはいいが、それよりも組織があって、組織主体で進めた方がもっと早いのではないかと。

三牧さん

ばらばらの組織を重ね合わせたい。提案をきっかけとして話し合う場をもうけたいというイメージ。

橋本さん

大越は小さい地域なので、各地区の個性がはっきりしている。だから、今ある会をつなげるのは難しく、それなら新しい組織をつくる方がいいのではないかと。

橋本さん

娯楽場は、最近イベントをした。ちらしも配ったが、100人くらいしか集まらなかった。一番難しいのは娯楽場なのではないかと。以前にも何回か行っているが、それも100人くらいしか集まらない。発信していくことが難しい。

佐久間さん（我が里）

都会との交流が大事。農も、採石場も都会との差で人をひきつける。娯楽場もそうなのではないか。

三牧さん

農業体験を一つの核として進めていくのがいいのか。そこから他の提案に絡めていくのがいいのか。「農」と「人」で進めていくのがいいのか。

→民泊、花街道を軸にこれから話あう。

「民泊、花街道についての意見交換」

区長さん

100選などにも参加した。今泉の線路沿いのコスモスとか、ちょっとした風景でも魅力的。

佐久間さん

団体が話し合いをするだけでも大きな進歩だと思う。簡単にできることであると思う。機会はどんどんもうけていった方がいい。

三牧さん

花に関して、今後どうしていくかというのを話し合う機会を春くらいにもうけたい。

橋本さん

桜はたくさん植えても、今有名できれいな桜には勝てない。小さくても魅力的にするにはどうしたらいいのか。

三牧さん

小さな桜でも意味づけを花街道などを通して行うことで魅力的になるのではないかな。

橋本さん

自分の家で農業体験の取り組みなどを行っているが、自分一人の力ではどうしようもない。外に発信して認めてもらうのが難しい。行政の力などをかりたい。

三牧さん

大越の取り組みとしてまとめれば、行政も発信しやすいのではないかな。

「民泊はどのようにはじめていけばいいのか。」

橋本さん

何をやるにも女性の協力が必要。

三牧さん

民泊に協力してくれそうな家はあるかな？

橋本さん

1. 議事録

ありそうだけど、信頼してもらわないと難しい。信頼できる発信元でないと安心して協力してくれない。

田中さん

田舎かします事業を船引でやっている。個人的に協力してくれる人はいるが、体制はできていない。まだ進行中。

今後人を集めるには？

区長さんからの呼びかけをしたらいいのではないか。

時間をもうちょっと早めてほしい。

名称	まちづくり実験ワークショップ		
日時	2010年2月2日		
内容	実験の具体的な提案に向けての意見交換 ①民泊体験 ②娯楽場の活用 ③マラソン大会		
会場	大越行政局		
参加者	大学		
	UDCT職員		
	市PT		
	参加住民	案内状を送付した住民	11名
		そのうち参加者	4名
その他参加者		1名	

(1) A

1. 民泊

人	主体	UDCT、行政主体
	受け入れ	お寺、高齢夫婦、空き家利用、もてなしができる家
	対象	小学生
方法	仕組みづくり 農家募集、部落ごとの話し合い、行政から募集要項、行政としての大きな方針の提示、夏休み 空き家を使って、資金援助	
調査	個別訪問部落ごと 地区ごとに候補を出してもらう アンケート 受け入れる農家数の把握	
課題	体制づくり、PR手法、管理人＝町？	
プログラム	炭焼き体験、不自由があってもOK、 個人個人の趣味を生かしたもてなしゲーム	
その他	時期：5～6月くらい	

2. 娯楽場

主体	市民団体、草の会（カラオケ）
用途案	映画、都はるみ（昔ライブをした）、塾・図書館
設備	可動式ステージを揃えた舞台を

1. 議事録

課題	音楽、耐久性が不安、外観は良いけど、駐車場（ガソリンスタンドの広場・学校） *車の騒音は大丈夫
----	--

3. マラソン（イベント）

植栽で魅力アップ

70歳以上なら4kmで十分、ウォーキングの方がよい、よそ見したい。

(2) B

1. 民泊

場所	個人宅に泊まれるのは難しい、集会所、公共施設を使う、業社を利用
方法	段取り、可能なプラン作りをする、もっと具体的な話を、若い意見を出す、最終的なビジョンの持ち方、価格設定、いかに人を集めていかに印象のこるか、まず大越の良さを知ってもらおう。
プログラム	石灰石を活かす、四季を利用して、空気がよい、空気・環境、春:ツジ・夏:ひまわり

2. 娯楽場—賛成

使い方	昔のリバイバル所そして新しいことを、カラオケなど地元の人達集まり、シルバー世代のカラオケ・宴会の場、文化祭を利用して PR する、活用方法いろんな団体、発表した人はいる—>いかに集めるか
用整備	室内の雰囲気はすごい、建物の魅力をどうアピールするか、建物の改修、駐車場の前に人が集まるように、武道館演台を作る、駐車場

3. マラソン

ネーミング：大越あるけあるけ家族大会

課題	何か一つイベントを PR する、一つ一つをどうアピールするか（MAP、写真）歩くだけで集客来るのか？付加価値が必要、景観マップ
その他	行政の考え方を聞きたい、行政参加

(3) C

1. 民泊

受け入れ		交流の進め方（生かすべき）受け入れ値のニーズの把握、受け入れ数、季節ごとに来てほしい、
一緒にやりたい こと	お祭り・行事	門松作り、神社の祭りを見せたい、大越の各家庭の行事、神様を祀る、豊穫際など
	体験	いも掘体験、土に触れる感動、農業の手伝い（ex 田植え、稲刈）、農業体験、山菜とり（キノコ）→調理・食する、山菜をとりに行く、キノコ採り、柿とりをさせたい、ハイヨ体験、料理までできる、まき割りをさせたい、川遊び・釣り・ざっこすくい
お金		例えば一泊 2000 円、家庭の味クジラのひらき、気持ちのお金、家庭ごとの差、お金の問題

2. 娯楽場—賛成

使い方	① 小学校の体育館で演劇、船引「トマト」 ② 音楽鑑賞 ③ 昔やっていたこと 映画上映はあった、のど自慢
問題点	予算の問題

3. マラソン

プログラム	他地区のイベントとの関係 船引のマラソン（常葉）、差別化は？ ⇒民泊との連携、ウォーキング
-------	---

1. 議事録

名称	第1回まちづくり実験実行委員会		
日時	2010年6月19日		
内容	実行委員会発足・実験の実施に向けての意見交換 ①民泊体験 ②娯楽場の活用 ③大越あるきあるき大会		
会場	大越武道館（旧大越娯楽場）		
参加者	大学		
	UDCT 職員		
	市 PT		
	参加住民	案内状を送付した住民	21名
		そのうち参加者	9名
その他参加者		0名	

1 参加者紹介

2 委員会に関して要旨説明

3 意見交換

【運営委員会に関して】

松本：今回参加できなかった人にも参加してもらったほうがよい。

田中：今回の参加者以外にも公募で委員会参加者を募る予定。

遠藤：多くの代表者が参加することで多面的な視点を取り入れることができる。

大橋：委員会素案を作って指針を示すべき。委員会結成の目的等。それが分からないと進まない。

橋本：まちづくりには、強いリーダーシップが必要である。

田中：各地域にそれぞれ団体がおり、それらの団体の代表者を委員会のトップにすると偏りが生じる。団体代表者以外、例えば代表区長に代表をしていただくのが良いと考える。

遠藤：代表区長、行政区長が呼びかけることでまち全体に参加してもらえる。

清水：大越全体の問題であるから、好きな人だけ参加するのはどうかと思う。

遠藤：リーダーを決めて周りが支えていく、トロイカ方式で。

佐久間：継続してゆくことを考えると、好きな人だけというわけにはいかない。代表区長を代表にするのが無難なのではないか。

田中：元気のある人の活動をつなげるのが重要。情報は全地区に流して、やる気ある人に来てもらう。

大橋：行政にも積極的に入ってもらってやるべき。区長の他にも、大字総代さんもいる。

橋本：会長は1名だが、その下に色んな人に入って運営すべき。代表区長がベターではないか。

田中：各方面に参加してもらう旨をお願いする予定。

話し合いの結果、実行委員会の会長は松本代表区長に決定しました。

4 学生資料発表 16:40～ 司会：ソン 発表者：ヨンア、福角、黒川、阿南、小島、竹田

4.1 実験全体の説明（ヨンア）

4.2 娯楽場活用（福角）

橋本：5月時には反対したが、諸イベントと絡めて使用するのであれば、面白いのではないか。

福角：反対意見を再度検討することで娯楽場の重要性を再認識できた。歌舞伎や能などオープニングイベントについて検討中だが、住民と一緒に考えていけたら。

清水：利用する側としては、駐車場など問題があるので一時は反対した。今は、とにかくやってみようという思い。高校生の頃は舞台があって、クラシックコンサートやエレキバンドなどやっていた。行政側の費用の問題も要検討。簡単な演劇ならできる。

黒川：歌舞伎や能を呼ぶ費用を舞台にまわして、大学の演劇部に依頼することも考えている。

橋本：人が集まる広場として、レトロな空間として活用していけばいいのでは。娯楽ということに固執しなくてもよい。

遠藤：オープニングはお金をかけて人を集めるべき。大阪のお笑いとか落語とか。娯楽場の使用料金についても設定してPRしていく。

清水：クラシックや歌舞伎や能などをバスで東京に見に行く、というものをやっている。

田中：実験全体で100万円の予算がある。その中から出していく。

松本：地元の太鼓というもある。

橋本：柳橋の歌舞伎など。歌舞伎は舞台がないと厳しそう。

4.3 民泊（黒川、阿南）

大橋：事例の鴨川には資源があるが、大越にはこれほどの資源がないのではないか。

橋本:大越には大越の素晴らしい魅力がある。

大橋：季節によって何ができるのか。大越らしさを見出していくべき。

佐久間：農家民泊なら農業のことを取り入れる。

橋本：手を上げてやってくれる農家があるのかどうか。

大橋：なにか目玉がないと客がこないかも。

橋本：部分民泊なども可能性としてある。

9月頃は稲刈りのシーズン。9月半ば。

5軒くらいなら受け入れ農家ありそう。

橋本：農家だけでなく、民泊可能な家を探したらどうか。

遠藤：9月19日に音楽隊のイベントがある。

4.4 あるきあるき大会（小島）

渡辺：区でもウォーキングをやったことがある。大越駅→河川敷→行政局→大乘寺（昔話がある、三春の殿様がきて、庭の石を三春に持ち帰って、夜になったら流れてしまった、鳴き石）→鳴神城→鴻巣こうのす（コウノトリ）、鏡池（昔話）→見渡神社→やくし村

2時間～2時間半くらい歩いて、焼き肉パーティをして解散。

黒川：地元の人しか分からないような昔話なども含めてやれたらと思う。

橋本：石灰石採掘場の風景は感動するし、他に類のないものなので、取り入れたら良いと思う。インパクトがあ

1. 議事録

と思う。

黒川：人を集めるというよりも、大越の良いところを見せることが大事。

遠藤：石灰とか葉タバコとか、インパクトを与えるものが必要。

橋本：特徴に乏しいコースだと、人が来ない。距離なども含めよく検討すべきだと思う。

学生：コースに関しては再度検討する。

4.5 さいごに

田中：次回までに実験内容など、詰めていきたい。

委員会の中の分担の話もしていきたい。

松本：区長会などで協力要請をしていきたい。

清水：大越の若い人の話も聞いてみたらいいのでは。

1 田中さんから運営会議の主旨説明

2 学生から資料内容の説明

3 意見交換

【全体】

・実験の説明を別々にやってしまうと、それぞれの実験に関して「なぜやるのか？」という疑問が出てくる。3つの実験がリンクして全体のまちづくり実験に繋がっていくということを強調すべき。

- ・鬼とか太鼓といった要素は入れないのか？太鼓を呼んでもいいのでは。
- ・鬼でまちおこしをした蓄積を生かしてもいいかも。
- ・住民の人たちが継続してまちづくり活動を行っていけるような基礎づくりをしてほしい。

【民泊】

・定住人口を増やすという目的に関しては疑問。あえて言わないほうがいいかも。

【あるき】

- ・イベントは午前中のほうがいいかも。地域性。
- ・昼食の準備が大変ではないか⇒豚汁を用意したり、出店。
- ・おみやげ、昼食、抽選会などがあると喜ばれる。参加者を集められる。
- ・以前の健康ウォークイベントでは太鼓を呼んだ。
- ・歩くことによって健康になるという目的。
- ・大越の人を呼び込むためのイベント性がもっと必要。長く住んでいる人にとっては、もう知っている、という感じ。
- ・歩いて終わりというのでは淋しい。
- ・とりあえずやってみればいいのでは。イベント終了後のアンケートなどを反映させれば。
- ・船引ではマップが綺麗に出来ていて好評だった。そういった要素も大事。
- ・PRの仕方が大事。

以上

名称	第3回まちづくり実験実行委員会		
日時	2010年8月7日		
内容	まちづくり実験の内容を詰める・考現学ワークショップの試し		
会場	大越武道館（旧大越娯楽場）		
参加者	大学		
	UDCT 職員		
	市 PT		
	参加住民	案内状を送付した住民	23名
		そのうち参加者	7名
その他参加者		0名	

娯楽場活用

オープニングイベントについて

実行委員の意見

歌舞伎ははじめに盛り上げるために予定されていたのではないかと。ストーリーが逆になっているような気がする。

ドキュメンタリー

橋本さん ドキュメンタリーリストに入っているが、他の専門家の人と異なりすぎていて大丈夫だろうか。

→住民の方でももう少し増やせるかを

檜枝岐村の報告

準備するものについての確認。

宿泊場所について 田中さんが調整

広報の方法について 回覧板は実施予定。

→いろいろな手段について考えるべき

2階は活用したいが危ないし、手すりが壊れたら建物の価値が減る。

歴史のある建物でやることに意義がある。

9月4日オープニングイベントの予定

時間について 13時から19時を予定している

13時～13時10分 全体あいさつ、主旨説明

～13時30分 展示説明

13時30分～15時30分 考現学WS

～16時30分 出し物（たいこ、三匹獅子）

～19時 Tサロン

19時 終了

オープニングイベント 考えることが多いのではなくて、お祭りらしいことが多いのいいのではないかと。

三匹獅子、たいこ（全部で1時間半）

1. 議事録

三匹獅子 田子屋、いりさんぼう、栗出 20分×3
たいこ 30分

ワークショップ

何か人を呼び込むキャッチフレーズが重要、もっと工夫が必要

三匹獅子をやる理由

地元のもので盛り上げたかった。

細かいことは今後田中さんと地元の方と考えていく。

民泊体験

受け入れ先の確保が急務。今はゼロ。

満足度を上げたい。

体験側の希望はとって、受け入れ先に伝える。

鳴神城址には東屋もあり、活用は可能。虫の問題も大丈夫。

あるきあるき大会

コースはいつ決定なのか。民泊をやるころには決めたい。スケジュール表参照。

採石場がいいが、距離がある。少しきついかも。

コースは最終的には短いコースと長いコースをつくる。

採石場から歩くと、源流や、あぶくま洞のキャンプ場などもある。そのコースも考えられるのではないか。一番大越をアピールできる場所ではないか。一度歩いてみるといい。

アンケート結果

駐車場は、近隣の駐車場を借りることができればイベントをもっとできるかも。

名称	第4回まちづくり実験実行委員会		
日時	2010年10月14日		
内容	大越あるきあるき大会の参加呼びかけの依頼		
会場	大越行政局		
参加者	大学		
	UDCT職員		
	市PT		
	参加住民	案内状を送付した住民	不明
		そのうち参加者	不明
その他参加者		0名	

佐久間さん宅には、民泊体験者が11月に泊まりにくるかも。個人的にアポをとって進めている。

松本区長さん 大越のいいところを広めたいという気持ちがある。回覧板で受け入れたい人がいなかったのが一番問題かも。これから広まったほうがいい。

橋本さん 法律上、お金をとってできない。(民泊レベルでは)。大学、市が一生懸命やっているのはいい。でも、住民がしっかりしないといけない。

議員さん 単発ではだめ。佐久間さんのところはよかった。デザインセンターでやっているから市もやるのではなく、市ももっとしっかりやってほしい。広報をしっかりやってほしい。この取り組みをもっと重要視してほしい。来年度のことについて考えた方がいいのでは？継続してやらないと意味がない。継続できないのならやらない方がいい。

なんであるきあるきなのか？？いつもやっているじゃん。

橋本さん 意識改革ができていない。

松本さん 意識改革をしたい！って問題意識を持っている人が少ない。

佐久間建夫さん 今更、いい発見はできないかもしれない。でも、何もやってみないことには変化がない。どうしたらいいかを今模索している段階。地域の行動を起こさせるきっかけ。

あるきあるきは華の会の協賛になるかも。みんなに許可をしてもらいたい。一人でも多く来て欲しいから、その働きかけをしている。

実験後の成果をしっかりまとめて、市に提案するべき。

遠藤さん

あと、どういう方向でいくのか。まちづくりがどういう方向でいくのかが分からない。協賛には大賛成。あるき

1. 議事録

あるきも、インパクトのあるような実績が必要。

橋本さん 地元にはわからないものがたくさんあるから、地元が頑張るべき。
ソフトとハード。
ハードのサポートは市ができる。

でも、今回の実験は起爆剤の要素がある。地域で頑張っていないといけない。

橋本さん
地元から積極的に働きかけないと、工場誘致ができない。

白石さん
若い人たちはどういうまちにしたいのか。若い人に聞いてもなにもでてこない。
あるきあるきは第一歩。実際に歩いてみて新たな発見があった。

橋本さん
イベントをやるときには、駐在所、行政に許可をもらっている。

あるきあるきは、公民館が6団体に呼びかけている。
防災無線で呼びかける。

資料編 ヒアリング 2009

計 13 人

	ヒアリング実施日	対象者	所属	役職	場所	項目	記録者
1	2009年5月22日	石井氏	大越商工会青年部	会員	大越商工会会議室	・商工会青年部としての活動について ・大越のまちについて ・問題意識	阿南
2	2009年5月22日	佐久間勇氏	まちづくりに関心のある一般男性		佐久間氏自宅	・個人的な活動について ・合併前後の大越の変化について	丸上
3	2009年5月22日	遠藤求氏	大越町観光協会	会長	遠藤氏自宅	・行っている活動（団体として、個人として） ・大越のまちについて ・大越まちづくりに関して重要視するところ	竹田
4	2009年5月23日	橋本重助氏	鳴神華の会	会長	鳴神城近くの広場	・団体で行っている活動 ・大越のまちについて（地域資源）	丸上
5	2009年6月26日	石井氏	大越行政局市民課	職員	大越行政局会議室	・大越の施設について	竹田
6	2009年6月26日	矢吹裕美氏	アーティスト活動		大越行政局会議室	・アーティストとしての活動 ・大越のまちについて ・若い人の考え方、大越について思っていること	竹田
7	2009年6月27日	佐久間建夫氏	我が里を考える会	会長	佐久間氏会社事務所	・セメント工場跡地について ・団体の活動について ・大越のまちについて	竹田
8	2009年6月27日	大越商工会			大越商工会会議室	・大越の商業・産業について ・問題意識	竹田
9	2009年6月28日	佐久間辰一氏	牧野ひまわり会	会長	佐久間氏自宅	・団体の活動について ・他団体との連携について	福角
10	2009年7月24日	新田秋次氏	農家（早稲川）		新田氏自宅	・農業について ・周辺コミュニティについて ・問題意識	竹田
11	2009年7月24日	佐久間良雄氏	町史の編纂者		大越公民館	・編纂者としての活動 ・問題点 ・大越での活動で知っていること	福角
12	2010年2月2日	松本良太氏	鬼太鼓保存会 大越行政局	職員	大越行政局 会議室	・鬼太鼓保存会について	小島
13	2010年2月2日	猪狩徳孝氏	農家（栗出）		猪狩氏自宅	・大越地域の農家について	竹田

ヒアリング NO.	1
ヒアリング実施日	2009年5月22日（金）
ヒアリング対象者	石井さん
所属・役職	大越商工会青年部 会員
場所	大越商工会 会議室
参加者	黒川・竹田・福角・ヨンア・阿南（記録）

○商工会（青年部）について

- ・青年部は40歳以下の、経営者かその跡取りによって運営される。
- ・大越商工会青年部は現在会員数5名。部長、会計、審議委員などの役職があり、石井さんが現在部長を務めている。部長は2年周期で交替。
- ・主な活動としては、寄付金集め、田村地域の商工会会員が集まる総会への出席、納涼花火大会などのイベントの運営、そういったイベントでの屋台出店など。
- ・寄付金集めが一番大変ということで、例年140～150件、総額700万円程度の寄付があり、それを事業費に充てている。

○大越の観光資源について

- ・高柴山：観光協会が力を入れている唯一のもの？毎年開催される山開きイベント。
- ・花火大会：通称レインボーロードにて開催。最近参加者が少ない。
- ・駅前屋台村：駅前広場の屋根をビニールシートで囲んで、屋台を設置。歌手を招致したことも。
- ・つつじヶ丘公園：夏は小学生がプールに通うが、集落から遠いから大変そう。
- ・音楽ホール：バンドの練習、太鼓の練習。太鼓は武道館を使っていたら苦情がきたため。
- ・イベント開催費用の半額が市から支給されるため、赤字になっても何かやろうという声もある。
- ・前会長がやっていたから、やらなくてはならないな、といった伝統意識も。
- ・イベントの参加者は若い人が少なく、区長＋商工会員＋一部の住民で行事を行っている状態。
- ・小学生・中学生に祭りに参加してほしい。（屋台での売り子など）
- ・参加者減によって各地の祭りは無くなりつつある。（下大越盆祭、早稲川、上大越の祭）

石井さんの意見

<住民について>

- ・外部から来た人は不便だというが、住民はそれほど困っていないのではないか？
- ・大越内店舗もなくなりつつあるが、船引や郡山などの周辺地域に車で買い物に行く人が多くそれほど困らない。大越は住民数が減りつつあるのだから店舗がなくなるのは仕方がない。
- ・とにかく、まずは雇用問題。仕事がなければ大越の人口も増えないし、衰退していく一方。
- ・若い人が大越外に出ていってしまうため、商工会自体の存続も危うい。
- ・住民同士の近所づきあいが少なくなってきており、消防団活動や商工会活動への参加も少なくなってきている。

・専業農家ではやっていけない状態。ほとんどの農家が兼業。役場に勤めつつ

<土地利用、施設、道に関して>

・セメント工場跡地の問題がやたらと議論されるが、セメント工場以外にも土地はたくさん余っている。住友セメントとの協議、工場解体など様々な課題が残されているセメント工場ではなく、他の土地を先に有効利用すべき。

・ホテル、公園、役場など、お金をかけた割にうまく使われていない・廃墟化した施設が多い。

・現在の大越を見る限り、道路事業はこれ以上やっても金の無駄遣いなのではないか？交通量の少ない道や使われない施設にお金を使われると、大越の借金が増えて将来大越に住む今の子供たちに申し訳がない。

・減反政策によって余った土地の再利用に関しては以前にも議論があり、花桃などを植えてみた地区もあるようだが、事業化には失敗した地区が多い。

・税金の問題もあり、余っている農地を使うのには課題が残された状態。駅後ろの田んぼなどは放置されていてもったいないのだが。

2. ヒアリング 2009

ヒアリング NO.	2
ヒアリング実施日	2009年5月22日(金) 10:00~10:45
ヒアリング対象者	佐久間勇さん
所属・役職	まちづくりに関心のある一般男性
場所	佐久間氏自宅
参加者	小島・ジフン・丸上(記録)

○佐久間さんの活動

東京在住の友人と2人で、大越に関するビデオを作製した。ビデオは音楽・説明付で15分程度の内容にまとめている。大越を春夏秋冬に分けて説明し、“セメント工場は町に何を残したのか”を問かける内容になっている。三匹獅子舞などを、動画として見ることができ、パンフレットなどよりもわかりやすい。役場に寄付したらしい。

○大越のまちについて

—地域資源について—

高柴山：昔は馬を放牧しておくことで、花の選別を行っていた。

唐笠踊り：駅前の広場で行っている。

—合併前後の意識変化—

合併によって市の行政に関して無関心になった。全体的に自分本位になった。

例えば、福島県の駅伝大会は、全市町村の代表が出るから、大越町代表はどこの誰かがわかっており、それを応援することで、盛り上がる。しかし、合併後は田村市で1チームになるから、どこの誰が出ているのかわからない。すると知り合いが出ていないから興味がなくなる。

・年配者7、8人で“行政にはまかせられない会”(←名称は忘れてしまったらしい)を作った

以前福島大学も何か調査していた。

ヒアリング NO.	3
ヒアリング実施日	2009年5月22日(金)
ヒアリング対象者	遠藤求さん
所属・役職	大越町観光協会 会長(前大越町商工会 会長)
場所	遠藤氏自宅
参加者	三牧・ヨンア・竹田(記録)

○まちについての問題意識

駅を中心としたまちづくりが必要

お年寄りが集まる場所がない

大越に住んでいる子供、学生の意見を聞きたい

○団体で行っている活動(大越を考える会)

駅の大屋根がある場での屋台(3回)

恒例で商工祭がある 10件くらいのお店がでる。毎年秋に開催。

駅の近くの水田付近にある鉱泉・・・今はふたがかかっている それを利用するべき 今は、水田の地主に署名をもらっている。署名活動を今後も継続する予定

ミニ共同墓地公園の設立を目指している

○個人の活動

大越中学校の前の校舎の玄関を残した(自宅周辺の水田に位置)

大越中学校の校舎に使われていた木材に校舎のイラストを印字し、売り出した。

田村市 企業誘致課 壊すと歴史がなくなってしまう。保存するところ、残すところを区別すべき

その他

(シルバーセンターの活動)

木を植える

草刈り

ふすまの張り替え

その他

茅葺きの家は残っていない。昭和40年ごろからトタン屋根に変わってきた。

あぶくまという言葉は全国的に名前が広まっていっている。

2. ヒアリング 2009

ヒアリング NO.	4
ヒアリング実施日	2009年5月23日(土) 10:00~13:00
ヒアリング対象者	橋本重助氏
所属・役職	鳴神華の会 会長
場所	鳴神城の近くの広場
参加者	三牧・小島・ジフン・丸上(記録)

この日はアジサイの植栽のため、午前中から集まり作業をしていた。その間、橋本さんに車で下大越各地や地元の有力者宅に案内してもらった。

昼以降は、広場にて宴会が行われ、流しそうめんやバーベキューをしていた。

○団体・橋本さんの活動について

- ・1年に2回ほど、イベント(山にあじさいを植える)があり、集合する。
- ・地元の小学生などと一緒にイベントもある。
- ・住民の方は、すごく気を使う人が多い。これが邪魔して、若い人をなかなか誘えない。
- ・橋本家は「ななかまど」と呼ばれる7人の地元権力者の一人。

○大越のまちについて

—地域資源について—

- ・坪井畜産は肉牛で農林水産大臣賞を受賞した。
- ・肉牛は1頭80万くらい。東京で売る。坪井畜産では300頭を飼育。
- ・かつては、6~700世帯がタバコ産業を営んでいた。その多くが現在はサラリーマンとなり、数人が酪農へとシフトした。
- ・長源寺の大イチョウ
- ・8月13日に、道を通行止めにして、花火がある。屋台もでる

—生活・住居について—

- ・昔は“かや”によるコミュニティが形成されていた。年ごとに各家の屋根を張り替える作業を共同で行っていた。当時はかや職人もいた。
- ・現在は人間的結束力やまとまりがないと思う。
- ・赤瓦は裕福な家の象徴。屋根の色は流行に流される傾向がある。
- ・[新田]という苗字ばかりの時期があった。

ヒアリング NO.	5
ヒアリング実施日	2009年6月26日
ヒアリング対象者	石井さん
所属・役職	大越行政局市民課
場所	大越行政局 会議室
参加者	福角・丸上・竹田（記録）

○大越の施設について

保育所の計画がある。発注相手は一般公募である。

業者は地区によって違う。1379. 46㎡。1階建て。

敷地造成工事までやっていた。

社会福祉課がその後に受け持つ。

都市計画課にみてもらって工事を着工するという流れである。

児童館、保育所なども同じ施設となり、平成22年度から開設する。

もともとあった建物は、

幼稚園は535年の施設なので老朽化しているため、取り壊しする予定で、保育所は借地なので、地権者と相談することになっている。幼稚園の跡地は公民館などの駐車場にする。

高柴児童館については、牧野、栗出の人の要望を聞いて、利用方法について検討していく。

地元の要望を聞く。

統廃合を行う。ここ2年くらい進んでいる。田村市全体で平成22年度も4つほど計画している。

福祉の公的施設は保健センターがある。母子検診などの保健を担当している。

高齢者関係の福祉はやっていないのか。社会福祉になってしまう。診療所とセンターの後ろの建物。田村市には社会福祉協議会がある。5つの協議会がある。そこは、デイサービスをやっている。施設の維持管理のことで助成を行っている。

大越幼児施設の計画は合併前からあり、

合併してから、田村市総合計画の事業の中に取り込んだ。

田村市の場合は老朽化にともなって一体化した計画をした。

利用者は、定員 150人 幼稚園90 保育60である。あくまでの計算上の定員

利用者は大越の人には限らない。

保護者の都合によって。中には、大越から船引の若草幼稚園に行っている人もいる。

保育費は3歳までは無料。少子化対策として。

2. ヒアリング 2009

ヒアリング NO.	6
ヒアリング実施日	2009年6月26日
ヒアリング対象者	矢吹裕美さん
所属・役職	アーティスト活動をしている若い女性
場所	大越行政局会議室
参加者	丸上・福角・竹田（記録）

○矢吹さんの活動について

大学時代 大阪に住んでいた。大越に帰ってきた。

2000年に帰ってきた。東京で活動していた。

イラストレーターとして活動。

大越がもともと好きだった

大越の文化祭 大越の体育館で 毎年作品を出す機会がある。

空き店舗活用しませんか？というチラシをみてみた。

個展を4月から1ヶ月半くらいだしてみた。

○大越のまちについて

- ・同じ世代はみんな結婚して子供がいる。
- ・前に同級生に聞いてみたけど、あんまり反応がなかった。
- ・子供が小学生とかで忙しい。
- ・大越の人たちはのんびりしている。このままでいいという意見がある。
- ・船引の商店街で活動していると、活動を呼びかけられたり、まったく関心のない人もいる。船引の商店街で活動していると疎外感を感じる。直接はまちづくりに関わっていないけど、結果的に人を呼び込んでいることがいいのではないか。
- ・卒業したら家を出なくちゃいけないっていうものだ、という環境だった。働くなら家をでるという考え方。
- ・今は子供の数が減っているという状態で、あんまり親が子供を手放さないという傾向がある。家にいていいという考え方もある。
- ・フリーペーパーの表紙の関係でインタビューを受けた。
- ・インタビューを喫茶店でやった。まちづくりのことも言った。UDCTのことはカットされた。
- ・商店街の人間関係、交流はかなり大事。どうやってとけ込むか。
- ・船引は夜遅くに若い人がいる。大越はそうではない。
- ・ロケで人が集まった。田舎だから、口コミで広がるのが速い。
- ・各家の花を植えている、前に花いっぱい運動ということがあった。どの家にも同じ花、花の種をあげたりもらったり。
- ・あいさつが多い。前の運動が効果を挙げている。
- ・大越が好きかというアンケートの結果では、大越が好きな子が多い。静かなところでのんびり。人があたたかいという意見がある。
- ・不満はあまりない。車があればどこにでも行ける、船引にもいける。

・なにもないのが好きというのがすごくいいところ。

○まちづくりについて

まちづくりに関わると、ずっと関わらなくちゃいけない気がして、足を踏みこめない。喫茶店でお茶会をして、そこからスタートしている。あんまりメインメンバーにはなりたくない。新聞屋の仕事とイラストレーターの仕事があるため忙しい。

○現在の活動について

郡山のデパートで展示をする。今はその準備をしている。

2. ヒアリング 2009

ヒアリング NO.	7
ヒアリング実施日	2009年6月27日
ヒアリング対象者	佐久間建夫氏
所属・役職	我が里を考える会 会長
場所	佐久間氏の会社事務所
参加者	北沢・前田・三牧・竹田（記録）

○佐久間さんのお仕事について

佐久間さんのお仕事は、石を使った改築工事などで、地元では仕事があまりなく、郡山、いわきなどが多い。仙台や、最近では三郷のしまむらでの仕事を先日に行った。

○セメント産業について

セメント工場では400人くらい働いていた。下請けは550人くらい。

セメント工場の見学ができればおもしろい。

セメント工場を少しずつ壊されはじめ、70mを超える2つの煙突が去年の春になくなった。

その他

貨物輸送は、鉄道から今はトラックに変わった。

○大越（田村）のまちについて

- ・田村の人は評価が高かった。人間性がよく、それがこれからアピールポイントになるのではないか。
- ・うまく団体の力を合わせるべき。
- ・この土地の人は力の合わせ方が下手。
- ・商工会の活動などを把握できていない。
- ・三春が有名なのは、カルシウムを多く含んだ水で育つ桜があるから。しかしもともとその水は大越のもの。

○我が里を考える会について

定期的集まり、勉強会を行っている。

ヒアリング NO.	8
ヒアリング実施日	2009年6月27日
ヒアリング対象者	大越商工会 役員
場所	大越商工会 会議室
参加者	北沢・前田・三牧・竹田（記録）

○産業について

大越は農業のまち 葉タバコが中心だったが、後継者も少なく、今では3件か4件くらいしか残っていない。
 昭和37年に住友セメントが創業した。全盛期は400人くらいの雇用があった。
 昭和39年頃、一番活気があった。もともと滝根にできる予定だった。
 平成12年の廃業を期に、飲み屋などが減った

○商工会について

商工も厳しさを増し、ここ1、2年は特に不景気で商工会をやめていく。
 空き店舗が増えている。特に駅前周辺。
 人数は117名。1年で4～5件廃業
 商工会の収入は、会員の会費と補助金。

○大越駅前・商店街について

かつて大越は貨物の取り扱いが東北で1位
 大越駅ができたのは対象12年頃
 このころは駅前が中心だった。

駅前周辺は、駅前広場での屋台村

2ヶ月くらい女性部によるイルミネーションが行われる
 イベントを行っているが、意識がなかなか高まらない。

大型店舗ができ、影響を受けるが、お年寄りはそのまで行けない。
 高齢化した大越のまちにある商店街をこれからどうして行くかが重要

○イベントについて

商工祭 ここ5、6年行っている。冬は屋台を3回くらいやった。
 地元の歌手を呼んでライブ、カラオケ大会。
 人は来てくれたが、それが後につながるかわからない
 花火大会がある
 物産展があるふるさと館にだしがあるが、今ではベニヤをひいてちょっと外に出すくらいしかできない。だしを通すことができる道を整備したい

2. ヒアリング 2009

○大越の資源について

—温泉—

じゅらく荘、かきぬ湯は今もある。

前は、駅周辺に勘六湯というのがあった

—施設—

つつじヶ丘公園、音楽堂、プールなど、ほとんど利用されていないためもったいない。

下大越のめだかの学校、文部科学省から表彰を受けた。

○大越にある活動

華の会 いろんな地域にイルミネーション

(華の会は鳴神城の保存会の中にある。保存会は350人くらい)

ひまわり会

1年中いろんなイベントをやっている。120戸全てが会員。

ひまわり、あじさい、流しそうめん、ライブなど。

観光協会 高柴山の山開きのPR、ゆうせん寺の桜、花火大会

これから駅の看板もどうにかしなくちゃいけない

牧野、栗出に道の駅の計画がある？

○その他

- ・ 屋根の色は世帯主が決める。15年で1回くらい塗り替えする。足場がいらないければ30万くらいでできる。
- ・ 子どもたちがのびのび遊ぶところがない
- ・ シミズストアはかつて映画館だった昭和31年ごろ一番活気があった。昭和40年頃に東京オリンピックの影響でテレビが普及し、それに伴い映画館がなくなった。
- ・ 三春はリピーターがいるが、鍾乳洞はない。

ヒアリング NO.	9
ヒアリング実施日	2009年6月28日(日) 9:30~
ヒアリング対象者	佐久間辰一さん
所属・役職	牧野ひまわり会 会長
場所	佐久間氏自宅
参加者	小島・竹田・丸上・福角(記録)

○団体の活動について

- ・ ひまわり、コスモス、菜の花、水仙、あじさい
 - ・ 冬はイルミネーションのフェスティバル
 - ・ 毎年場所を変えてするのが理想
 - ・ 有機農地はあちこちで借りられる
 - ・ 国の補助事業で水整備を行っている。(保全会) ←全国的に広がっている
 - ・ 観光協会はあまり何もしていない、PRを手伝ってほしい、お金もかかる
- チラシとHPで行っている、チラシは3万円程かかる
- ・ 色々やりすぎてしかられることもある
 - ・ ひまわり植えの際は一番人が集まるが、みんな他のイベントに参加しているため、毎回みんなが集まるのは難しい(大字会、子ども会、保全会等)
 - ・ メインイベント→祭り、盆踊り(若れん: 牧野地区の42歳までの若い人)
- 昔は青年会があったが、人がいないためなくなった
- ・ よさこい団体等は声を掛ければすぐ来てくれる
 - ・ 花火は鬼の里夏祭り実行委員会の実行委員をしているため、おこなっている
 - ・ 色んな会の連携→それぞれの広報活動にはなっている、協力体制はできている
 - ・ 外から来る人に「ひまわり会」に参加してもらうように声を掛ける
 - ・ ひまわり会は「飲ミネーション」が多い
 - ・ ひまわり会の年齢層は上がっているが、イベントの時等には若い人も協力してくれる
 - ・ 農業高校で農業土木を教えている
 - ・ 高校生をつれてくること→最近難しい
 - ・ 牧野地区全体を盛り上げいくために必要なことは? →人口減少は目に見えているため、難しい
 - ・ 他の地区とすることが難しいのは→能力的に余裕がない、現在はバラバラの状況
 - ・ 各家庭にひまわりを植えること→増えている、種が広がりやすい、家庭のひまわりコンテストもある
 - ・ 他の団体と一緒にした方が都合の良いことは? →何か一緒にできるイベントがあればなおよい
 - ・ 合併後も「牧野地区」で行うことは変わらないのか→全部を把握することは不可能→目が届く範囲で
 - ・ 合併後困ることは→牧野地区としてはあまりない
 - ・ 合併後良いこと→イベント情報の広報誌掲載(市内の人にかかり広まった)や、施設建設等
 - ・ 高柴山に常に展示できるスペースがあれば良い
 - ・ 舗装ももう少し進めてやってもらえれば良いなどと思うが、あまり行政には頼らない姿勢で活動を行っている
 - ・ 高柴山の共有地を〇〇程地域の人で持っている→良いことだと思う

2. ヒアリング 2009

- ・ 開いているところ→ひまわりにすることで放棄田はあまりない
- ・ みんな自分の勤めとは別に行っているため土日が勝負
- ・ 最近蚩が出るようになってきた→一時期はいなかった
- ・ 最近農薬を使わなくなったというのも理由

○大越地区の中で他の活動との連携について

ない。牧野地区の人だけ。種を配ることはある。ボランティアでやっている。補助事業で賄っている。備品等たいてのことはそろそろ。

他の収入源としては、高柴山で食事の販売。

○大越での生活について

- ・ 郡山にも車で 30 分、大きいスーパーにも 10 分、あまり不便を感じない

ヒアリング NO.	10
ヒアリング実施日	2009年7月24日
ヒアリング対象者	新田秋次さん
所属・役職	農家（早稲川）
場所	新田氏自宅
参加者	小島・丸上・ジフン・竹田（記録）

○新田さんの仕事

- ・米+園芸（菊）をつくっている。
- ・家の前に有志でひまわり、ポピーを植えている。

○農業について

海拔 550~770m で大越全域で8割がひとめぼれ、価格も高め。もちっばい。
 寒暖の差があり、夏の野菜は良いものが作れるが、作る人がいない。
 にんじん、花は色が鮮やか。
 野菜専門でするには耕地面積が狭いかも。

農協に出す人：トマト、インゲン、ピーマン、なす（農協の指導による？）

果樹は標高 400m を超えると駄目。気候も寒すぎる。

自家消費：様々なもの

○早稲川について

早稲川：78戸の集落

専業農家は10人未満

他に勤め先がないから専業農家であり、年金生活者も含む。

水稻+タバコ：4人

水稻+野菜：3~4人

8~9割が兼業

野菜→農協

米→1割は農協、他は直売、業者、市場に直接

平均 50a 未満

インターネットによるもの、知人などへ直接消費者に。

小菊：赤、白、黄 78種類

きゅうりはかつてタバコ畑だったところだと農薬を吸ってしまい良くない。

○問題について

跡継ぎ問題については、福島市に居て、少しは手伝うが、跡継ぎにはなってもらえない。
大学に行くと、農家にはならない。

仙台に親だけ単身赴任の人が居る。

子どもが成人式などで帰って来たときに知らないに人ばかりだと駄目だと思って。
親が帰ってくることになっても、子どもが知り合いのいないコミュニティに入りにくい。

○農業体験について

やりたくて来る人なら大歓迎。JA の新入社員が研修で来たことがあったが、忙しい時期に仕事を手伝ってもらえて重宝した。

菊の出荷：6月下旬～7月上旬が忙しい。

身分のちゃんと分かっている人で、働いてもらえるなら無料で泊めても良い。

特別な食事じゃなくて、ありのままで良いならば。

部屋も開いている。

しかし、心配なところは、虫が多いから都会の人は大丈夫なのか。手が汚れる。手袋で細かい仕事は出来ないから素手で作業をし、1週間ぐらいすると手が黒くなって来る。

午前中と夕方だけ仕事をして、日中の暑い時間は休むから、そんなに仕事の時間は長くない。

○早稲川での活動について

ライスセンター：米の脱穀、乾燥 etc

運動会、若連会の盆踊りなどで近隣とのコミュニティ

活発ではないが、楽しみにしている。

牧野のひまわり会ほどの大きな活動はない。

大滝根川の清掃、整備：大越町でやっている。

体育館+運動会：早稲川の人が集まる。

年に1回スポーツ+カラオケ+バーベキュー、殆どの人が出てくる。

大滝根川にカジカという魚がたくさんいたが、今は殆どいない。

石灰石採石の際の土砂などが原因かも。

ホタルは基盤整備（水路の三面張り）後に殆どいなくなった。

高齢化が進んでおり、空き家になっているところもある。

10年ほど前に道路などの基盤整備が始まった。

早稲川地区に来る人はいない。ここにしかない魅力、施設がないから来ない。

○問題点

健康ランドについて

20年前に開業し、10年前に廃業。廃業した為に、道路の整備はストップした。

宿泊施設も素通り。無理して宿泊施設を作った所でペイ出来ない。土地を貸した人も文句を言う。年間の固定資産税は30万円。建物の所有者には連絡しにくい。

建物の固定資産税は払っていない。税金を全く払っていない。

田村郡の人が利用していた。無償の利用券を周辺にバラまいた。

来てもらえると食事、おみやげで金を使うと思っていたが、食事持参で行き、収益が上がらなかった。田村郡外からの利用者は少なかった。

ある程度まとまった土地を買わないと、新規参入出来ない。

10a(1000 m²)で10俵→13万円、経費は12万円。

耕作放棄地などを貸すことは出来るが、借りる人が居ない。

耕作放棄地は点在している。

2. ヒアリング 2009

ヒアリング NO.	11
ヒアリング実施日	7月24日(金) 11:00~12:30
ヒアリング対象者	佐久間良雄さん
所属・役職	町史の編纂者
場所	大越公民館 談話室
参加者	黒川、阿南、福角(記録)

○まちづくり団体について何か知っていることはありますか

→牧野ではいくつか見受けられる、ひまわり会など。

○ひまわり会以外に何かあるか？

「鳴神城保存会」

山の眺望が悪かったため、地域住民の協力のもと木を切ることから始まった。今年で5年目。地域の人々(特に若い世代)に大越に対して興味を持ってもらうことが目的。

会員：350人程、上大越の人が中心、60歳以上の方が多い

総会には20~30人参加

年会費は1000円、県と市から3年間助成金をもらっている

主な活動：ウォークラリー(子供、大人合わせて50~70人程、鳴神城や地域の神社などの歴史の勉強も含む)、案内人の養成(年に1回)、座談会20人程、年2回の草刈り

鳴神城保存会以外にも栗出の保存会、下大越の城跡の保存会等がある

団体同士のつながり：ひまわり会が中心になって、愛宕山の公園でイルミネーションを行ったりしている。イベントはひまわり会が広報活動を行っている。牧野の場合は総代、区長もひまわり会に属しているため、広報しやすい。

大越全体ではなかなかそういうわけにいかない。鳴神城保存会は市から補助金をもらって活動しているため、市や公民館とタイアップしながら行っている。

○町史について

町史研究会の活動期間：41年/24年

町史作成期間：10年位かかった

行政の意向をうけて町史作りを開始した

【参考資料について】

主な資料：江戸時代以降の古文書(民家や庄屋などに残っているもの)、古い地図、住民や議会へのヒアリング調査

大越の昔の写真：まとまったものはない、民家にあるかもしれない

町史作成時に写真の提供を住民に求めたが、あまり集まらなかった。

庄屋もなかなか資料を貸してくれない→以前、県に資料提供した際に資料や物を返してもらえないことがあったため

本家、分家の関係で資料提供が難しいこともある。本来、本家が持っているはずの古文書資料が分家にある場合など、表に出したくないため

中世以前の資料で現存しているものが少ないため、集落の形成過程などを伺い知ることは難しい。中世以前に形成された集落がそのままの形で現在まで続いているものと思われる。

【体制】

協力委員：各部落10人程度、主な仕事は資料収集やヒアリング対象者の選定

編纂室：役場、娯楽場

役人2人、町史担当2人、あと数名で主に行っていた

今後の町史作成は人材がおらず難しい。やるとしたら、役場の生涯学習課が主導でやるしかない。

○佐久間さんの活動について

【「大越町いろんな話」執筆】

若い世代に記憶と記録を継承する目的で「大越町いろんな話」を書いた。

300部ほど出版して諸団体や施設に寄贈したりした

内容は、土地の名前、鳴神城の名前の由来等、地域に伝わる話

情報源は住民の方へのヒアリング。

現在続きを執筆中。

【旧街道検証】

私領巡検使街道を、天明年間当時の古文書をもとに地図におこしている。

【古文書研究会】

月2回、勉強会を公民館で行っている

古文書を読む練習、内容、歴史背景について議論をしたりする

報告書などは作成していない

町史を読む会というのを開いたが、人が集まらなかった

町史を読んでもらえれば、大越に興味を持つ人が増えるのではないか

個々人がばらばらな現在だから、大越のこれからを考え、継続させていくのは本当に難しい。

22年間やってきて、継続していくことの難しさを感じているため、東大の活動がそのようなサークルをつくるきっかけとなれば良い

町史研究会もどんどん高齢化しており、会に入る人がいない

船引の状況も同じらしい

定年退職した人たちが、活動に興味を持ち始める

老人の趣味会のような状態になっており、若い世代に続いていかないのが残念。次の世代に残していかなければいけない、そうでなければ継承されていかない。

誰かがやらなければならないという思いがある。

知識豊富な老人をどのようにうまく使っていか、だと思う

その人たちに、意欲を持ってもらうことが成功の秘訣だと考えている

2. ヒアリング 2009

ヒアリング NO.	12
ヒアリング実施日	2010年2月2日
ヒアリング対象者	松本良太さん
所属・役職	鬼太鼓保存会・大越行政局職員
場所	大越商工会 会議室
参加者	田中・丸上・小島（記録）

○松本さんの活動

大越行政局市民課に勤務する方で、戸籍などを担当している。鬼太鼓保存会にも参加している。

○鬼太鼓保存会の活動

鬼太鼓保存会は、週二回ほど、つつじヶ丘公園内のふれあい音楽館で練習を行っており、市職員が中心であり、平均年齢は20代後半。大越町内だけでなく、田村市の他地域、また福島県内の他の市でも依頼されイベントに参加している。依頼は多く、最近は忙しい。町長からの勧めで参加した人が多いが、今は活動に魅力・やりがいを感じている人が多い。伝統を受け継いで行くことが目的だが、地元の人は太鼓を誇りに思っていない人が多い。以前は大越娯楽場で練習していたが、夜間であったため、近隣住民からの苦情があり、育苗センターに移り、現在はふれあい音楽堂で行っている。昼に娯楽場で行うのは、良いのではないかとのことである。会の人は、協力的で、市から補助金を貰っていることもあり、田村市と東大が行っていることに対しては、協力的であると思うが、自ら主催して、というのは少し難しそうである。

○若者の意見

働く場所があればずっと地元に住たいが、ない。同級生で大越町に残っている人は30%、船引に少し、郡山、仙台、関東圏が多い。大越町に残っている人は病院関係、運送、会社員、アルバイトなど様々である。

○大越のまちについて

大越町全体での話し合いは少ないが、行政区単位では運動会や地震体験、放水など各地区でかなりまとまりがある。船引に近い下大越、牧野栗出は七郷村、早稲川も編入と、大越町でのまとまりは行政区分の経緯からも少なく感じられる。娯楽場については、小さい頃は映画上映、柔道の練習などで使っていたようだが、特に強い印象はない。民泊農業体験は良いと思う。石灰採石場は地元の人でもあまり入った人はいない。駅前広場は、商工会のミニ屋台村で使うが、活用しきれておらず、もったいなく、もっと活用出来るのではないかと。

ヒアリング NO.	13
ヒアリング実施日	2010年2月2日
ヒアリング対象者	猪狩徳孝さん
所属・役職	若手農家（栗出）
場所	猪狩氏自宅
参加者	三牧・ヨンア・竹田（記録）

○農業について

- ・猪狩さんは、東京の多摩の大学で農業を勉強して、ここに来た。
- ・夏秋トマトと米を70aくらいのところでつくっている。トマトがメイン。
- ・この辺りはトマトをつくるにも寒い。なんごう、しらかわはトマトが有名
- ・ほうれん草のあとにトマトに転換した。
- ・トマト産地指定を外されている。下降気味。品質向上がやるべきこと。農家はいいものをつくるべき。安定生産が望ましい。今は勉強段階。
- ・栗出地区で小さい規模で葉タバコをやっているところは少しある。若い人はほとんどいない。小面積で戸数が多い地域 取りまとめてやる人がいなかった。その分、自分の土地に愛着がある。作業面が辛くてやめた人が多い。家の並びの11件中2件しかない。
- ・田村は、様々な気候が特徴的。
- ・ひとめぼれが一番おいしい気候になっている。
- ・こしひかりは高く売れない。だから値段が下がってしまっている。
- ・直売所に野菜を少しずつ売っている。
- ・米は、天日干しが大変。だけど、やめないのは農家のプライド。
- ・トマトは重い。ピーマン、いんげんは軽いからそっちに切り替える人がいる。
- ・現実力は仕事とかが辛い。鉢花も大変。重い。このへんでは三春でやっている。
- ・夏は休む暇ない。出荷が大変。赤くなったらすぐとらないといけない。

○農業に関しての問題

若い人がいない。南郷トマトの産地では、冬はスキーのインストラクターをやっていたりもする。

若い人がいない原因は、成功者がいないからではないか。

小野では、畜産が成功している。

しんちゃん牧場（？）有名中華料理屋におろしたりしている。

人出不足だが、たぶん農業をやりたい人は少ないんじゃないのか。

コンバインが入っていたりする家もある。コンバインは1000万くらいする。

機械化進んでいる。

自分の家の経営を考えるだけで精一杯。

○若い世代について

中学校の同級生は119人中30人くらい。

長男が家にいない家もある。郡山に行く人がやっぱり多い。

いちおう郡山は通勤圏内だけど、通勤はほとんど車。

○農業を通じての交流について

最近トマトつながりで若い人と飲んだ。

牧野小に若い人を泊めて農業体験をしてもらいたいという話をしたりした。

農ネットワークがある。猪狩さんは会長。田村群、田村市。常磐にはいない。

勉強会などもやっている。JA田村で。

○大越のまちについて

スタッフはいるけど、上に立つ人がいない。小野町はそばうちをやったりしている。

行政からのもちかけでは続かない。地域からはじめていかないと。一番元気なのは、子供が独立したくらいの世代かもしれない。いろんな直売所に顔を出している。3地域で施設を使って味噌をつけている。

娯楽場は、週2回、夜に剣道にしか使われていない。指導者の都合もある。

前は書道もやっていた。定員401名になっている。1名は何!?

駐車場がないのが問題。何をやるにも駐車場がないとできない。

大越はベッドタウンでもいいと思っている。

大越の所得率が高い。地域に残っていてくれればいい。

以前行われた合併委員会にて、携帯の通信が通じないとだめだということを訴えた。

情報網を確立していかないと。ひかり。牧野栗出はまだきてない。上大越は3月から。

山間部ならとくに情報伝達は重要。

大越の剣道は歴史が古い。

今は小学生7人くらい。指導をしている。牧野栗出は段もちが多い。

○伝統芸能について

仕舞。保存会。笛をやっている。後継者育成が課題。一番若いのが猪狩さん。ちゃんと教えられる人がいない。

地域の集まりを敬遠する傾向が20代は特にある。

旧暦でやるのが多い。最近は土日に合わせたりもする。

青年団は高校生から25歳くらいまで。10人くらい。大越だと残っているのは栗出だけ。人員不足、面倒だという理由。休みの日はソフトボールやったり、家で焼き肉をしたりしている。地域の団体としてやっていたけど、そうではなくなってきた。仲がよければやる、という傾向がある。

○他地区との関わりについて

牧野と栗出は一緒にはやらない。地域性が違う。栗出77戸、牧野は倍くらい。

いわきといわしろの境がそこだったという噂。

○その他

奥さんは陶芸家。家に釜がある。

陶芸教室もあるけど、サークル活動みたいなので、体験教室みたいなのではない。

場所が欲しい。農協の2階でやったり。グリーンツーリズムに、陶芸を入れてみたらどうか。

資料編 ヒアリング 2010

ヒアリング回数 26回

NO.	ヒアリング実施日	所属	役職	対象者	場所
14	2010年9月17日	大越公民館	館長	山口善吉さん	大越公民館
15	2010年9月17日	田村市役所都市計画課	職員	赤石澤祐一さん	田村市役所
16	2010年10月23日	鳴神華の会会長	会長	橋本重助さん	橋本さん宅
17	2010年10月23日	鳴神華の会会計	会計	三部さん	橋本さん宅
18	2010年10月23日	牧野ひまわり会会長	会長	佐久間辰一さん	佐久間さん宅
19	2010年10月23日	牧野ひまわり会会員	会員	吉田聡さん	佐久間さん宅
20	2010年10月25日	大越行政局	職員	浅理さん	大越行政局
21	2010年10月25日	田村市役所都市計画課	職員	赤石澤祐一さん	田村市役所
22	2010年10月25日	田村市役所都市計画課	職員	佐藤さん	田村市役所
23	2010年10月25日	大越公民館長	館長	山口善吉さん	大越公民館
24	2010年11月2日	大越町観光協会	会長	遠藤求さん	電話でヒアリング
25	2010年11月5日	大越代表区長	大越代表区長	松本昌行さん	大越武道館（旧大越娯楽場）
26	2010年11月5日	我が里を考える会	会長	佐久間建夫さん	佐久間さんの会社
27	2010年11月5日	鳴神華の会	会長	橋本重助さん	橋本さん宅
28	2010年11月25日	牧野ひまわり会	会長	佐久間辰一さん	佐久間さん宅
29	2010年11月25日	牧野ひまわり会	会員	吉田聡さん	佐久間さん宅
30	2010年11月25日	牧野ひまわり会	会員	佐久間こういちさん	佐久間さん宅
31	2010年11月26日	大越行政局産業建設課	職員	香西とぎ子さん	大越行政局
32	2010年11月26日	鳴神華の会 会員	会員	三部秋夫さん	船引飲食店
33	2011年1月9日	牧野ひまわり会	会長	佐久間辰一さん	佐久間さん宅
34	2011年1月9日	田子屋地域づくり推進会	前会長 現会員	大橋重信さん	大橋さん宅
35	2011年1月9日	鳴神華の会	会長	橋本重助さん	橋本さん宅
36	2011年1月9日	鳴神華の会 会員	会員	三部秋夫さん	下大越飲食店
37	2011年1月9日	大越行政局産業建設課	職員	香西とぎ子さん	香西さん宅
38	2011年1月14日	我が里を考える会	会長	佐久間建夫さん	FAX
39	2011年1月18日	田村市役所都市計画課	職員	赤石澤祐一さん	e-mail

3. ヒアリング 2010

ヒアリング NO.	16
ヒアリング実施日	2010年10月23日(土)
ヒアリング対象者	橋本重助さん
所属・役職	鳴神華の会 会長
場所	橋本氏自宅
参加者	竹田

■ 華の会の結成目的

町を活性化するために、以前からユートピア構想というのを持っていた。それを基に活動することを目的として結成した。

■ 結成 平成15年(活動は平成16年から)

■ 活動内容

当初は、桜の木を植えた。保存会バックアップで、鳴神城に水芭蕉を植えた。七夕、イルミネーションは個人ではやっていたが、会の活動まで広げた。七夕祭り、イルミネーションも行っている。会で設定した活動日以外に、橋本さん個人で草刈りなどの作業を行っている。目的達成のためには手段を選ばない。一部に反対する人もいる。

保存会 鳴神城の整備を行っている。だいたい春秋の年2回草刈りを役員で行っている。活動がほとんどなく、会員から抜ける人も多い。

■ 活動の変化

会長が橋本さんになってから、活動が活発になってきた。

■ 資金

会費3000円のみで運営している。補助金などは一切もらわない考えだが、イルミネーションは合併した町に出る補助金で行った。イルミネーションの補助は3年分もらい終わっている。補助金をもらって行政との関わりができると、活動が自由に出来ないのではないかという考えがある。七夕も、華の会名義で補助金をもらって活動した。

■ 会員

平成15年6名、平成16年8名→現在42名

橋本さんは2代目の会長。

■ 議論の場

役員会、反省会もほとんどは橋本さん宅で行う。春の総会、七夕、イルミネーションなど、年の行事に合わせて毎年4回行う。保存会の総会は公民館で行うが、ほとんど集まらない。

■ 華の会が及ぼした影響

■ その他

- ・ 遠藤求さんとの関わりは以前からあった。
- ・ 橋本家は300年続く家であるため、橋本さん自身、地域を活性化しなくてはいけないという責任感がある。
- ・ 東大学生3人、研究員1人をを2009年度6月に泊める。実際にお酒を飲みながら地域の人と話さないと実態がわからないだろうと思い、計画した。

■ 行政との関わり

ほとんどない。イルミネーションの助成、七夕の助成を少しもらった程度。

■ 地区以外での関わり

ほとんどないが、会員は地区を限定しているわけではないので、他地区の人も受け入れている。

■ 今後の活動ビジョン

鳴神城華の会と保存会の合同で活動することがいいと考えている。合同の祭りを開催し、多くの人に来てもらうことが活性化に繋がるのではないかと。しかし、まだ早いのではないかと、という意見が多くあり、先延ばしにしている。

■ 鳴神保存会と華の会

保存会は華の会の後に出来た。

保存会の目的

せっかくの大越の資源でもある鳴神城を保存することで、大越の活性化につなげることが目的。7年くらい活動。橋本さんが副会長。会の人数は300名で、大越全域に会員がいる。年会費1000円。あじさいを植えている。保存会は、補助をもらって活動している。階段をつくり、木を伐採するなど。

■ 大学協働まちづくりに参加したきっかけ

家に手紙が届いたから。東大協働のまちづくりを行っていたことは広報によって知っていた。大越でやることもわかっていた。

■ 参加しつづけた理由

町を変えるためにはやらなくちゃいけない、という気持ちがあった。

■ まちづくりに参加していて変化したこと

大学生、行政がやっていることをみて、刺激を受けた。刺激を受けた結果、きのこ汁をふるまうことに繋がった。

■ 外部の大学が入ったことで変わった変化

外部の大学生が一生懸命活動しているのに、地元が力をいれないわけにはいかない。何か出来ることからやらなくちゃいけないという気持ちになった。

三部さん

外部の大学生がやるまちづくりと、地元だけでやるまちづくりではどのような違いがあるのかを気にするようになった。都会の人が考えることと、地元が考えることの違いに気付くこともある。大学生が考えることは斬新なことであり、それを拒否するのではなく、一つの考え方として受け止めることが大切。

■ 考え方が変わったきっかけは

大学側と考え方が違ったのは、娯楽場に関する活用のこと。5月の実験検討委員会で大学側と対立をして、考え方を変えなければいけないと思って変えた。大学生だって真剣に考えているのが分かった。それまでは、ただ提案されたものを鵜呑みにするのがダメだと思っていた。

■ このまちづくりの仕組みの中での変化（実行委員会を設定して行ったこと）

ひまわり会の人と同じテーブルにつくだけでも大きなことだった。プライベートでの交流はまだないが、そのう

ちあるかもしれない。

■ 一番力を入れたいこと

■ その他

- ・ 民泊の時の鳴神城のどじょう・きのこ汁、あるきの時のきのこ汁は、行政ではなくて住民自ら何かしなくてはいけないという強い思いがあったから。
- ・ 10月14日の実行委員会までは、行政で豚汁を用意するつもりだということを知らなかった。
- ・ 東大生も行政も頑張っているのに、住民が何もしなかったらそのまま終わってしまう。
- ・ イルミネーションは、合併した時の町の基金があり、町はイルミネーションに使うことにしたことがきっかけで大越の中で発展した。
- ・ 佐久間さん（ひまわり会）の目的意識とは異なると思っている。
- ・ 組織として、入るのも抜けるのも自由であった方が活動もしやすく、成果を出しやすいのではないかな。
- ・ 会議の時ではいつも思うのは、出来ないという意見ではなく、プラス思考の意見、考え方にすべき。
- ・ 新しく生まれた組織であるから、ひまわり会などよりは、この協働まちづくりに対して積極的に参加できている。田子屋の人は会議に継続して参加していない。

■ あるきあるきに関して

- ・ 近所の人は何のためのあるきあるきかよく分かっていなかった。橋本さんは目的を理解しており、その状態ではいけないという気持ちから、看板を立て告知を行い、イベント当日はきのこ汁を用意した。しかし、一般人から見たら浮いていると思われていると思っている。
- ・ 広報で告知するようになったので、イベントの情報は伝わって、近所でも話をするようになった。以前は回覧だけであったので、伝わっていなかった。

■ 娯楽場に関して

武道館は、まちづくりに関してあまり眼中になかった。5月の意見の対立以来、どうしたら娯楽場が活用できるかと考えるようになった。多目的ホースとして使い、建物の価値をPRしていくべき。

橋本さんの奥さん

大越の中でも、地域によって仲が悪い。中学の同窓会を行っても、他大字とはグループが違うことがある。それは、生活の中心が異なっているから。話が合わないこともあるし、そうってしまう。

ヒアリング NO.	18
ヒアリング実施日	2010年10月23日(土)
ヒアリング対象者	佐久間辰一さん
所属・役職	牧野ひまわり会 会長
場所	佐久間氏自宅
参加者	竹田

■ 結成目的

大越町牧野地区は、平成5年度から大規模区画ほ場整備が実施され、営農体型や景観も大きく変わってしまった。以前のような自然環境や人間関係を取り戻せないかと、有志で会を立ち上げた。

手始めに、当時テレビで話題であったひまわりの植栽を行った。有志により会員募集を行い、約90戸の賛同を得て、国道沿い、町道沿い、河川沿いに約5000本のひまわりを植えた。満開となった8月に花見を兼ねて設立総会を開催し、正式に「ひまわり会」が発足した。

■ 結成 1996年4月 有志16名

■ 活動内容

はじめは、ひまわりの植栽しか行っていなかったが、段々活動内容も、活動規模も広がってきた。活動内容が広がる中で、ひまわり会の活動として適切でないものもあるのではないかという意見も出てきた。活動機会が多くなることで、継続的に参加することが困難になったという見方もある。

- ・ ひまわり植栽
- ・ 愛宕山つつじ公園づくり
- ・ 高柴山登山道沿いの公園づくりとアジサイ植栽
- ・ コスモス植栽
- ・ ひまわりを使った特産品づくり
- ・ ひまわりコンクールの実施
- ・ イルミネーション（2001年から。2002年から県の地域づくりサポート事業の補助を受けている。）
12月第1日曜日。
- ・ 県の花いっぱいコンクール出品
- ・ イベントへの参加（町、小学校の文化祭）
- ・ 高柴山でのイベントと出店
- ・ 牧野地区の行事への参加

■ 活動の変化

- ・ 活動規模の変化

遊休畑などにも植栽するようになり、平成16年には3万本となった。

- ・ 活動内容の変化

ひまわり植栽だけではなく、ひまわりを活用して、染め物・茎の杖などを作るようになった。また、コンクー

3. ヒアリング 2010

ル主催や、県のコンクールへの出品などひまわりを通じて活動内容が広がった。高柴山でのイベントは、若連が当初から以前から活動していて、ひまわり会が参加したのは少し後から。

・活動団体の変化

老人クラブ、子供会、母親クラブ、牧野若連の協力を得て活動している。

■ 資金

年会費1000円

活動経費は1年間で100万くらいかかる。

県内の何力所かが認定される事業に、牧野保全会（育成会、農地組合、消防団、老人クラブなど）が事業に該当した。遊休農地を活動して景観作物を植えたことが先端的な活動として評価された。国のモデル事業に認定され、5年間補助金が出る。2010年度は4年目。年に220万ほどもらえる。保全会の中で団体ごとの役割を決めて、補助金を分配している。

宝くじの補助が一番大きい。県の補助も3年間もらったこともある。

市の補助はほとんどない。申請する時に行政との関わりはあるが、直接補助をもらうことはほとんどない。

■ 会員

現在は101戸の住民である。2、3年前から、牧野住民以外に、歌手の菊池章夫さんのメンバー10名ほどが加入している。

基本的に結成当初から全戸加入であり、特に全戸加入にこだわった訳ではなく、有志が呼びかけたら、牧野住民が応じたということである。全戸加入であるため、活動がしやすい。

■ 議論の場

総会は毎年5月に1回行う。場所はセンター。古いセンターもひまわり会では毎週使っていた。現在では新築のセンターで議論をしている。

前センター 牧野地区でつくったセンター。(牧野生活改善センター)

現センター 田村市が合併後の大越町の中で初めてつくった建物。

※ 牧野は、官有地であった高柴山が払い下げられる際に、山を共有地としたため、各戸に分配せず、地域の資金としての蓄えがあった。一方、隣の大字の栗出では分配した。そのようなまとまりがあるからこそ、ひまわり会は活動しやすいのではないか。

■ ひまわり会が及ぼした影響

地域に

高柴山は、以前は山登りをする人はいたが、それに合わせたイベントの開催などはなかった。ひまわり会が高柴山で活動を行うようになってから、イベント規模を大きくなった。

■ その他

- ・ ひまわり会の活動でお金を得る訳ではないため、本腰入れてではできない。しかし、多くの作業が必要であり、時間はかかる。
- ・ 牧野では、青年団の後に若連をつくった。若連とひまわり会は特に協力して活動している。

- ・ 栗出は活動があまりないが、青年団の活動は残っている。
- ・ 田村市ではイルミネーションに対して個人に補助が出る。
- ・ イルミネーションの先駆けはひまわり会だが、現在では大越全域に広がり、規模では負けてしまっているかもしれない。
- ・ ひまわり会の中には、手に職を持っている人が多いため、活動も自分たちで出来る。
- ・ 技術も資金も土地もあることが活動のしやすさに繋がっている。

■ 行政との関わり

ひまわり会から関わることはほとんどなく、補助を受けるときに仲介役として関わる程度であるが、行政からひまわり会への働きかけはたまにある。

行政からの働きかけ

- ・ 広報
- ・ 会長あてのお願い（町の文化祭、観光協会の理事、博覧会への活動紹介のお願い）

会としての行政との関わりはほとんどない。

■ 地区以外での関わり

あまりない。他の地区の人から言わせると、よく活動すると思われる。栗出にはそういう活動がない。

■ 今後の活動ビジョン

高齢化。ひまわり会全戸加入であるが、活動に参加しない人が多い。最後は原点に戻るかも。

■ まちづくりに参加したきっかけ

DM がきた。大学協働まちづくりを田村市が行っていることは広報誌で知っていた。大越町でもまちづくりをすることは知らなかった。成功させなければいけないという気持ちになった。

■ 参加しつづけた理由

当初は、大越町のためというよりも、牧野のために何かプラスになるかもしれないと思った。人と人との交流が大事だと思っている。交流しだいで、直接都会の人に野菜を届けることも可能かもしれない。おいしいものを低価格で食べてもらいたいし、お金も入る。民泊はそのための第一歩だと思って参加した。

※ 常葉は中野区の施設がある。交流があつてうらやましい。

■ まちづくりに参加していて変化したこと

まちづくりのことで牧野以外に出ることがなかったが、橋本さんをはじめ、多くの人と知り合うことが出来た。多くの人の異なる考え方が分かったことが大きかった。ひまわり会としても、民泊に参加した人は、他地区のことに目を向ける機会になった。

■ 外部の大学が入ったことで変わった変化

いい刺激になった。東京大学というだけでもインパクトが大きかった。多くの人が心配するようにこれで終わり

3. ヒアリング 2010

にしないで継続することが大事。

■ 考え方が変わったきっかけは

ひまわり会のことしか考えていなかった。橋本さんたちとの関わりがあって、町全体のことを考えるようになった。時期は実験が始まったくらいから。2009年度のように大勢でかしまった場ではお互いのことをよくわからない。それに対して、実験のように一緒に何かをするという状況ではよくわかった。

まだ、実行委員会や実験当日以外での関わりはないが、今後は増やしていきたいと思っている。

■ 他の団体の人との関わり

鳴神城址に初めて行ったこと。あるきのコースの石灰場も知らなかった。小さいまちの中でもわからないことはたくさんあると実感した。以前は七郷村であったため、大越町に属してる意識が低い。他地区との付き合いもなかった。

■ このまちづくりの仕組みの中での変化（実行委員会を設定して行ったこと）

まちづくりは、本当は自然発生的な取組みが望ましいと思っている。しかし、このように今まで関わりがなかった人達を集めて話し合いの場を設けることで得たものはたくさんある。

■ 一番力を入れたいこと

民泊をきっかけにして交流を進めたい。民泊の効果が大きいと思う。

ヒアリング NO.	20
ヒアリング実施日	2010年10月25日(月)
ヒアリング対象者	浅理さん
所属・役職	大越行政局 職員
場所	大越行政局
参加者	竹田

組織の結成起源は大越町史に書かれている。

組織の結成時期をヒアリングすると昭和30年頃が多いが、それ以前からあるものもある。戦争で一度途切れたことが原因である。

■大越地区の地縁組織について

青年団は25歳まで

若連、青年会はだいたい活動も同じであり、42歳まで(厄年と関係がある)

白山青年会

当初は山口・白石が中心で活動しており、五斗蒔、水神宮の後、薬師堂、求中も入った。五斗蒔、水神宮はセメント工場従業者が住み始めた地域である。水神宮はもとは畑であったが、セメント工場の資材置き場、グラウンドを経て、現在の大越行政局が建った。白山区求中は1970年ごろに出来た。(それ以前は三洞区に含まれる)。白山はセメント工場の影響を最も受けている地区である。スポーツ会、9月の祭り、どんと焼きを活動。スポーツ会は体育館で行う。会議は集会所で行う。現在は白山コミュニティセンターとなっている。

奉納踊りは、観照寺の祭礼に合わせて行われている。

・白山もみじ会

青年会が終わった後の組織。活動は、青年会のバックアップ。老人会に入る前まで。26歳～60歳まで。

・白山区スポーツ会

実際に運営するのは青年会が行っている。行政区長が人を集めたいときに、スポーツを目的として集めると人が集まると考えたのではないか。

■大越町鬼五郎幡五郎和太鼓保存会

1990年から活動。大越町で価値あるものとして保存してきた。役場職員も会員となり、保存する体制が出来ていた。1988年～1989年のふるさと創生(竹下内閣)の時に太鼓を揃えた。当初は25人から現在は12人ほど。平日の夜に練習をし、5月～10月を中心に市内で30公演ほど行う。太鼓もまちづくりの一つとして捉えており、ただ活動するだけでなく、演奏で多くの人に発信できるものであることに意味がある。

■その他

- ・大越の人間性は、新旧住民隔たりなく関係性を構築できる特徴がある。それは、セメント工場で働くという共

3. ヒアリング 2010

通性があるからである。

- ・ 畑が少なくなったのは、セメント工場の方が稼げる場であったため。セメント工場がこなかったらまだ葉たばこ産業が盛んであったのではないか。
- ・ 栗出青年団が残っているのは、まだ栗出では農業従事者が多いから。町郷、元池は商売をやっていた人が多く、土地をもっていないから人口減少が進む。
- ・ 集会所は集落単位で設置されている。
- ・ 住民と職員の隔たりはない。

■ 区長の選出

- ・ 大越では持ち回りで区長を決めている。(現在は松本区長)。船引のような立候補制とは異なる。

■ 他組織との連携はあるか

- ・ 青年団は、栗出と下大越が最後まで残っていた。10年ほど前から、栗出と下大越で連携して、祭りを開催していた。しかし、下大越青年団は解散した。

■ 地域のイベント

- ・ 大越夏祭り 8月13日 鬼太鼓上演、大声大会、1200発の花火打ち上げ

■ 市PJチームに入っていない行政からの意見

- ・ この協働まちづくりに取り組む学生も変化してしまうが、市職員も変わってしまっている。市としてこのプロジェクトに真剣に取り組んでいるのか分からない。

ヒアリング NO.	21
ヒアリング実施日	2010年10月25日(月)
ヒアリング対象者	赤石澤祐一さん
所属・役職	田村市役所都市計画課
場所	田村市役所
参加者	竹田

■合併前、合併後のまちづくりの業務の内容の変化

合併によるまちづくりの変化は特にないと思う。市長がまちづくりに対して本腰を入れてない。市長の住民サービスはハード整備に偏っているため。しかしながら今回の東大が参加してのまちづくりにより住民がまちづくりに対して興味を持つようになり、住民が心の中持っている市制に対する意見が出せる場ができたと思う。

また、本来であれば市の総合計画等で市のまちづくりのビジョンがあり、その理念や方向性に基づいて、進んでいくのに都市計画課におまかせの業務では、将来のまちづくりにつながらないと思う。

■クラスター方式とは。メリット、デメリットは何か。

クラスター方式とは、各地区である程度の機能（予算）を持ち業務を進めていく方式である。メリットはどの地域でも平等に同じ事業ができること。デメリットは拠点集約型の都市構造にならず市が発展しないで合併前となら変わらない。

■田村市と田村市行政区長連合会の関係（行政と住民の関係の仕組みについて）

区長連合会は5地区の区長会長で組織する。住民の代表でありある程度、権限もあるが、地区によっては区長会長よりも大字会長が強いところもある。

区長連合会は住民代表であるから頑張ろうと思っているのは船引の星区長くらいかと思う。

■地域内の関係性（船引と大越の違い、星区長と松本区長）

地域性は過去の産業形態に影響されていると思う。船引地域は商業、大越地域は農業で栄えた地域であるため、船引地域は積極性があり、大越地域は消極的であるように思われる。また、地域毎に区長の役割や位置づけが異なり、船引地区であれば、区長が住民の代表であるため、地域の困りごとなど区長が取りまとめる。例え市議会議員が相談にきてても区長に話を通してもらっている。大越地区は、順番で区長会長を決めているようなので、あまり住民代表の意識がないと思われる。

■UDCTの今後の位置づけ（田中さんがいなくなった後）

私的には永久的に存続していきたいと思っている。最初は職員で運営し、いずれは地域住民で運営管理して、地域のまちづくり拠点にしたい。ただ市としては予算確保が困難なため、常葉地区が終われば手を引くような感じなので、星区長を巻き込んで地元から盛り上げるようお願いをしている。

3. ヒアリング 2010

ヒアリング NO.	22
ヒアリング実施日	2010年10月25日(月)
ヒアリング対象者	佐藤建志さん
所属・役職	田村市役所都市計画課
場所	田村市役所
参加者	竹田

■あるきあるき大会の担当であったが、どうだったか？

あるきあるき大会では、呼びかけたことが大きかったと思う。

準備などを積極的に行ったが、それは業務であるという認識が強い。

ヒアリング NO.	24
ヒアリング実施日	2010年11月2日
ヒアリング対象者	遠藤求さん
所属・役職	大越町観光協会 会長
方法	電話にてヒアリング
参加者	竹田

■ヒアリング調査を行いたいのですが。

コメントすることはない。

行政と住民が考えていることに食い違いがある。個人的な思いが強いので、資料に残るようなコメントはあまりしないようにしたい。

■ 歌舞伎の時の屋台村の開催にあたって

- ・あるきあるき大会の後に行った鳩屋旅館での反省会で、話していて盛り上がり、開催することにした。

3. ヒアリング 2010

ヒアリング NO.	25
ヒアリング実施日	2010年11月5日
ヒアリング対象者	松本昌行さん
所属・役職	大越代表区長 三洞区長
場所	大越武道館
参加者	竹田

■ 代表区長になった時期は？

2009年度～2010年度の2年間 たまたま、明部渕の代表が三洞区長になる番であったので、三洞区長となった。三洞区長が大越の代表区長になる順番であったため、松本さんが代表区長となった。代表区長になった2009年度から大越でまちづくりが始まり、2010年度に実行委員会を立ち上げる際に会長となった。

■ 代表区長の活動内容

各行政区に回覧版（毎月1日、15日）を届ける役割。住民からでた意見を行政に伝えるパイプ役を行っている。代表区長になったことで、多くの組織の代表になった。

■ 行政との関わり

パイプ役としての関わり。行政区長で行く旅行と一緒にいたりなど。

■ 地区（大越）以外での関わり

都路、常葉、滝根などの区長と飲み会などがある。

■ 地区（三洞区）以外での関わり

年3、4回ある行政区長会議で交流がある。旅行を企画するなど。

■ まちづくりに参加したきっかけ

代表区長であったから、立場上参加した。

■ 参加しつづけた理由

1回目は立場上参加をしたが、その次からは、出ないと無責任だと感じて参加し続けた。

■ まちづくりに参加していて変化したこと

はじめの頃、実行委員代表にはなりたくなかった。でも、周りの人の意見を聞いて、やるしかないという気に変化していった。

民泊で受け入れ側を募集したとき、一軒も集まらなかった。実際に計画をしてみることで、今後継続させて行くことは難しいと思った。それに比べ、あるきあるき大会は継続するのに向いていると実感した。

■ 考え方が変わったきっかけは？外部の大学が入ったことで変わった変化は？

歌舞伎の時のあいさつは本当は荷が重くてしたくないが、しなくてはいけない。あいさつでは、今後のまちづくりについての話をしたい。そう思ったのは、2009年度のワークショップなどで学生側の話を聞いていたこと、計画をして実験をしたことが変わったきっかけ。やらなくちゃいけない、というより「やっていきたい」。

■ 住民実行委員からの動き

あるきあるき大会後の反省会で、遠藤さん、大橋さん、松本さんで、「歌舞伎の日に屋台村をあろう」という話になった。その後、松本さんと遠藤さんが田中さんの元を訪れ、話し合いを行った。遠藤さんと松本さんが担当となったのは、遠藤さんが娯楽場担当であったため。住民の担当を意識している。

■ 実行委員会の中での関係性の変化

佐久間さん（ひまわり会）とは、観光協会で知り合いだった。しかし、あまり話したことはなく、実行委員会を通じて親しくなった。上大越の中では接触があったが、大字が違くと全く交流がなかった。遠藤さんとは、2009年度から観光協会の会長と副会長の関係であり、ほぼ同時期に実行委員会が発足した。

■ 今後は？

区長は2011年の3月までであるため、その後も継続して実行委員会の代表になるわけにはいかない。しかし、このまま抜けるのも無責任であるため、委員としては残るつもり。

■ その他

- ・ 住民実行委員の中には、まちづくりに対して思いの強い人がたくさんいる。しかし、思いが強すぎて人がついていけるかが心配。
- ・ 行政区長でも、会議に来ない人は大勢いる。自分が出たところで仕方ないと思っている。松本さん自身は、行政区長さんに声を掛けているが、効果がない。楽しんでまちづくりをやれていない。仕事のように感じてしまう。
- ・ 代表としての仕事で頭がいっぱいで、実験を盛り上げるための企画にはあまり頭が回らなかった。
- ・ 継続するのであれば、少しでもお金を市から出してもらいたい。全くないと、これまでの積み重ねがなくなってしまう気がする。
- ・ 今後も反省会を続けて行くべき。（お酒を飲みながら）

3. ヒアリング 2010

ヒアリング NO.	26
ヒアリング実施日	2010年11月5日
ヒアリング対象者	佐久間建夫さん
所属・役職	我が里を考える会 会長
場所	佐久間氏会社事務所
参加者	竹田・ヨンア

■ 結成目的

周辺の住民と、問題意識を持ち、有志で「我が里を考える会」を立ち上げた。子供、孫たちはもう大越に住めないんじゃないかと思ったときに、なんとかしなければならぬと思った。働く場所がないため、セメント工場跡地に工場を誘致してもらえたらいいという考え。そのために何かプラスになるような働きかけをしなければならぬ。一人ではなく、グループを作り、地域の声として意見をまとめることが必要だと考えた。

白石さんとの出会い

「移動市長室」で市長が大越に来た。白石さんが、セメント工場跡地について市長に意見を出してくれた。それまでは地域であいさつ程度しかしていなかった。

■ 結成 平成20年3月 有志10名

■ 活動内容

セメント工場に詳しい人を読んで講義を受ける。話し合いをする。今まで10回ほど続けている。福島大学大学生や、市長を呼んだ。

■ 活動の変化

■ 資金 なし

■ 会員

同じ地域で、問題意識を持った人と、区長2人。佐久間さんが会員になってほしい人に呼びかけて会員を増やしていった。

■ 行政との関わり

直接的にはないが、会員に行政区長2人を入れており、いつでも意見を行政に通しやすい環境をつくっている。

■ 地区以外での関わり

まちづくり組織を大きくして、大きな力にしたいという考えはある。山登り会、カラオケ会などの団体ではなく、しっかり問題意識を共有して活動することに意味があるが、まとまっていない。これまで、牧野の佐久間さんとは顔見知り程度で、話し合う機会は全くなかった。

■ 今後の活動ビジョン

規模を大きくして、大きな力にしたい。

■ まちづくりに参加したきっかけ

船引まちづくりに少し参加していたことがきっかけ。柳沼さん（市役所）と知り合いになった。当初はまちづくりがよくわからなかったが、まちづくり実験が始まるとよく分かり、いずれは大越でもやるべきだと考えていた。

■ 参加しつづけた理由

■ まちづくりに参加していて変化したこと

あるきあるき大会は、大越外部の人を呼び開催するものだと考えていたため、学生が提案したものは食い違っていた。佐久間さんが仕事により2回連続で会議を欠席してしまったことで話は進んでしまった。自分が会議に出ていなかったからと言って、本番にも参加しないのは無責任だと感じたこと、まずやってみることが大事だと思ったことから、10月14日の実行委員会では前向きな発言をした。

あるきあるき本番では、会のメンバーに協力を呼びかけた。その結果6名ほどがスタッフとして参加してくれた。交通安全の係も、佐久間さんが行政局に呼びかけたことで実現した。

■ 考え方が変わったきっかけ

学生が頑張っている姿をみて、考え方を変えなくてはいけないと思った。学生が考えていることはどういうことか、と考えるようになった。10月14日の会議の時に前向きにやろう！と決心した。

■ 外部の大学が入ったことで変わった変化

大学が大越まちづくりに関わっている機会を無駄にしないことが重要。きっかけにして実行するべきだと思っている。

■ 実験をやってみて分かったこと

始めのころは、あるきあるきをやっても意味ないと思っていた。

学生が考えた計画について、文句を言うのではなく、やってみることが大事だということに気付かされた。工場誘致のことしか頭になかったから思いつかなかったが、実験で行ったことは工場誘致にもつながってくるのだということが分かった。

■ 実行委員会に白石さんを入れた理由

一つ目は、仕事との掛け持ちで、あまり参加できない可能性があったため。同じ会で共有意識を持っている白石さんをメンバーに入れてもらった。二つ目は、実行委員会に実兄がいたため。兄弟で委員をやるのは抵抗があった。表舞台には出ずに、陰ながら協力する形の方がいいと思った。

■ 他の団体の人との関わり・このまちづくりの仕組みの中での変化（実行委員会を設定して）

実行委員会で、違う地区の人とまちについて話し合えたこと、知り合えたことはものすごくいい機会だった。これからももっと話していかなければならない。

3. ヒアリング 2010

■ 今後は？

もう実行委員会は終了するが、どうまとめをするかが重要。大きなイベントをやっていこうなど、「何か行動に起こさなくちゃいけない」というまとめ方をしないと意味がない。

工場を誘致して働く場所を増やすことが最大のまちづくりだという考え方はぶれない。

■ その他

・大学連携のまちづくりで成功した例は見たことがない。住民が継続的にまちおこしをやっていかなければならない。

・あるきあるきコースの構想が既にあっただが、会議に出られなかった。白石さんとの事前打ち合わせはなかった。

ヒアリング NO.	28
ヒアリング実施日	2010年11月25日(木)
ヒアリング対象者	佐久間辰一さん
所属・役職	牧野ひまわり会 会長
場所	佐久間氏自宅
参加者	竹田

■民泊で、猪狩さん呼びかけたのは、自身が民泊担当者であるからか？

民泊担当であるから、呼びかけた。

■なぜ受け入れ先がなかなか見つからなかったのか。

部屋はあまっているが、民泊受け入れのあと一歩がでない。

■今後各自で民泊を行う予定はあるか？猪狩さん（民泊実験の受け入れ者）はが2回目の民泊をやったと伺ったが？

11月21日(土)～22日(日)に民泊実験で来た家族が再び泊まりに来た。佐久間さん宅にも立寄り、パッションフルーツの植木鉢などを持って帰った。民泊実験の時は新幹線で来たが、今回は車で来た。柏からなら高速でアクセスしやすく便利。猪狩さんと柏在住の家族は個人的に連絡を取り合い、今回の民泊に至った。佐久間さんももう一度呼びたいが、学生は忙しいからなかなか呼べない。家族だったら呼びたかった。

■その他

- ・ ひまわり会の活動について。佐久間さんは、あまり会員に仕事の指図をしないが、会員が自分に出来る仕事を自ら見つけて活動をして成り立っている。
- ・ ボランティアの基本は、「花の向きを変える」。家の庭に咲いている花の向きを家の方向ではなく、周囲に向かせるようなちょっとしたことでボランティアはできる。
- ・ 佐久間さんはあと1年で退職なので、その後は民泊のことに力を入れたいと思っている。大越まちづくりにも全力で取り組みたい。
- ・ ひまわり会や牧野のためのまちづくりという意識が前は強かったが、大越まちづくりを体験したことで、田村市全体のことを考えていきたいと思っている。その理由は、まちづくりを通して橋本さんをはじめ、大越のことを真剣に考えている多くの人と知り合ったこと、合併して田村市になったことで本PJが始まったこと、東大が関わっているまちづくりであるので協力したい、ということが挙げられる。

佐久間さんの奥さん

- ・ 去年に比べて文化祭参加者の人数はどうだったか。それはあるきあるき大会が影響しているのか？

特に関係はない。あるきあるき大会は家族でも参加しやすいイベントであったため多くの参加者がいたのではない。年々減っている印象がある。

3. ヒアリング 2010

ヒアリング NO.	29
ヒアリング実施日	2010年11月25日(木)
ヒアリング対象者	吉田聡氏
所属・役職	牧野ひまわり会 会員
場所	佐久間氏自宅
参加者	竹田

■先日のあるきあるき大会はどうであったか？

イメージしやすいから参加しやすかった。家族で参加することができた。

■オープニングイベントに参加しなかったのはなぜか？

オープニングイベントはイメージがしにくい。

ヒアリング NO.	30
ヒアリング実施日	2010年11月25日(木)
ヒアリング対象者	佐久間こういちさん
所属・役職	牧野ひまわり会 会員
場所	佐久間氏自宅
参加者	竹田

- ・これまで、まちづくり実験に参加したことがない。
- ・牧野で、趣味でつながるコミュニティがある。最近ではツーリング仲間がいて、週末に計画をし、お互い電話で連絡を取り合い人を集めている。前回は5～6人が集まった。

ヒアリング NO.	31
ヒアリング実施日	2010年11月26日(金)
ヒアリング対象者	香西とき子さん
所属・役職	大越行政局産業建設課 職員
場所	大越行政局
参加者	竹田

■民泊受け入れ側となった経緯

橋本さんからの働きかけがあった。橋本さんは民泊担当者ではなかったが、受け入れ先を探していた。そして、橋本さんと直接会ったときに頼まれた。

断ることもできたが、断らなかったのは、やってみないとわからない、と思ったから。

■職員の立場として受け入れたのか？住民と立場としてか？

職員であるが、民泊の受け入れ側であるということが正直微妙であった。どちらかと言えば仕事と感じていたかもしれない。それは次の日に引率などの仕事もあったからである。今度来た時はもっと大越のいいところを見せてあげたい。仕事であったから、家に泊まった学生には気を使わせてしまったような気がする。行動する際にも、プロジェクトチームと一緒にいた方がいいのか、学生といた方がいいのか・・・悩んでしまった。仕事があったので見送りにも行けなかった。

民泊受け入れをしてみることで、自ら考えて行動し非常に勉強になった。今後も、東大の学生が来た時は家に泊めてあげればいいのかではないかと思うようになった。

■今都路のPJにも関わっているが、大越PJとの違いはあるのか

プロジェクトチームの人たちは、大越ではないのに協力してくれた。なので、自身でも都路で協力したいと思っている。今までは大越しか見た事がなかったが、都路へ行ってまちづくりに参加することで、大越と都路の差を感じた。

■プロジェクトチームに入って変わったこと（まちづくりを通して変わったこと）

- ・プロジェクトチームに入る前はほとんどデスクワークであった。決められた仕事をこなしていけばよかったが、まちづくりでは自分で考え行動すべき場面がたくさんあった。2009年度は全くわからなかったが、ワークショップ、実験をこなしていくことで徐々にわかってきた。
- ・実験を行っている最中は、準備などが忙しくしんどかったが、終わってみるとおもしろかったという印象が強い。
- ・成長したと思う。体力的にも、精神的にも。
- ・辛かったことも今考えてみると楽しかったと思う。スムーズに事が進んでしまったらここまで思い入れがなかったかもしれない。
- ・あるきあるきでは、実験を行う前は事故や怪我の心配をしていたが、終わってみれば何もなかった。やはりやってみないとわからない。

■プロジェクトを通して思ったこと

住民との話し合いでは、行ったり来たりを繰り返していると感じていた。なんでその話を今更？と思うことがたくさんあった。実験をする時になって、当初の目的の確認をしなくてはいけないことなど。

■大学の役割とは？

話の軌道修正をする立場。行政の立場であると、住民に対して強く言えない。それは大学であるからできることなのではないか。

■今後の継続に向けて

- ・住民から、UDCTのようなものを大越につくったらいいのではないかと、という意見を聞いた。UDCT 大越分室ができれば、常駐職員を配置して、住民委員の代表みたいのを決定するのがいいのではないかと。
- ・行政の中の異動で、プロジェクトチームから脱退するのは避けた方がいいと市長との話し合いの際に先生が言っていた。自分では異動があってもプロジェクトチームに関わりたいと思うが、チームに入っていないと状況がわからないので難しいかも。

■田中さんの役目は誰が担う？

なかなかトップに立つのは難しい。今回の実験のように、事業ごとに各担当者を決めて進めていくのがいいのではないかと。あまりまとめる立場の人がいないのではないかと。

■大越分室のビジョン

大越行政局は、現在は産業建設課が大越まちづくりを担当しているが、今後は地域振興課が分室の担当になったらいいのではないかと。他の業務と掛け持ちでは分室は成り立たない。

■大越の行政によるまちづくりと協働まちづくりのちがいは？

行政のものに比べ、急な提案であった。急なスケジュールになってくると、調整が難しくなってしまう。

■大越のウォーキング大会について

合併した時に旧5町村持ち回りでやっていた。滝根→大越→都路→常葉という順番でやっている。来年の船引で終了する。いちおう担当は本庁であるが、各行政局が準備をしたのではないかと。

■娯楽場の文化財登録はだれが力を入れたのか。

教育委員会がやっていたと思う。

■今後、公民館で模型やパネルは展示可能なのか？

公民館長さんが田中さんと約束したと言っていた。

ヒアリング NO.	32
ヒアリング実施日	2010年11月26日(金)
ヒアリング対象者	三部秋夫さん
所属・役職	鳴神華の会 会員
場所	船引飲食店
参加者	竹田

■あるきあるき大会に参加してみてどうであったか？

- ・あるきあるき当日は、グランドゴルフ大会があったが、早く切り上げて30人ほどがあるきあるき大会に参加した。それはあるきあるき大会の人数が少ないと心配になったから、橋本さんなど住民代表が頑張っているから参加したいと思った。
- ・町郷で実験参加人数が多いのは、橋本さんの影響力がある。

■大越のまちづくりについて

- ・民泊みたいなことをしたいと思っているが、息子夫婦があまり好きではない。若い世代と考え方が違う。
- ・橋本さんに民泊のプランとしてきのこ汁を提案したが、橋本さんは受け入れなかった。橋本さんの考えは進んでいて、考え方についていき実行するのがなかなか難しい。
- ・実験の情報、まちづくりの情報は、大越全域に行き届いていない。理解していない人が多い。
- ・セメント工場で働いていた人はたくさんいる。渡辺道雄さん、松本昌夫さん、佐久間建夫さんなど。

ヒアリング NO.	33
ヒアリング実施日	2011年1月9日(日)
ヒアリング対象者	佐久間辰一さん
所属・役職	牧野ひまわり会 会長
場所	佐久間氏自宅
参加者	竹田

■ 2009年度のまちづくりで、牧野の人を誘ったりすることはあったのか。

声をかけた。2009年7月の娯楽場のワークショップの時に猪狩さんを。あと、プレ実験でも佐久間こういちさんをさそった。毎度、ひまわり会の会合などでは声をかけてはいるが、なかなかみんな忙しくて来れない。ひまわり会の活動とかぶってしまうこともある。

■ 2010年度でも誘ったのか。

自分が関わっていたから、できるだけ多く参加してもらいたいと思って声を掛けた。2009年度のまちづくりの時はつかみにくかったが、まちづくり実験はわかりやすい。ひまわり会の人には引っ込み思案みたい。みんなは意識はもっている気がする。場所が上大越中心であったから牧野からは出にくい。盛り上がりといった部分ではかけている。民泊が牧野に来た事に関しては話題性があった。ワークショップの話はあまり出なかった。

■ ひまわり会の活動について

前から、ひまわり会は牧野だけでやってなんだという声がまわりからあった。だから実際に範囲を拡大してみた。行政局のまわりにひまわりを植えてみたこともあったがうまくいかなかった。

■ 2010年度の実験を終えてから大越全体に対して問題意識を持つ事ができた、と前に言っていたが、それはどういうことか

今までは牧野中心で考えていたが、橋本さん、大橋さんなどいろんな団体の方の話を聞いて、いろんな地域に問題があるがわかった。漠然とはわかってはいたが、実際に話し合う機会があったことで、なるほどな、と思った。今までは牧野から出る機会がなかった。鳴神城のことも、話では聞いていたが、実際によくわかった。

■ 鳴神城の取組みを一緒にやるということか？

やるのは華の会であるが、協力体制ができるといいと思う。何かあったときには協力してやっていくことがいい。

■ 2010年度の実験で、住民委員と話したことで得られたこと。

観光協会会長の遠藤さんとも話し、ひまわり会の活動を知ってもらった。遠藤さんが観光協会で作っている絵はがきにひまわり会をのせてほしい、という話が2、3日前にきた。今までは観光協会でそういう動きはなかったからびっくりした。実験の成果であると思う。2010年度から観光協会の理事にもなった。それも、お互いの活動がわかったからなのでは？だから、お互いの活動を知って、お互いの悩みを言い合うことが必要。

■問題意識をもったことで、行動したことは何か。

橋本さん、松本さん、遠藤さんに年賀状を出した。今まで出したことなかった。実験をきっかけにまた話し合いをしたいと思った。来年からどうやって組織をつくっていくか。

■実験を成功させる為になにかやったことは？

できなかったが、本当は橋本さんみたいなキノコ汁みたいなこともやりたかった。時間がなくてできなかった。民泊では受け入れ先を探した。もっと探したかったが、なかなか見つからなかった。さりげなく誘うのがいい。「まちのために」と構えてしまうとなかなか難しい。あるきあるきも、担当者ではなかったが、自主的に事前歩きに参加した。

■実験の成功とは？

人が集まるだけでは成功と言えない。でも集まらないことには何もならない。

■問題意識とか目的をもつ範囲は？

実行委員の中で共有し、まちづくり参加者はやってみて楽しかったな、くらいの方がいいのではないかな。

■民泊は牧野だけでも成功しそうだが、大越単位の方がいいと思うか？

牧野だけでもできると思うが、大越全体の方がいい。町全体の方が町全体の活性化にもつながると思うし、牧野だけでは規模が小さい。行政のバックアップも受けにくい。お互いの協力体制が大事で、お互いにないものがあるわけだから。地域資源とか。

■牧野ひまわり会の結成当初の問題は解決されているか

されている部分とされていない部分がある。活動が長くて維持するのが大変だし、マンネリ化してしまう。若い人もいるし。当初は珍しい活動であったので、はじめから注目されていた。しかし、それは大越町の範囲で。船引とかには情報は届いていなかった。田村市であると、市でいろいろ広報をやらしてもらえるからいい。問題としては後継者がいないこと。若い人がいない。

■牧野の地縁組織について

青年団はやぐら。牧野青年団は5年前くらいに解散している。婦人会もあったが、解散して婦人クラブとなった。活動目的がちがうから。老人クラブが大きな団体。牧野には保全会があって、農林水産省の管轄。農道や側溝、遊休農地の問題に対して、景観を守るための国が補助を出して守ってほしい、というもの。5年くらい前から。牧野が実験事業に選ばれた。ひまわり会、大字会、こども会、老人クラブなど。ひまわり植えは、子供会と婦人会が、高柴山の祭りはひまわり会と若連が連携して活動している。

・交流人口を増やしたい。来てもらって地域の良さを知ってもらいたい。交流は最低でも郡山の人とか。都市部の交流。交流するものはたくさんある。農産物もそうだし、人もそうだし。

ヒアリング NO.	34
ヒアリング実施日	2011年1月9日(日)
ヒアリング対象者	大橋重信さん
所属・役職	田子屋地域づくり推進会 前会長
場所	大橋氏自宅
参加者	竹田・佐久間・大橋さんの奥さん

■田子屋地域づくり推進会について

月一回発行している会報があるので、それをかすから見てほしい。

■下大越の地縁組織について

婦人会はなくなってしまった。7~8年前に。大越の婦人会はどこにもない。若い人は忙しいというか、気まま。前は村八部というものがあつた。葬式などもそれによって行われていた。若連や青年団がどういう問題意識をもって結成されたかというのはわからない。中学校卒業して、部落にいても何の交流もないから青年団ができたのだと思う。青年団の活動は今では盆踊りしかなかったが、昔はいろいろな活動をしていたと思う。青年団が終わって若連が終わると、実年会というのを作った。ひまわり会もそう。交流の場、酒を飲む場として。

■まちづくり組織と地縁組織の違いは？問題意識をもっていたか、いなかったか？

問題意識をもって結成したまちづくり組織と、地縁組織は全然違う。田子屋地域づくり推進会が部落をまとめているから若連も活動しやすい。

■最近の若い人

一番最近の会報をみると、みんな写真を出しているのに、個人情報保護法などを意識して、部落内でも顔写真を出してほしくないという意見になった。その人たちもずっと住んでいる人なのに。考え方が変わってしまった。そうやって部落が壊れていく。がっかりした。

■地域の活動について

下大越での行政区単位で運動会はある。下大越小学校をかりて。雨が降ったら体育館でやる。その他には大字区長杯があり、行政区ごとにゲートボール・ソフトボール・バレーボールなどの対戦をする。下大越も昔は村であつたので、下大越の区長は村長と同じ。

■会報より、コミュニティセンターがあるが、以前の拠点を使っているか

集会所があつたが、今は使っていない。電気も切ってしまった。以前の集会所は、どこも自分たちでお金を出し合つてつくつた。行政からのお金は少しだけしかもらっていない。行政につくつてもらつたのは、牧野と早稲川だけ。白山のも補助事業。活動をしているうちにコミュニティセンターがほしいということになって、それに向けて行動してきた。負担金をみんなで積んで来た。みんな平等に。

■大学協働まちづくりについて

武道館でやった歌舞伎。山形の建物は見に行ってきた。あるきあるきなどは自分たちだけでやれるものだからいいけども、歌舞伎は建物をどうにかしなくてはいけない。利活用を考えるべき。牧野小学校とかも。建物の利活用を考えた提案をしてもらったらいい。実験をやってみて、既存の建物の利活用を考えてほしいと思った。郡山文化センターも駐車場がないのに、何千人も集まる。郡山の立地にあったものをやっているから。武道館の催しも空き地があるから駐車場はどうにかなる。そうすれば活用できる。そういう催しをやるときは、市の職員が積極的に出てくるべき。

■行政の職員について

みんなのお金をもらって働いているという意識が足りない。町役場から行政局になったことでも変わってしまった。クラスター方式で合併はしたが、平等に分配できていない。クラスターであれば平等に予算がおろるべき。田子屋の活動でも、本庁に行って、、、と何日かかるかわからない。大越行政局がしっかりしていればすぐにできる。

■結について

結と手間とり。戦後もあったが、農業の機械化が進んでなくなってしまった。昔は結がなければ農業ができなかった。手間とりは賃金稼ぎで、忙しいときにパートタイマーのように呼んでくる。昔は有線があった。

3. ヒアリング 2010

ヒアリング NO.	35
ヒアリング実施日	2011年1月9日(日)
ヒアリング対象者	橋本重助さん
所属・役職	鳴神華の会 会長
場所	橋本氏自宅
参加者	竹田

■2009年度からのまちづくりで、誰かを誘ったりとかしたか。

多くの華の会のメンバーを誘った。あるきの時もポスターを貼った。最初は20人しかいなかったみたいだけど。広報は一週間前くらいにあった。田村市のあるきあるきはかなり早くから広報があったのに。

■橋本さんが成功のために行動したことで、まちのためになっているな、と分かったことはあるか

きのこ汁でよかったと市の人のよかったと言っていた。三部さんによると、それに競争心を燃やして遠藤さんは屋台村をやったのではないかとしている。きのこ汁をやってよかった。みんな喜んでくれたから。少しでも喜んでもらって、心の栄養を与えないといけない。そうしないと行事はうまくいかない。サッカーの時も、自分の家から缶ビールをもっていった。歌舞伎でも、まわりの人から「行きたい」という声を聞いて、なんとか応募した。滝根の人と前の家を一緒にしてはがきを出したり。市役所のメンツを立たせるために。ルールを守ることをしなくてはいけない。

■きのこ汁は、イベント成功のため？まちのため？

きのこ汁などは、イベント成功のため、それを成功させなければまちづくりの成功はない。前から言っているように、民泊は法律上の問題とかがある。将来性に問題がある。しかし、東大生が一生懸命考えて提案したことで、まずやってみないといけない。目の前であがっている問題をつぶしてしまっはいけない。なんの意味もない。やってみないと成果がわからない。結局みんな大変だといいながら、やってみた人はよかったと言っている。やってみて、心の交流ができてよかったと思っている。それは、自分も少し貢献できたと思う。経験したことで、学んで、次のステップに進むために考えることが重要。悪いところは直し、いいところは取り入れてやっていくために。

■ やってみて得られた成果とは？

国境が違ってても人のころには変わりない。やってみて、やっぱりそうだったんだ、ということがわかった。民泊やってみて、市の援助が今回はあったが、市の援助がなくてどうやってできるのかを考えさせられたことがよかった。民泊やらなければ、人と交流することがいいことなんだな、ということがわからなかったし。それはそれなりに成果としてある。その経験を活かしてまちづくりに反映させればいいのか。経験して、改善して、のステップが必要。一発勝負はありえない。

■ きのこ汁をやってみて得られた成果とは？

きのこ汁をやって、いろんな人に来てもらったことが、次のまちづくりのステップにつながる。きのこ汁をおいしいと食べてもらったことが、橋本さん自身のエネルギーにつながる。多くの人の協力が必要。最後は人。指示されなければいけない。

■ やってみて成果が得られた実験は？それによって起こった変化は？

昔から交流が少しあったバレエ教室を呼ぼうと思っている。最近来る予定であったが来れなくなってしまった。考えたのは、武道館に呼ぼうと思っている。家では負担も大きいから。娯楽場に呼ぼうと思っている。バレエを見せる場としても、宿泊の場としても使える。議論をしてみて、檜枝岐歌舞伎をやってみて、実験をやってみることで、芸能ではなくても使えるな、と思った。

■ 協働まちづくりの成果は？

会議からも学んだことがあった。市役所職員とか佐久間さんの前で今まで激しい気性をみせたことがなかったが、今回は見せた。東大生と切磋琢磨した。

3. ヒアリング 2010

ヒアリング NO.	36
ヒアリング実施日	2011年1月9日(日)
ヒアリング対象者	三部秋夫さん
所属・役職	鳴神華の会 会員
場所	下大越飲食店
参加者	竹田

■このあたりの活動は？消防団とは？

消防団は、年初めに出初式というのにでる。それは、ばらばらで。前は6団体あったが、今では3団体である。6団体の時は、上大越は2つあって、あとは各大字ごとにあった。今は、白山と早稲川、下大越と上の上の方、牧野と栗出の3つ。春、秋は検閲がある。それは田村市で行っている。統合は田村市で決める。

■大学協働まちづくりについて

2009年度の最初の集まりはあまり参加者がいなかった。でも、まちに対して思っている人はたくさんいる。きっと知れ渡っていなかったから来なかった。意見もあまり出なかった。でも、参加しなかったことがわかり、それによりどうしたらいいか考える、ということが成果だと思う。

民泊では、こうした方がいいと思う、ということがいっぱいあった。きのこを育てる体験などをすれば、年に3回ほど来れる。一回で終わってしまっただけ。

セメント工場のまわりは歩いても仕方がないと思う。残ったものはない。

どういう風に大学が考えているのかを知りたかった。来て何ができるのかって思って、ワークショップに参加した。サッカーは若い人が来てくれてよかった。ちょっと変わったことに興味がある。

あるきに町北で出たのは自分だけ。区長からの呼びかけが必要なのではないか。

もっと、ゲームとか焼肉とかがあると参加するのではないか。

■まちの行事について

商工祭は、いつもは駅前で行っていたが、今年は行政局で行っていた。近くの人しか行かない。文化祭の参加者は減っているように感じる。慣れが原因だと思う。解決策としては人口を増やすしかない。人口を増やすには工場誘致が必要。あとは、合併前は4年に1度大越町の運動会を行っていた。

■今後のこと

大学協働のまちづくりが終わって、1年目に何かやらないといけない。でもそれは難しいかも。

ヒアリング NO.	37
ヒアリング実施日	2011年1月9日(日)
ヒアリング対象者	香西とき子さん
所属・役職	大越行政局 職員
場所	香西氏自宅
参加者	竹田

■大越町文化祭の参加者について

年々減少はしているのはわかるが、記録はしていない。出し物を出している団体は、毎年固定で出している。文化祭は大越町の時からずっとやっている。田村百景も、昨年度から飛び入りで入れてもらった。写真の募集をして展示してもらった。間際に入れてもらう団体もありえるけど、だいたい固定している。出す団体も減っている印象がある。子供が減っているから、展示をみにくる大人も減っている。

文化祭実行委員は、参加する団体の会長、大越公民館、市民課、商工課、産業建設課の課長で実行委員となっている。

■今後の文化祭へ向けての行政の動き

マンネリ化をしているので、新しいことをやろうか、という話が出ている。何かと一緒に合わせてやろうか、といった話。

■大越観光協会は？

鬼の里納涼花火大会などを開催している。実行委員会は、松本区長さん、区長会、議員さん、観光協会と、商工会など団体の関係者によるもの。結局、文化祭の実行委員とかぶっている人もいる。花火大会は20年くらいやっている。商工会は出店を出している。

■告知方法について

市政だより、お知らせ版、防災無線。合併前は、「大越広報」という広報誌があった。あと、毎月1日と15日にはお知らせ版という回覧板がある。そこにはいろんな行事がのっている。あるきの時も防災無線で。防災無線は、滝根にも船引にもあるけど、無線で流すときは大越だけ。カレンダーも見ている人はたくさんいる。大越の市民課で窓口になって、全戸配布している。回覧板で。

■文化祭で出し物を行っている「つくし会」「短歌会」などについて

つくし会は毎月活動している、大越公民館で。パッチワークや手芸。大越公民館で。町内全域の人を集めて活動している。披露する場は、文化祭に出すくらい。14人。昭和62年に発足。女性がほとんど。短歌会は、月に1回大越公民館で10名くらいで活動している。昭和40年ごろに発足。できたときはもったいた。各自つくったものを月に1回発表したり、船引の文化祭に出したりしている。それは会ではなく、個人で活動していたりする。

敬老会は大越全域の会。

■地縁組織について

栗出しか残っていない。栗出と下大越が最後まで残っていたから。他の青年団があるときも協力して活動していた。上大越で8月の盆踊りをやるときには、下大越の青年団が協力したりとか。栗出の青年団も行って踊ったり。13、14、15とかで牧野、栗出、下大越とかなっていたら、その日にちにあって、一緒に踊ったりとかした。青年会、若連は地区の活動だけ。青年団は大越町で連合があったから。昔は大越単位であり、連携などもあったが、今は大字単位。青年団の連携も、大越の問題解決に向けて、という動きではない。

同じ問題をもっているからといって連携をしようという動きはない。しかし、小学校が統合するし、幼稚園、保育所も一緒にやっているし、今後変わってくるかもしれない。下大越も来年か、その次に合併もする。古い人の考え方が強いから。若い人の考え方が出てこない。しがらみがある。

中学校は大越中学校一つだけであるが、中学校の親はあまり出てこない。

ヒアリング NO.	38
ヒアリング実施日	2011年1月14日
ヒアリング対象者	佐久間建夫さん
所属・役職	我が里を考える会 会長
手段	fax

東京大学・竹田様

お疲れ様です。

先ほどのFAXの件ですが、

1、2について

町づくりの基本は働く場所をいかに作るかにかかっている。

つまり工場誘致する為に、市民の立場でどのような事を行えば良いか!!

上記が我が里を考える会の基本的考え方であります。

又大きな目標でもあります。

目標達成の為、この基本目標を理解し建設的

前向きな方々との意見を深め行動する。

石井春一さんは最もこの会にふさわしい人であります。

あるきあるき大会も、地元の人が第六感で感じたことは

意義深いところがありました。

3について

まずオープニングイベントをしっかり行い、次に体で体験する

といった形態が良いと思います。

4について

我が里を考える会にて今後、会員の幅広い地からの集まりとし

上大越全体の考え方が出せるよう進めております。

(12/22現在で16名です。)

以上ザッザッとですが、簡単にわたしの意見です。

佐久間建夫

3. ヒアリング 2010

ヒアリング NO.	39
ヒアリング実施日	2011年1月18日
ヒアリング対象者	赤石澤祐一さん
所属・役職	田村市役所都市計画課
手段	e-mail

■オープニングイベントの際に小学生に声を掛けたのは何故か？お絵描き大会のような内容があったからか？

イベントの内容が小学生向きで小学生に声をかけたのではなく、人集めのため小学生に声をかけたと思います。小学生が来れば親も同伴するし、ある程度来訪者が期待できるからだと思います。船引の五月祭も小中学生のプラスバンドの演奏をしたら親がたくさん来場した経緯もあったので、そうしたと思います。

資料編 実験アンケート調査

実験回数 5回

実験参加者データ

①プレ実験 サッカー観戦

プレ実験 サッカー観戦	
上大越	32
下大越	4
牧野	6
栗出	3
早稲川	3
その他	0
合計	48

②オープニングイベント

オープニングイベント	人数		
大人	24	上大越	22
小学生	63	下大越	0
合計	87	牧野	0
		栗出	0
		早稲川	0
		その他	2
		合計	24

大人の参加者

③民泊体験

受け入れ側 7件の大越の民家（上大越3件 下大越1件 牧野2件 栗出1件）

民泊参加者 学生16人（東京大学、千葉大学）

家族3組

④大越あるきあるき大会

大越あるきあるき大会	人数	家族で参加	欠席数	当日参加
上大越	126	26	7	67
下大越	18	4	8	5
牧野	2	1	0	2
栗出	8	1	1	0
早稲川	3	0	0	2
その他	17	3	5	3
不明	2			2
合計	176	35	21	81

⑤檜枝岐歌舞伎上演

檜枝岐歌舞伎上演	参加者	事前申込み	欠席数
上大越	105	121	16
下大越	14	18	4
牧野	15	16	1
栗出	2	2	0
早稲川	9	20	11
その他	122	146	24
特別優待券	24		
合計	291	323	56

4. 実験アンケート調査

まちづくり実験アンケートの詳細

実験	アンケート 実施日	配布方法	回収方法	回収率	アンケート 作成者/集計者
① プレ実験	2010年 6月19日(土)	後日自宅に 郵送	各自UDCTに 郵送	18/48 (37%)	小島/阿南
② オープニング イベント	2010年 9月4日(土)	後日自宅に 郵送	各自UDCTに 郵送	7/24 (29%)	竹田/竹田
③ 民泊体験	2010年 9月19日(土)	娯楽場にて配布	その場で記入後に回収	受け入れ側 7/7 (100%) 参加者 学生 12/12 (100%) 家族 4/4 (100%)	田村市職員赤石澤/ 竹田
④ 大越あるきあるき 大会	2010年 10月24日 (日)	ゴール後に 実行委員が配布	ゴール後に記入	55 (配布数は不明)	竹田/竹田・ヨンア
⑤ 檜枝岐歌舞伎 上演	2010年 11月6日(土)	受付時に配布	各自UDCTに 郵送	86/146 (59%)	竹田/竹田

4. 実験アンケート調査

10. 今年度、まちづくり実験として民泊、娯楽場活用、ウォーキングの3つの企画を考えていますが、企画者として、また参加者としてそれぞれ参加したいものはありますか？（複数選択可）

企画者として参加したいもの

- a. 民泊 b. 娯楽場活用 c. ウォーキング

参加したいもの

- d. 民泊 e. 娯楽場活用 f. ウォーキング

11. 普段娯楽場を使われていますか？（ひとつだけ）

- a. よく利用する b. たまに利用する c. 利用しない

12. 今年度は試験的に娯楽場の活用を予定していますが、娯楽場は今後も活用したほうが良いと思いますか？

- a. 積極的に活用したほうがよい b. できれば活用したほうがよい
c. できれば活用しないほうがよい d. 全く活用しないほうがよい
e. その他（ ）

13. 大越娯楽場をより多くの人々が利用していくために何が必要だと思いますか？（複数選択可）

- a. 魅力ある企画 b. 地元のリーダー c. 活用を進める組織や団体
d. 行政のサポート e. 費用 f. 利用制度 g. 利用する上での自由度
h. 告知・宣伝 i. 建物の貴重さのアピール j. 全国的にも貴重な建物であるという認識
k. 駐車場 l. エアコン（空調） m. 照明（明るさ） n. 防音性能 o. 断熱性能 p. 清掃
q. 舞台設備 r. ステージ s. 飲食の提供
t. その他（ ）

14. 旧娯楽場でどのようなイベントが開催されると、参加したいと思いますか？ 自由にお書き下さい。

15. 今回のサッカー観戦や、大越のまちづくりについて、感じていることを自由にご記入ください。

16. お名前とご住所を教えてください。

お名前（ ）

ご住所（ ）

どうもありがとうございました。頂いた意見を今年度のまちづくり実験に、また、これからの大越町のまちづくりに活かしていきたいと思っております。

大越まちづくり実験2010 オープニングイベントアンケート

本日は大越まちづくり実験のオープニングイベントにご参加して頂き、どうもありがとうございます。今後の大越のまちづくりの参考とさせて頂きたいので、アンケートにご協力お願い致します。以下の質問についてあてはまる項目の番号に○をつけて下さい。

はじめに以下の項目について、差し支えない範囲でご回答お願い致します。

- 性別 ①男 ②女
- 年齢 ①10～20歳 ②21歳～30歳 ③31歳～40歳 ④41歳～50歳
⑤51歳～60歳 ⑥61歳～70歳 ⑦71歳～80歳 ⑧81歳～
- お住まい ①上大越 ②下大越 ③牧野 ④栗出 ⑤早稲川 ⑥その他 ()
- 普段の勤務地・通学先 ①大越町内 ②田村市内 ③郡山市内 ④その他 ()
- 旧娯楽場までの交通手段 ①徒歩 ②自動車 ③その他 ()

オープニングイベント全体のことについてお聞きます。

1、参加したイベントを教えてください。(複数選択可)

- ①鬼太鼓上演会 ②おおごえ探検隊(イラスト大会) ③Tサロン(まちの語り場)

2、オープニングイベントの内容はいかがでしたか。

- ①とても満足 ②まあまあ満足 ③あまり満足ではない ④満足でない

3、オープニングイベントに参加した理由をお聞かせ下さい。(複数選択可)

- ①内容がおもしろそうだったため ②まちづくり活動に興味があったため ③家族、知人に誘われたため ④その他 ()

4、オープニングイベントのことを、どのようにお知りになりましたか。(複数選択可)

- ①回覧板を見た ②家族・知人から聞いた ③ポスターを見た ④その他 ()

5、本日は、どなたとご参加して頂けましたか。

- ①ひとりで ②家族と ③友達と ④近所さんと ⑤その他 ()

6、おもしろかった企画を教えてください。(複数選択可)

- ①鬼太鼓上演 ②おおごえ探検隊(イラスト大会) ③Tサロン(まちの語り場) ④展示

第二部 おおごえ探検隊(イラスト大会)、第三部 Tサロンについてお聞きます。

7、イラストを描くこと、他の人のイラストの発表を通していかがでしたか。(複数選択可)

- ①新しいまちの発見があった ②旧娯楽場、大越のまちの魅力をより感じた
③またやってみたいと思った ④その他 ()

8、本日描いた皆さんの絵は、今後旧娯楽場に展示をする予定です。展示を見るために旧娯楽場に来たいと思いますか。

- ①是非来たい ②来たくない ③どちらでもない

9、本日のTサロンでは「おおごえ探検隊」を話題としましたが、今後のTサロンで企画してほしいことがあればお書き下さい。

()

展示「大越娯楽場 今昔物語展」についてお聞きます。

4. 実験アンケート調査

10、展示はご覧になりましたか。

- ①よく見た ②少し見た ③あまり見ていない ④まったく見ていない

11、どの展示物が良かったですか。(複数選択可)

- ①歴史 ②娯楽場観察隊(イラスト集) ③娯楽場の模型 ④どれも良くない

12、展示を通して娯楽場の印象はどう変わりましたか。(複数選択可)

- ①旧娯楽場について良く知ることができた ②旧娯楽場をもっと利用したいと感じた
③建物の魅力を感じた ④あまり変わらなかった
⑤その他 ()

大越まちづくり実験全体についてお聞きします。

13、昨年度、大越町で東京大学の学生がまちの調査をしていたことをご存知でしたか？

- ①知っている ②知らない

14、10月以降の旧娯楽場を活用したまちづくり実験として、大越あるきあるき大会(ウォーキング大会)、檜枝岐歌舞伎上演を予定していますが、参加したいものはありますか？(複数選択可)

- ①大越あるきあるき大会 ②檜枝岐歌舞伎

15、普段、旧娯楽場を利用していますか？利用している方は利用目的を教えてください。

- ①よく利用する ②たまに利用する ③利用しない

(利用目的:)

16、今年度は試験的に旧娯楽場の活用を予定していますが、娯楽場は今後も活用したほうが良いと思いますか？

- ①積極的に活用したほうがよい ②できれば活用したほうがよい
③できれば活用しないほうがよい ④全く活用しないほうがよい
⑤その他 ()

17、旧娯楽場をより多くの方が利用していくために何が必要だと思えますか？(複数選択可)

- ①魅力ある企画 ②地元のリーダー ③活用を進める組織や団体 ④行政のサポート
⑤費用 ⑥利用制度 ⑦告知・宣伝 ⑧全国的にも貴重な建物であるという認識
⑨駐車場 ⑩エアコン(空調) ⑪照明(明るさ) ⑫防音性能 ⑬断熱性能 ⑭清掃
⑮舞台の設置 ⑯飲食の提供 ⑰その他 ()

18、旧娯楽場でどのようなイベントが開催されると、参加したいと思えますか？ご自由にお書き下さい。

()

19、大越のまちづくりについて、感じていることを自由にご記入ください。

()

ご協力どうもありがとうございました。

4. 実験アンケート調査

アンケートのご協力ありがとうございました。

大越まちづくり実験における民泊体験アンケート<受入れ側用>

大越まちづくり実験における民泊体験の受入れのご協力ありがとうございました。
ご協力いただいた皆さまの意見を反映し、今後のまちづくりの参考にしたいので、アンケートのご協力をお願いします。

問1. 「民泊」という言葉をご存じでしたか。

- a. はい b. いいえ

問2. また民泊をやってみたいですか。

- a. はい b. いいえ

問3. 今まで都市部の方と交流したことがありますか。

- a. はい b. いいえ

※問3で「はい」と回答された方どのような交流なのかを簡単に教えてください。

問4. 都市部の方と交流してみているかでしたか。

あてはまる事項の○を付けてください。 (複数回答可)

a. 楽しかったのでまた交流してみたい。 ()

b. ()

問5. 都市部の方と交流する魅力は何だと思えますか

あてはまる事項の○を付けてください。 (複数回答可)

a. 農作業の手伝い ()

b. 地域の伝統行事等の支援 ()

c. 民泊による副収入 ()

d. 空き部屋の有効活用 ()

e. 交流による有意義な生活 ()

f. その他 ()

(具体的に)

問6. 都市部の方と交流するうえで問題点や不安に感じることはありますか。

あてはまる事項に○を付けてください。 (複数回答可)

a. 交流の仕方や接し方、会話の仕方がわからない ()

b. 都市部の方が楽しんでもらえるかわからない ()

- c. 食文化や生活習慣の違い ()
- d. 交通・移動手段の不備 ()
- e. 医療機関・体制の不備 ()
- f. その他生活環境の不備 ()
- g. 特に問題はない ()
- h. その他 ()
- (具体的に ()

問7. 民泊を行うとしたら、そのような形態を望みますか。

- a. 通年営業の民泊
- b. 農作業を教えたり、手伝ってもらおうワーキングホリデー型
- c. 農作業が閑な時だけ開業する民泊
- d. 特定の時期や特定の人だけ泊めるホームステイ型
- e. その他 ()

問8. 参加者が体験できる「大越町田舎体験メニュー」が必要だと思いますか。

- a. はい
- b. いいえ

問9. 問8で「はい」と回答された方どのようなメニューを提供することが良いと考えますか。

- あてはまる事項の○を付けてください。 (複数回答可)
- a. 農家での農業体験 ()
 - b. 中・長期的な農業体験 ()
 - c. 山や川などの自然を活かした遊び ()
 - d. 大越町内の観光施設巡り ()
 - e. 地元の人たちとの懇親会 ()
 - f. 太鼓等の伝統芸能の体験 ()
 - g. 郷土・田舎料理の体験 ()
 - h. その他 ()
 - (具体的に ()

問10. 民泊を受入れる場合、1回あたりの滞在期間は、どれくらいが適当であると思われますか。

- a. 一泊
- b. 二泊又は三泊
- c. 一週間程度
- d. 一ヶ月程度
- e. 参加者が希望する日数
- f. その他 ()

4. 実験アンケート調査

問 1 1. もし参加費をいただくとしたら、一泊あたりの費用は、どれくらいが適当であると思われますか。

- a. 1,000 円～3,000 円
- b. 3,000 円～5,000 円
- c. 5,000 円～7,000 円
- d. 7,000 円～10,000 円
- e. その他 ()

問 1 3. 民泊を今後続けていくうえで必要なものは何であると思いますか。(複数回答可)

- a. 参加費等の経費の設定 ()
- b. 家族のプライバシー ()
- c. お風呂やトイレなどの設備 ()
- d. 体験メニューの設定 ()
- e. 家族の協力と理解 ()
- f. 布団などの寝具 ()
- g. 空き部屋や空きスペースの確保 ()
- h. 宿泊者との人間関係や接し方 ()
- i. 市のサポート ()
- j. 大学のサポート ()
- k. 民泊事業の組織化 ()
- l. 特に問題はない ()
(具体的に)

問 1 4. 民泊事業を行っていくとした時、住民のリーダーをお願いされたら引き受けたいと思いますか。

- a. はい
- b. いいえ

問 1 5. この民泊体験を通して感じたことをどんなことでも結構ですので、自由に記述してください。

アンケートのご協力ありがとうございました。

2010年10月24日

大越まちづくり実験実行委員会

大越まちづくり実験2010 あるきあるき大会アンケート

本日は大越あるきあるき大会にご参加して頂き、どうもありがとうございました。今回のあるきあるき大会は、「歩きながら、大越のまちの魅力を再発見すること」を目的として開催しました。今後の大越のまちづくりの参考とさせて頂きたいので、アンケートにご協力お願い致します。

以下の質問についてあてはまる項目の番号に○をつけて下さい。

はじめに以下の項目について、差し支えない範囲でご回答お願い致します。

- 性別 ①男 ②女
- 年齢 ①10～20歳 ②21歳～30歳 ③31歳～40歳 ④41歳～50歳 ⑤51歳～60歳 ⑥61歳～70歳 ⑦71歳～80歳 ⑧81歳～
- お住まい ①上大越 ②下大越 ③牧野 ④栗出 ⑤早稲川 ⑥その他 ()
- 大越駅までの交通手段 ①徒歩 ②自動車 ③その他 ()

大越あるきあるき大会の全体のことについてお聞きします。

1、あるきあるき大会の内容はいかがでしたか。

- ②とても満足 ②まあまあ満足 ③あまり満足ではない ④満足でない

2、あるきあるき大会に参加した理由をお聞かせ下さい。(複数選択可)

- ①内容がおもしろそうだったため ②まちづくり活動に興味があったため ③家族、知人に誘われたため ④その他 ()

3、あるきあるき大会のことを、どのようにお知りになりましたか。(複数選択可)

- ①回覧板を見た ②家族・知人から聞いた ③ポスターを見た ④その他 ()

4、本日は、どなたとご参加して頂けましたか。

- ①ひとりで ②家族と ③友達と ④ご近所さんと ⑤その他 ()

あるきあるき大会についてお聞きします。

5、どちらのコースを選択しましたか？

- ①工場探検コース ②石灰満喫コース

6、コースの長さはいかがでしたか。

- ②長い ②ちょうど良い ③長い

7、今後もウォーキング大会があったら参加したいと思いますか？

- ①参加したい ②参加したくない ③どちらとも言えない

8、これからもこのコースを日常的に歩いてみたいと思いますか？

- ①歩きたい ②歩きたくない ③どちらとも言えない

9、8で「②歩きたくない」とお答えした方にお聞きします。何故そう思われましたか。(複数選択可)

- ①道が歩きにくい ②コースが魅力的でない ③コースの長さが長い ④コースの長さが短い

裏に続きます

4. 実験アンケート調査

⑤その他 ()

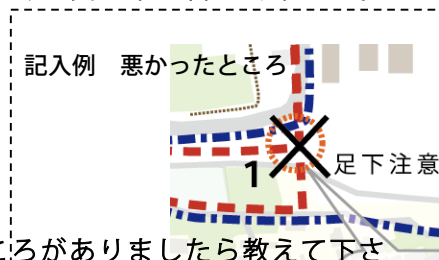
10、コースの中で、良かったポイントがありましたら教えてください。記入例に従って右の地図に記入して下さい。また、理由を下に書いて下さい。

- 1、理由 ()
- 2、理由 ()
- 3、理由 ()



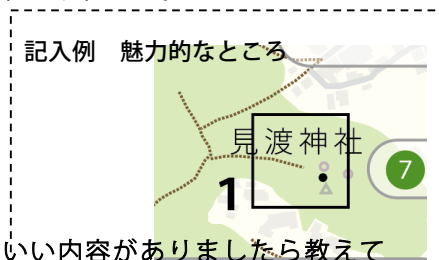
11、コースの中で、悪かったところ（歩きにくい所、景観が良くないところなど）がありましたら教えてください。右の地図に例に従って記入して下さい。また、理由を下に書いて下さい。

- 1、理由 ()
- 2、理由 ()
- 3、理由 ()



12、本日のチェックポイント・みどころ以外で、魅力的なところがありましたら教えてください。右の地図に例に従って記入して下さい。また、理由を下に書いて下さい。

- 1、理由 ()
- 2、理由 ()
- 3、理由 ()



13、今後、あるきあるき大会を継続するにあたって改善した方がいい内容がありましたら教えてください。

()

14、普段、まちを歩く機会がありますか。

- ①ある
- ②少しある
- ③あまりない
- ④全くない

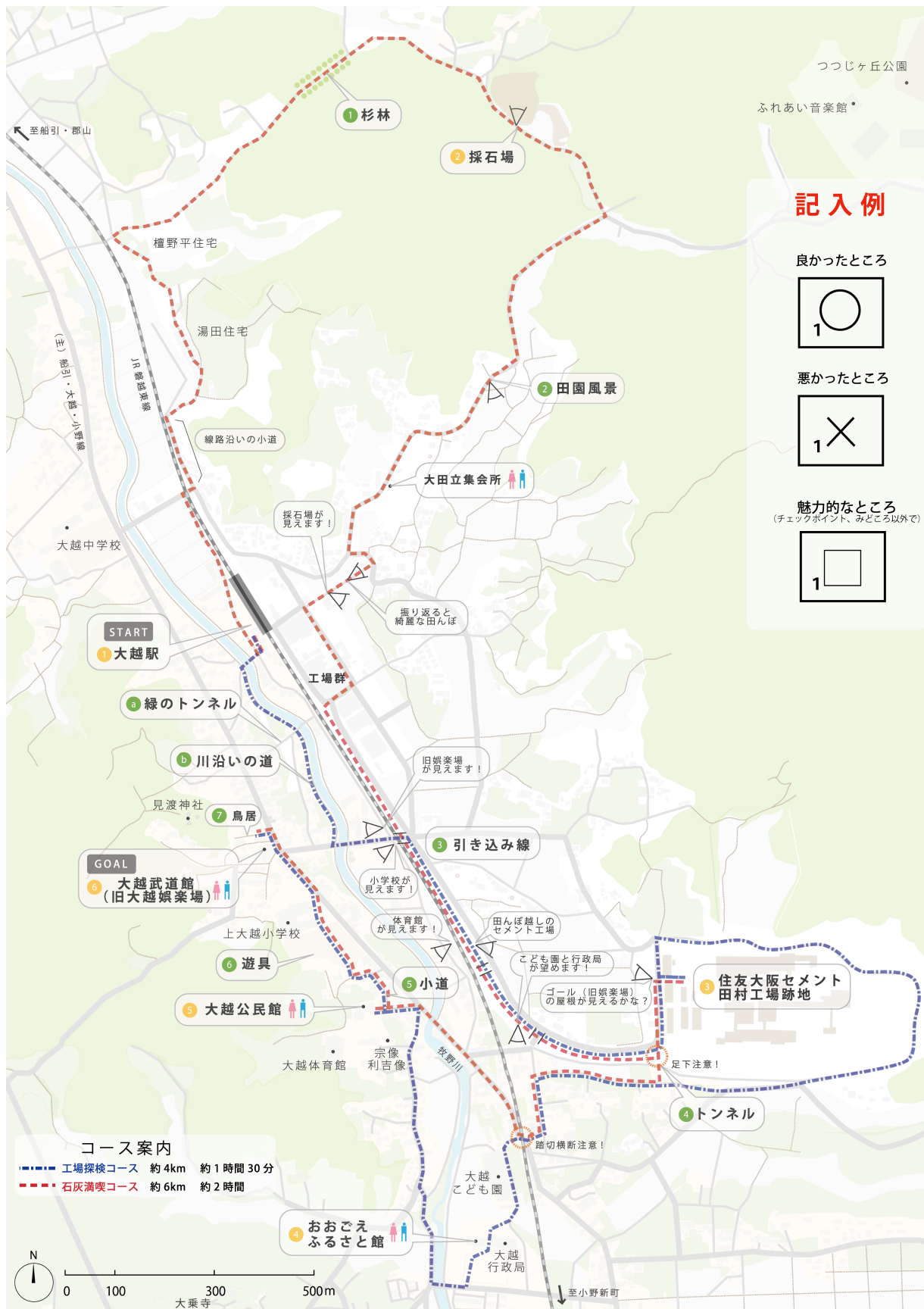
15、本日、まちを歩いてみて、まちの魅力を再発見できましたか。

- ①できた
- ②できない
- ③どちらとも言えない

16、15で「①できた」と回答した方にお聞きします。例えばどのようなことですか？自由にお書き下さい。

()

良かったところ、悪かったところ、魅力的だと思うところ（チェックポイント・みどころ以外）を3つまで記入して下さい。（左ページに理由を記入して下さい）



4. 実験アンケート調査

旧娯楽場にて、娯楽場今昔物語展、ドキュメンタリー上演を観た方にお聞きします。

17、今昔物語展・ドキュメンタリー映像はいかがでしたか？

- ①おもしろかった ②まあまあ面白かった ③あまりおもしろくなかった ④面白くなかった

18、今昔物語展・ドキュメンタリー映像をみて、旧娯楽場の印象は変わりましたか？

- ①大きく変わった ②少し変わった ③あまり変わらなかった

19、18で「①②変わった」と回答して頂いた方にお聞きします。どのように変わりましたか。(自由にお書き下さい。)

()

大越まちづくり実験全体についてお聞きします。

20、今年度、大越町でまちづくり実験を実施していることを知っていましたか？

- ①知っていた ②知らなかった

21、今後も大越まちづくりの一環の活動があったら参加したいと思いますか？

- ①参加したい ②参加したくない ③どちらとも言えない。

22、今回のあるきあるき大会は、大越のまちづくりの取り組みとして、いかがでしたか？

- ①とても良かった ②第一歩としては良かった ③良かったがもっと改善できる
④何もしないよりは良い ⑤あまり良くない ⑥よくわからない ⑦その他()

23、大越のまちづくりについて、感じていることを自由にご記入ください。

()

質問は以上です。

ご協力どうもありがとうございました。

2010年11月6日

大越まちづくり実験実行委員会

大越まちづくり実験2010 檜枝岐歌舞伎上演会アンケート

本日は檜枝岐歌舞伎上演会にご参加して頂き、どうもありがとうございました。今回の檜枝岐歌舞伎上演会は、まちの資源である旧大越娯楽場（現 大越武道館）の活用を目的として開催しました。今後の大越のまちづくりの参考とさせて頂きたいので、アンケートにご協力お願い致します。

以下の質問についてあてはまる項目の番号に○をつけて下さい。

はじめに以下の項目について、差し支えない範囲でご回答お願い致します。

- | |
|--|
| <p>■性別 ①男 ②女</p> <p>■年齢 ①10～20歳 ②21歳～30歳 ③31歳～40歳 ④41歳～50歳
⑤51歳～60歳 ⑥61歳～70歳 ⑦71歳～80歳 ⑧81歳～</p> <p>■お住まい ①上大越 ②下大越 ③牧野 ④栗出 ⑤早稲川 ⑥その他（ ）</p> <p>■旧娯楽場までの交通手段 ①徒歩 ②自動車 ③その他（ ）</p> |
|--|

1、本日の檜枝岐歌舞伎上演会の抽選に応募したのは何故ですか？（複数選択可）

- ① 檜枝岐歌舞伎が見たかったから ② 家族、知人に誘われたから
③ 無料であったから ④ 娯楽場活用に興味があったから
⑤ まちづくり活動に興味があったから ⑥ その他（ ）

2、檜枝岐歌舞伎上演会のことを、どのようにお知りになりましたか。（複数選択可）

- ① 市政たよりを見た ② 回覧板を見た ③ 家族・知人から聞いた ④ ポスターを見た
⑤ その他（ ）

3、今回の檜枝岐歌舞伎上演は、娯楽場の活用として、いかがでしたか。（複数選択可）

- ① 人が集まり賑やかでよかった ② 伝統芸能を上演したのがよかった
③ 娯楽場の今後を考えるきっかけとなった ④ もっと地元住民が日常的に行える企画の方がよかった
⑤ その他（ ）
⑥ よくわからない

4、本日は約300人ほどが利用していますが、利用人数は適正でしたか。

- ① 混んでいる ② 少し混んでいる ③ ちょうど良い ④ もう少し入る気がする

5、今後、どのようなことに活用したらいいと思いますか。自由にお書き下さい。

[]

質問は裏面に続きます。ご回答よろしくお願いします。

4. 実験アンケート調査

旧娯楽場にて、娯楽場今昔物語展、ドキュメンタリー上演を観た方にお聞きします。

6、今昔物語展・ドキュメンタリー映像はいかがでしたか？

- ①おもしろかった ②まあまあ面白かった ③あまりおもしろくなかった ④面白くなかった

7、今昔物語展・ドキュメンタリー映像をみて、旧娯楽場の印象は変わりましたか？

- ①大きく変わった ②少し変わった ③あまり変わらなかった

8、7で「①②変わった」と回答して頂いた方にお聞きします。どのように変わりましたか。

(自由にお書き下さい。)

()

大越まちづくり実験全体についてお聞きします。

9、今年度、大越町でまちづくり実験を実施していることを知っていましたか？

- ①知っていた ②知らなかった

10、本日の「娯楽場の活用」が、まちづくり実験の一環であったと知っていましたか？

- ①知っていた ②知らなかった

11、今後も大越まちづくりの一環の活動があったら参加したいと思いますか？

- ①参加したい ②参加したくない ③どちらとも言えない。

12、今回の娯楽場の活用は、大越のまちづくりの取組みとして、いかがでしたか？

- ①とても良かった ②第一歩としては良かった ③良かったがもっと改善できる
④何もしないよりは良い ⑤あまり良くない ⑥よくわからない ⑦その他

その理由をお聞かせ下さい。

()

質問は以上です。ご協力どうもありがとうございました。封筒にてご返送ください。

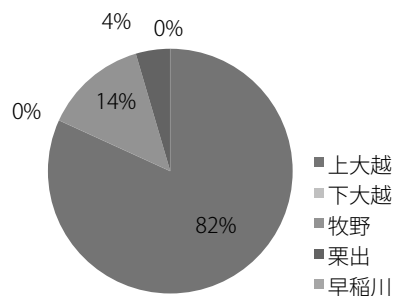
本日の歌舞伎上演会がきっかけとなり、住民の方々に旧娯楽場がまちの魅力的な資源として認識され活用・保存されていくことに繋がればと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

プレ実験アンケート分析

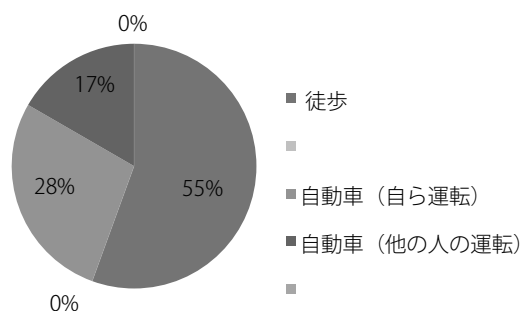
実施日	2010年6月19日(土)
配布方法	後日自宅に郵送
回収方法	各自 UDCT に郵送
回収率	18 / 48 (37%)

アンケート対象者

住まい



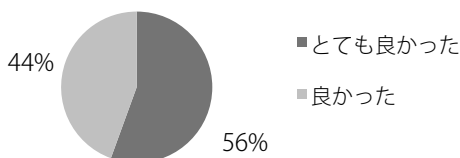
交通手段



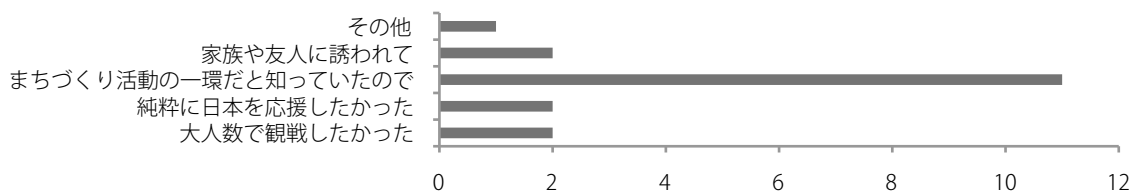
自動車駐車場所

旧大越娛樂場の駐車場…2
大越行政局…0
その他…4 (近くの親類宅、知人宅、実家、大越公民館)

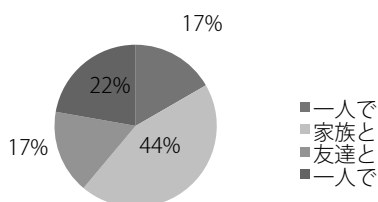
4、今回のワールドカップサッカー観戦の企画はいかがでしたか？



5、今回、サッカー観戦に来て頂いた理由は何ですか？

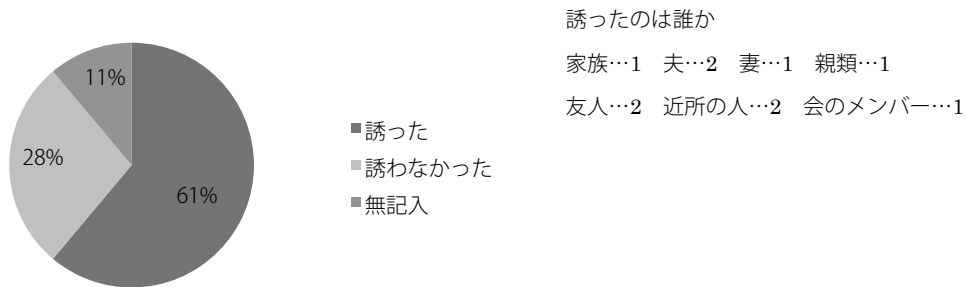


6、どのような方と参加されましたか？

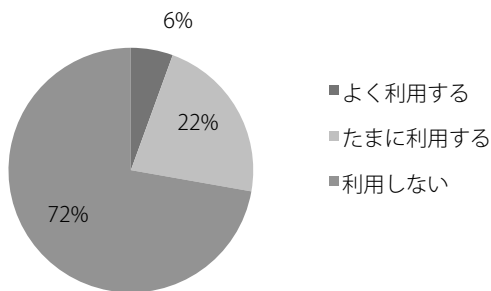


4. 実験アンケート調査

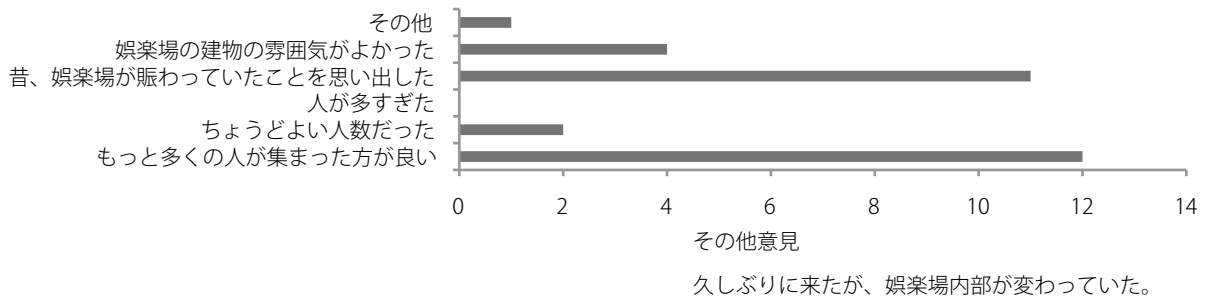
7、実際に来られたかどうかに係らず、どなたかを誘われましたか？



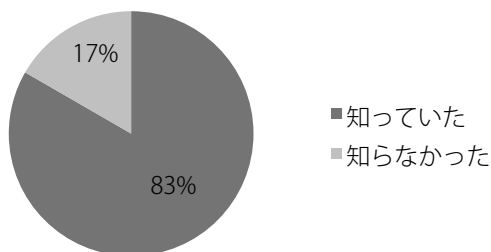
8、普段、旧娯楽場を使われていますか？



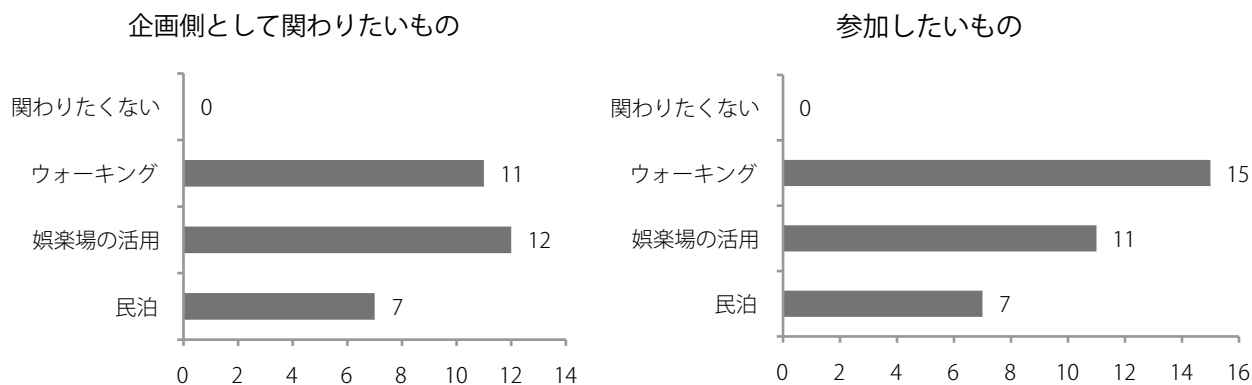
9、今回、多くの方に娯楽場に集まって頂きましたが、いかがでしたか？（複数選択可）



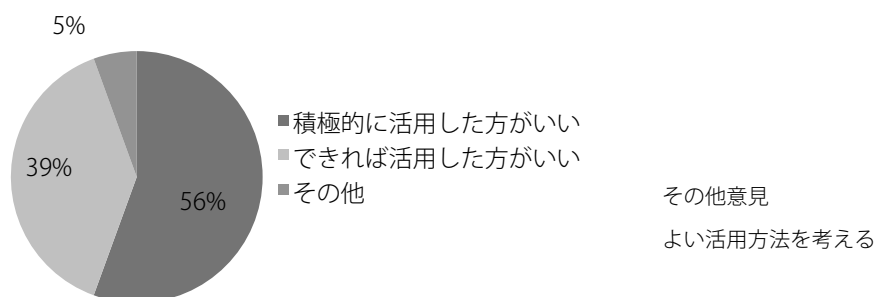
10、昨年度、大越町で東京大学の学生がまちづくりの調査をしていたことをご存知でしたか？



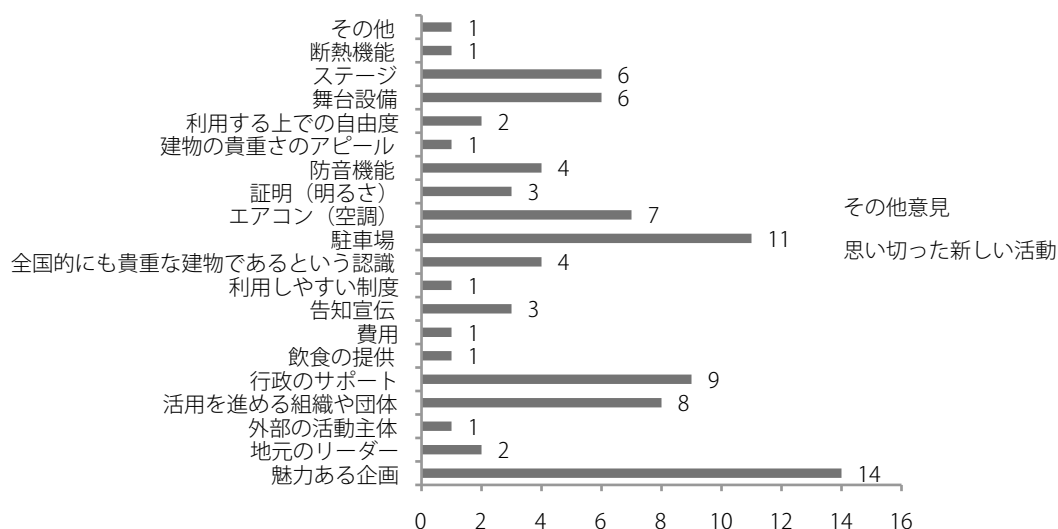
1.1、今年度、大越まちづくり実験として「民泊体験」、「娯楽場の活用」、「ウォーキング」の3つの実施を予定していますが、企画側として関わりたいもの、または参加したいものはありますか？（複数選択可）



1.2、今年度は試験的に旧娯楽場の活用を予定していますが、旧娯楽場は今後も活用したほうがいいと思いますか？



1.3、大越娯楽場をより多くの人々が利用していくために何が必要だと思いますか？（複数選択可）



4. 実験アンケート調査

1.4、旧娯楽場でこのようなイベントが開催されると、参加したいと思いますか？（自由記入）

- ・今回のサッカーは大変良かったと思います。多くの方と観戦する事での喜びを感じる事が出来ました。
- ・堅苦しくないスポーツや文化を通して歴史ある建造物をみなおすきっかけになればと思う。
- ・コンサート
- ・映画
- ・歌謡ショー、芸能発表、映画会等の開催等を企画されれば。
- ・貴重な建物の持つ良さの中で大越の古き良き時代のいろいろな多様な活用により新しい大越が生まれ、町民や町民外の人たちと交流の中から未来の大越が生まれ、
街の活性化や人々のいやしになれば良い。
- ・映画や、演劇などの娯楽など（昔は映画芝居などがあり楽しかったけど）今はテレビがあるからね。
- ・映画鑑賞会、カラオケ教室、ステージ復活した場合芸能人などの誘致
- ・カラオケなどのイベント

1.5、今回のサッカー観戦や、大越のまちづくりについて、感じていることがあれば自由にお書き下さい

- ・地元のみではなく外部（官民）の力が必要。スポーツ観戦を通すことによって身近なふれあいがはかれるので大いに協力、参加していきたい。
- ・大越町は観光資源もとぼしく、他にアピールするものが少ない現状です。石灰石の町あるいは石灰石の水（ミネラル水）位しか特徴がなく、これらにアピールするか、また旧住友セメント跡地（約2.5ha）に太陽光発電設備を電力会社へ働きかけ造る。滝根地区にある風力発電と大越町の太陽光発電を合わせて、全国にアピールできる田村市にしたい。（クリーンエネルギー発電の田村市あるいは、緑豊かな中での風力、太陽光発電の田村市）
- ・町民の関心がうすい気がします。多くの町民の方々に目を向けてもらいたいです。
- ・川内村のような温泉やオートキャンプ場があれば積極的に利用したい。
- ・行政や東京大学の学生さんが私共の地域（田村市）の活性化を図るため、又地域の自然や文化、歴史や遺跡等の再認識をさせられる機会であり参加、協力をしなければと考えています。
- ・サッカー観戦ができた事は新しい大越の始まりだと思い良かったと思います。みな様ご苦労さまでした。町民の心の中へはいりもっともっといろいろな事で協力しあって明日の活性化や幸福のためがんばれたらと思う。
- ・今回のサッカー観戦家ではテレビでも見なかったが大きい画面で迫力があり楽しく見た。もう少し人数が多いのかと思ったがそれが残念。（行政からの呼びかけが足りなかったかな）
- ・もっと行政のサポートが必要。

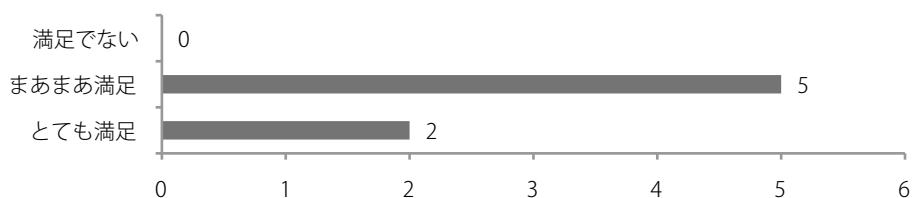
オープニングイベントアンケート分析

実施日	2010年9月4日(土)
配布方法	後日自宅に郵送
回収方法	各自 UDCT に郵送
回収率	7/24 (29%)

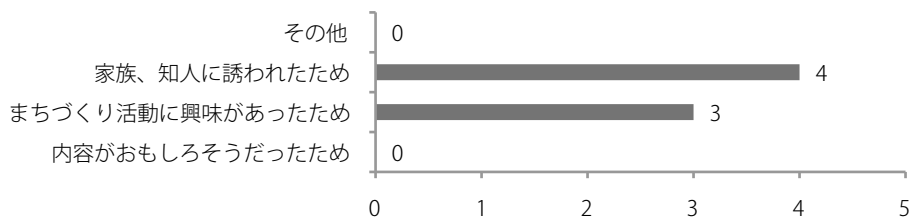
1、参加したイベントを教えてください。(複数選択可)

- ① 鬼太鼓上演会 ② おおごえ探検隊 (イラスト大会) ③ Tサロン (まちの語り場)
(回答者が少数であるため、集計不可能)

2、オープニングイベントの内容はいかがでしたか。

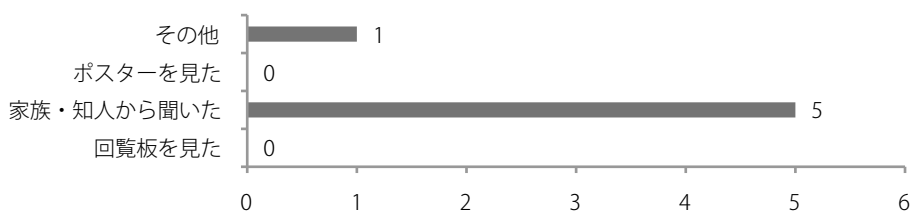


3、オープニングイベントに参加した理由をお聞かせ下さい。(複数選択可)



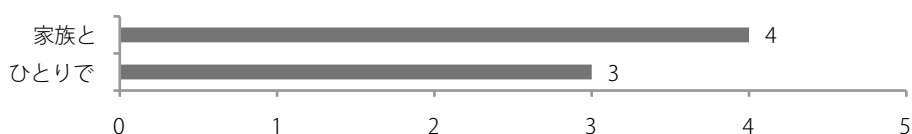
その他 孫が太鼓をやっているため

4、オープニングイベントのことを、どのようにお知りになりましたか。(複数選択可)



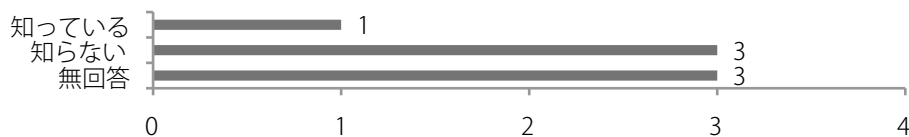
その他 道すがら

5、本日は、どなたとご参加して頂けましたか。



4. 実験アンケート調査

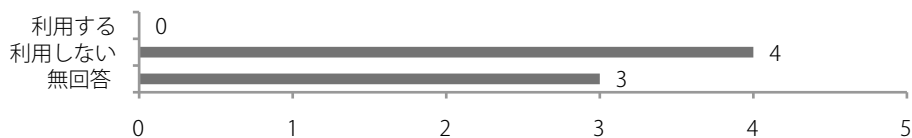
1.3、昨年度、大越町で東京大学の学生がまちの調査をしていたことをご存知でしたか？



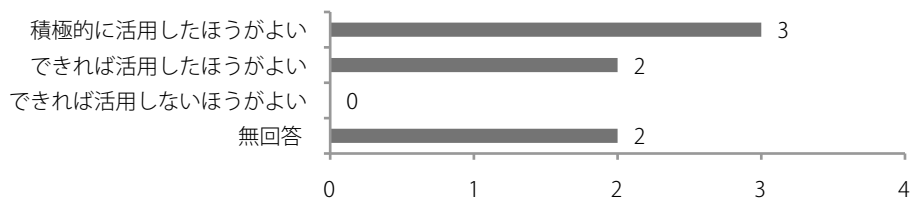
1.4、10月以降の旧娯楽場を活用したまちづくり実験として、大越あるきあるき大会（ウォーキング大会）、檜枝岐歌舞伎上演を予定していますが、参加したいものはありますか？（複数選択可）



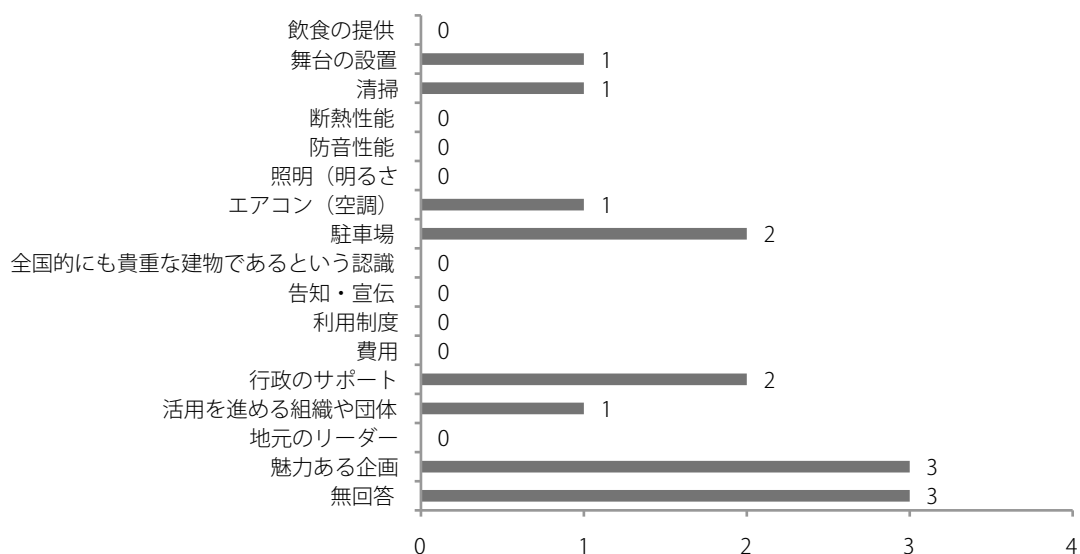
1.5、普段、旧娯楽場を利用していますか？利用している方は利用目的を教えてください。



1.6、今年度は試験的に旧娯楽場の活用を予定していますが、娯楽場は今後も活用したほうが良いと思いますか？



1.7、旧娯楽場をより多くの方が利用していくために何が必要だと思いますか？（複数選択可）



1.8、旧娯楽場でどのようなイベントが開催されると、参加したいと思いますか？ご自由にお書き下さい。

- ・子供がいるので、一緒に楽しめること。昔、小さい頃にやっていた映画上映など。
- ・映画
- ・展覧会

1.9、大越のまちづくりについて、感じていることを自由にご記入ください。

- ・自然がいっぱいなので、公園をもっと増やして頂きたい。JA 脇にポケットパークがありますが、狭く遊具が少ないので... 道路脇で危険。広く駐車場があれば尚良いです。
- ・食料品を買う店がなくて困っている。
- ・川内村の温泉のような町の方が楽しめる場をつくってほしい。

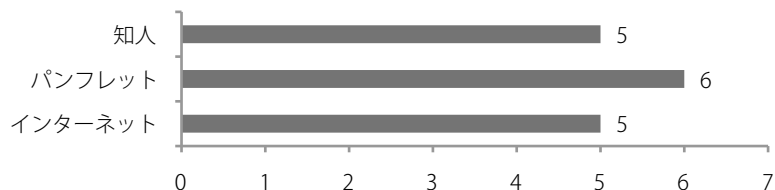
4. 実験アンケート調査

民泊アンケート分析

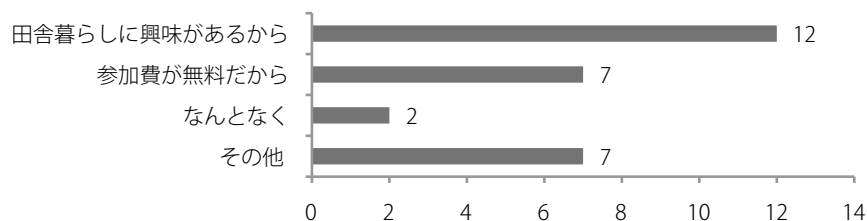
実施日	2010年9月19日(土)
配布方法	娯楽場にて配布
回収方法	その場で記入後に回収
回収率	受け入れ側 7/7(100%) 参加者 学生12/12(100%) 家族4/4(100%)

参加者

1. この民泊体験を何で知りましたか。



2. この民泊体験に参加した理由は何ですか。



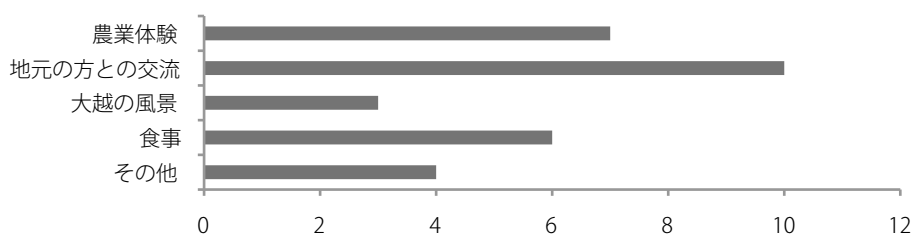
その他意見

- ・ 外国人として、日本の田舎暮らしは貴重な体験じゃないかと思いました。
- ・ 中国と日本の田舎の違いを知りたかった。
- ・ 子供が電車好きで、無料でMAXに乗れることも魅力的に感じました。
- ・ いろいろな人の生活、考え方を知りたい。
- ・ To communicate to Japanese people and learn new thing about Japan.
- ・ 地域活性化に感心がある。

3. 大越町の第一印象はどのようなものでしたか。

- ・ 静かな町、土日の出店は何故少ないか。
- ・ 電車を降りたらまず空気が新鮮で、緑が多く、閑散な町であったが、ちょっと歩いたら人が少なくて静か過ぎた。商店も閉まっていた。
- ・ 駅に降りたとき、すごい田舎でもないなと思いましたが、駅前から娯楽場までの通りを歩き、開いているお店がなく、さびしい雰囲気がしました。
- ・ 静かできれいです。これは電車を降りたばかりの印象。2日過ごした後は、地元の方はとても親切え、生活も多様化、学校以外のことを勉強になった。
- ・ 本番の日本の田舎の感じがした。
- ・ I thought that this town is not really small town(country side). There were many facility of city.
- ・ 実家より田舎。空気がキレイ。といった割と普通の田舎という印象。「騾をどうのこうの」とか、「キリストの血は・・・」とかいう看板に驚いた。
- ・ 典型的な過疎地、有名な観光地が少なく、商業施設、宿泊施設がない地域。
- ・ 臭いが強烈（肥料？）
- ・ 古い家と新しい家が混在。
- ・ 駅前はわりと町だと思った。家のまわりは畑と田んぼだけでやっと田舎にきたという感覚があった。
- ・ もの凄い田舎という印象ではなかった。
- ・ 娯楽場の建物がおしゃれ。
- ・ JRの駅の標語が面白かった。ど田舎ではないなという印象。
- ・ のどかな町、何もなさそうだと思いました。（良い意味で）
- ・ 初めてなのに初めて来た気がしない街だと思いました。
- ・ 普通の田舎だなあという感じでした。

4. 民泊体験をして最も楽しかったことは何ですか。

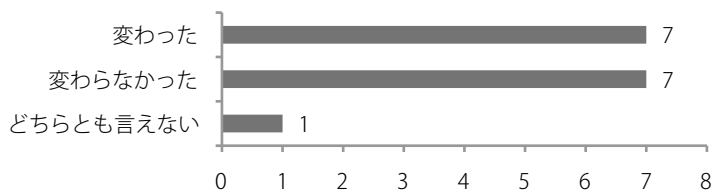


その他意見

- ・ 歴史。鳴神城と、橋本さんの築300年くらいの家の歴史の紹介。
- ・ 渡辺師匠の歌が聴けてとても楽しかったです。尺八も聴きたかったです。
- ・ 手打ちそば
- ・ 手づくりそば
- ・ 全て楽しかったので甲乙つけられません。

4. 実験アンケート調査

5. 民泊体験をしてみて田舎暮らしのイメージは変わりましたか。



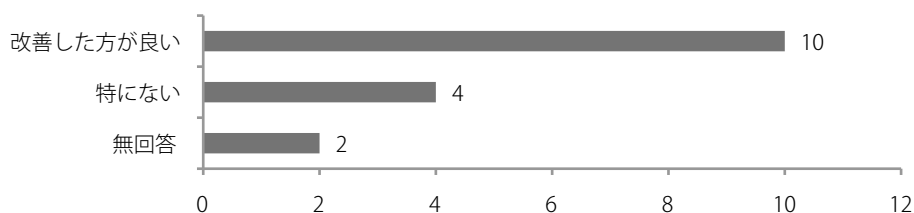
変わった理由

- ・ さびしいかと思ってたが、わくわく満喫した田舎暮らしを体験し、さびしくなかった。
- ・ 田舎の方々の親切、手厚いもてなしがありがたかった。
- ・ 食べるのは簡単だが、作るのは大変。しかも朝は早い。
- ・ 古民家のイメージを持っていたけど、きれいな家でも田舎体験ができると思った。まさにホームステイだと思いました。
- ・ 泊らせて頂いた家がとてもキレイだった。
- ・ 幸せだなと思った。心が穏やかになりました。
- ・ 大越はイベントがたくさんあり、あまりたいくつ(?)しそうでないと思いました。

変わらなかった理由

- ・ 前、田舎暮らしの経験があり、今と同じ田舎の共通性があるから。
- ・ 元々、田舎育ちで、田舎暮らしの良さは知っていた。ただ、地元の方との交流を深めることで、もっと多くの楽しみ方があることを知りました。
- ・ 予想通りに楽しい、食べ物がおいしく、人が優しい、景色も素晴らしく、目の保養になった。
- ・ 想像していた通り。宿泊期間も短いので、わかりませんでした。
- ・ イメージ通りのおだやかな暮らしでした。

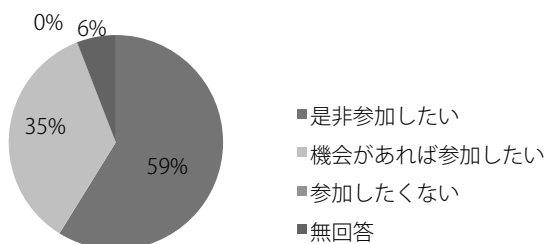
6. 民泊体験をして改善した方がよいと感じた点がありますか。



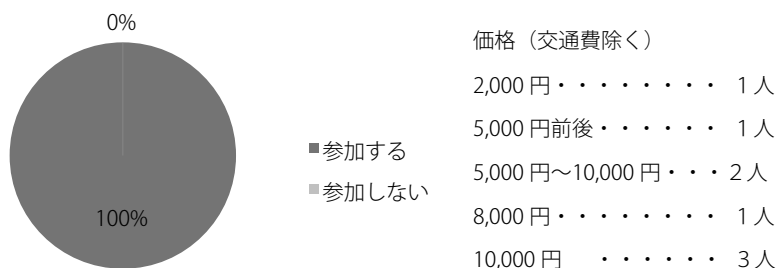
改善した方がいい理由

- ・人を集める方法はまだあると思う。
- ・地元と他の地域の違う点をもっと際立たせるべき。水がきれいなので、喫茶の味は美味しいし野菜も旬な味はたくさんあるはず。
- ・行政（市）をもっと巻き込んだ方が、“自分たちのまち”の活性化に結びつけやすいのではないか（お金の面倒も含めて）
- ・受け入れ側がボランティアとしても大変。受け入れ側と合わせて、次につながっていく取組みにしていかないと、労力とリターンのバランスが取れにくくなって、尻すぼみということになるかも。
- ・学生しきりということもあるかもしれないが、情報連絡や、集まった際の段取りなどにモタつき感あり。改善しては。（しきりの上手い人にさせるとか）
- ・アカデミックな部分があるとよかった。
- ・方言が共通語と違うことを理解してほしい。地元の歴史についてあまり詳しくなかった、、、
- ・適度に休憩がほしい。
- ・もっともっと普通の生活に入ってみたいと思いました。農作業はできれば「体験」というより「手伝い」が出来ればよかった。
- ・持ち物として農業体験用の服を持ってくるように言った方がよい。
- ・何か参加者に、自分なりのお礼を持ってきてもらった方がいいのでは？
- ・全グループが一つだけでも、共通の体験をした方がよいかもしれないと思いました。Ex.稲刈りとか収穫とか

7. また参加してみたいですか。



8. 参加費があっても参加しますか。また、どのくらいの価格なら妥当だと思いますか。



価格（交通費除く）

2,000円	1人
5,000円前後	1人
5,000円～10,000円	2人
8,000円	1人
10,000円	3人

意見

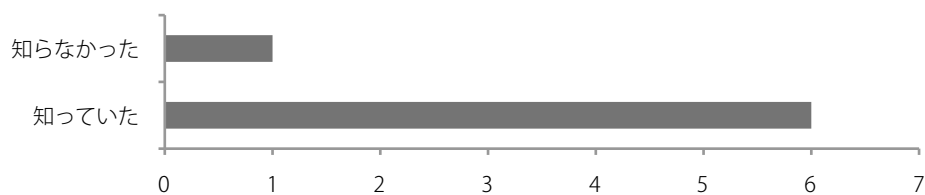
初めて行く場所の場合、金額が高いと参加しづらいかなと思っています。

9. この民泊体験を通して感じたことをどんなことでも結構ですので、自由に記述してください。

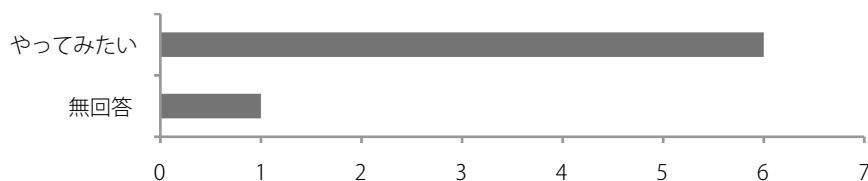
- ・農業・採石場を通して、地元の経済力を向上するのは当たり前のことだが、若い人々が暮らせる町、暮らしたい町はやはり大越町の未来への道ではないかと思えます。人と自然を融合して楽しみながら、最高の生活です。それでも、都市の人々が羨ましい生活です。
- ・珍しい体験をし、いい思い出となった。大越町の住民、景色、地元の食材からの魅力を感じさせてもらいました。
- ・子供も大人も、自然の中で暮らすというのは、とても大変なことだなと感じました。1日しか（体験のみ）いないので、大きなこととは言えないが、野菜を作って、その野菜をとって、食べて・・・ごく当たり前のことができる幸せ。忘れていたことを思い出させてくれた気がします。ビジネスとして「民泊」に取り組むことで、雇用を生み出すこと。「水」という資源をベースとして、地ビール、地酒などにつなげていけないか・・・。人を増やすための対策をもっとメインに。
- ・大越町でしか体験できないことが出来てよかったです。稲刈り体験は実際に私はグルグル束にまとめる作業しかしてないのですが、暑くてなかなか大変でした。でも終わった後、とても充実感がありました。米を育てるのは、とても手間がかかると渡辺さんから聞きましたが、その割には米の値段が安く、農業だけで生活するのは難しいというお話も聞き、考えさせられました。日本の食料自給率アップのためにも、何か自分に協力できることはないかな、と思いました。子供たちの世代にも生活の知恵のようなもの受け継がせたいと思いました。（私がないため）。娯楽場をそういう継承の拠点にするのもいいかもしれないと素人考えで思いました。
- ・地元の方と交流をして、生活の方式、考え方、お金の作り方などいろいろ教えて頂いて、珍しい経験です。
- ・田舎生活は楽しいです、農作業も出来ますし、毎日運動していて体も元気になります。
- ・田舎でもコミュニケーションの手段が進んでいます。ツイッターとかインターネットもよく使われています。（吉田さんの千以上のツイッターメッセージにちょっと驚いた）
- ・ I have again many experiences. It was a really special experience for me, which helped me to know Japanese people more. I will not never for get my trip to the ogoe. I learned many new thing about Japan. Everybody was kind and behave in a friendly manner. It was my first experience of homestayng. I think it was really perfect. I highly enjoyed my trip to ogoe. I an highly grateful for providing me this wonderful opportunity.
- ・田舎の楽しみ方はいくらでもあるなーと思いました。仙台平の展望台では、アマチュア無線をやっている方がいたし、農業を絡めた多くの趣味をもっている方もいたし、そういう方のクリエイティブな発想と実際にやってみるという行動力には感服しました。
- ・地元の人でも知らない観光地がまだまだ眠っていると思う。又、“体験”（農業でも祭りでも）は観光資源になると確信した。
- ・北沢研の学生のみなさんは、ほんとによく地域にとけこんでいるなーと感心しました。違う季節に来てみたいです。
- ・自分の時間が許せば、1～2週間泊まってみて、ドブプリ田舎につかってみたい。
- ・ぐっすり寝れた。地元の同年代の人とももっと話してみたかった。本当に田舎体験するなら最低でも1週間位は滞在したい。住環境のよさが羨ましかった。東京であれば無理だと思う。居合を見てみたかった。
- ・“はじめて”の体験を1日でこんなに出来るとは思わなかったです。自分が受け入れ家族に何もしてあげられなかったのが残念です。僕たちは、とても“幸せ”な気分になれました。本当に楽しかったです。ありがとうございました。
- ・なんとなく参加したのに猪狩家の方と絆ができて本当に良かったです。猪狩さんに本当に良くして頂きました。スタッフの方も大変だったと思いますが、私としては大満足でした。ありがとうございました。
- ・福島にも親戚が出来たようで、非常に想い出深い体験をさせてもらいました。また、首都圏地区に住んでいる街から、田舎の方々のされているあらゆることが特別なことです。今後1人でも多くの方々に同様の体験をして頂きたいと思えます。
- ・田村の方が、本当に心優しく、自分の街に対して、愛情があること。
- ・ただのありふれた郊外の風景も、人の力で大きく変わるということ。
- ・東京大学が何故、田村のまちづくりに協力しているか、来るまで不思議だったが、分かった気がする。難しいテーマかと思いますが、ぜひ、チャレンジして行って欲しいと思えます。

受け入れ側

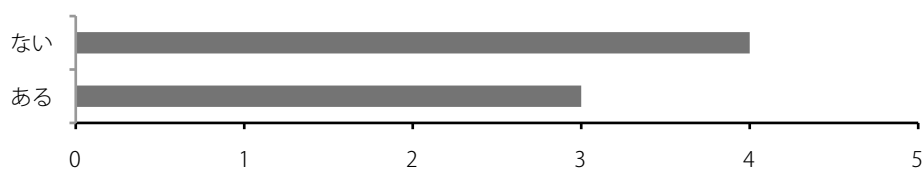
1、「民泊」という言葉をご存じでしたか。



2、また民泊をやってみたいですか。



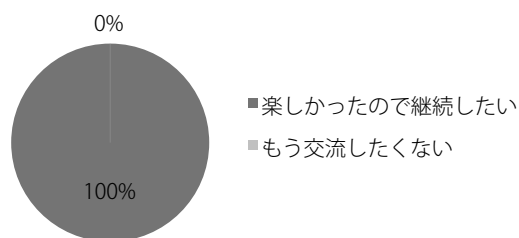
3、今まで都市部の方と交流したことがありますか。



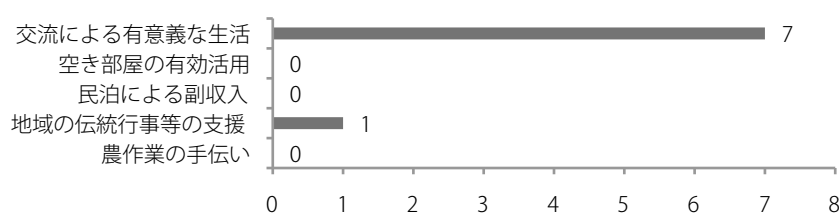
3で「はい」と回答された方どのような交流なのかを簡単に教えてください。

- ・ 外国の高校生のホームステイ
- ・ 息子の妻と
- ・ 大越町工業団地内勤務者の妻を年1回家に呼ぶ。(定年を過ぎて埼玉で暮らしている)

4、都市部の方と交流してみているかでしたか。あてはまる事項の○を付けてください。(複数回答可)

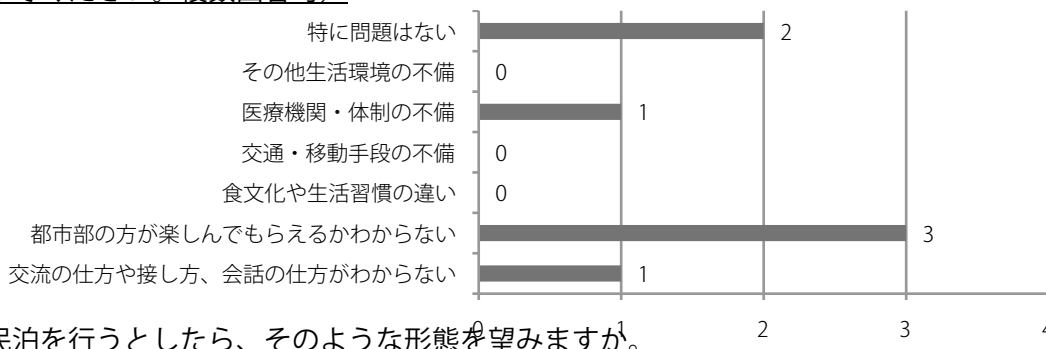


5、都市部の方と交流する魅力は何だと思えますか。あてはまる事項の○を付けてください。(複数回答可)

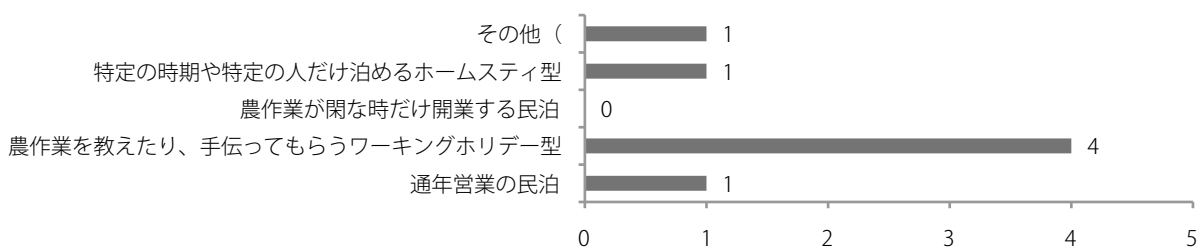


4. 実験アンケート調査

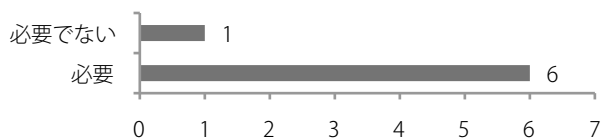
6、都市部の方と交流するうえで問題点や不安に感じることはありますか。あてはまる事項に○を付けてください。(複数回答可)



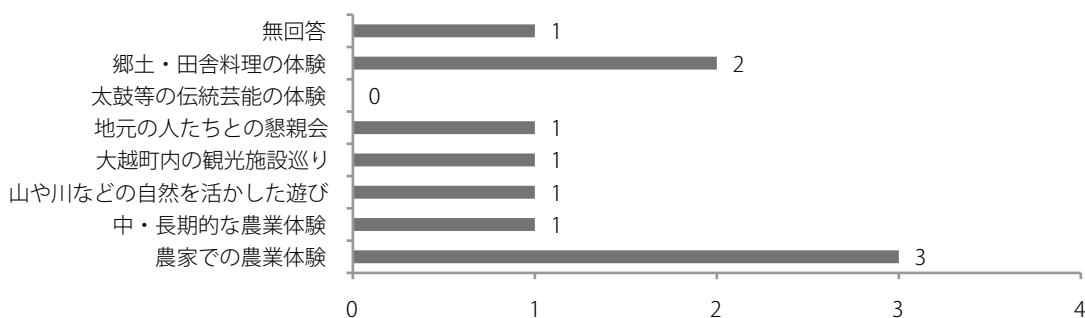
7、民泊を行うとしたら、そのような形態を望みますか。



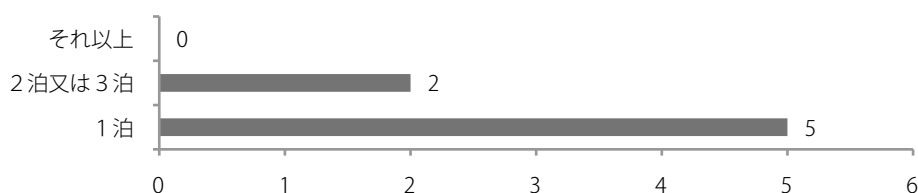
8、参加者が体験できる「大越町田舎体験メニュー」が必要だと思いますか。



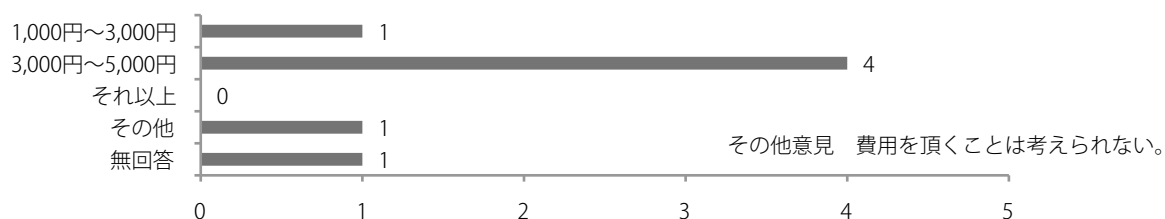
9、8で「はい」と回答された方どのようなメニューを提供することが良いと考えますか。あてはまる事項の○を付けてください。(複数回答可)



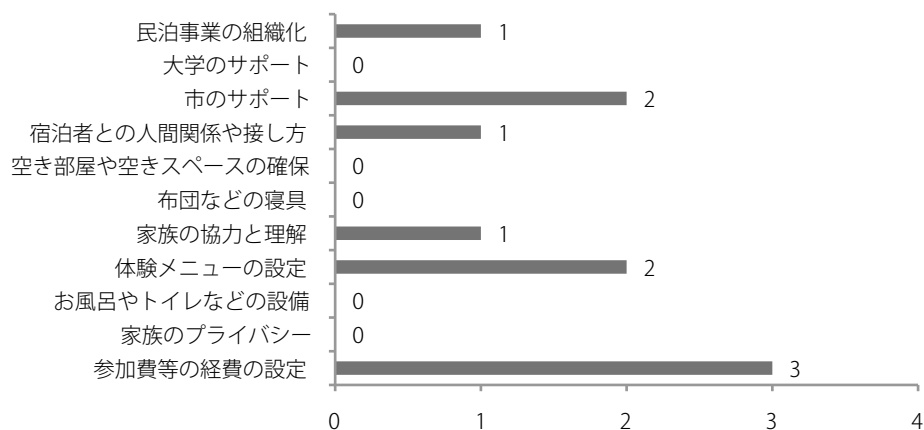
10、民泊を受入れる場合、1回あたりの滞在期間は、どれくらいが適当であると思われますか。



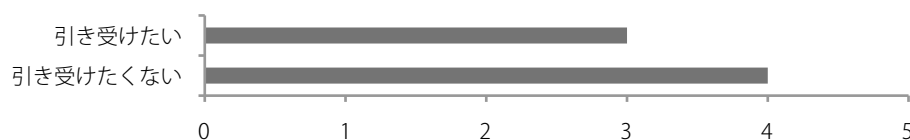
1.1、もし参加費をいただくとしたら、一泊あたりの費用は、どれくらいが適当であると思われますか。



1.3、民泊を今後続けていくうえで必要なものは何であると思いますか。(複数回答可)



1.4、民泊事業を行っていくとした時、住民のリーダーをお願いされたら引き受けたいと思いますか。



1.5、この民泊体験を通して感じたことをどんなことでも結構ですので自由に記述してください。

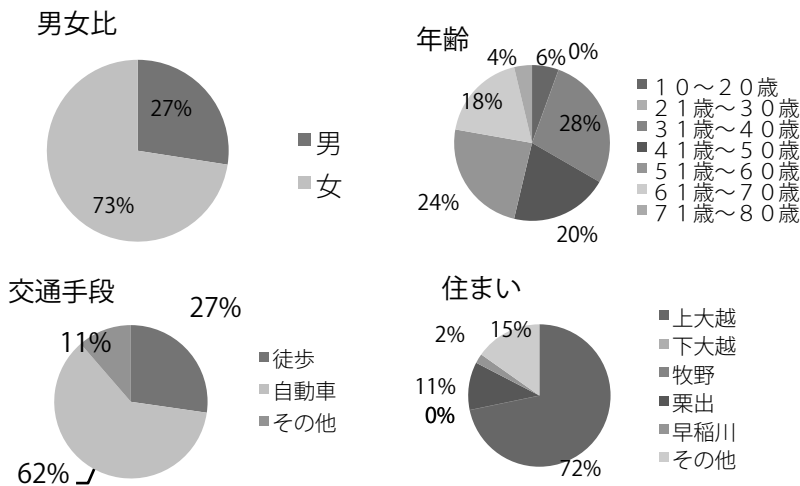
- ・ 何気ない事でびっくりしたり、喜んだりしてくれて、新たな発見があり、とても楽しかった。
- ・ 期間が短かったので、短期間で多くのメニューをしたため、参加者が大変だったのではないかと思います。継続して事業が行われれば良いと思います、関係の方々大変お疲れさまでした。
- ・ これからの子供達の未来の為に少しでも+になることができるように思われる。
- ・ 田村市で育ち、世界に羽ばたくことのできる、子供、孫に小さい時から風を頂ければと思いました。
- ・ 初めての方との交流は良い体験でした。
- ・ 回覧を回して1件も受け入れがないのは何か。
- ・ 今回の民泊の受け入れをして最高に楽しいひとときを過ごすことができました。11月に相馬さん家族が再度民泊に来てくれることになっています。田舎ならではの味わいがあったのか、大変うれしく思っています。又、今回家族の協力もあり実現したことはいうまでもありませんが、家族にも恵まれている事を最後認識できました。私は農業という大きなものではなく家庭菜園規模の体験を家族くみで続けていけたらと思います。ささやかな体験かもしれませんが田舎を感じる体験をする事に、身がまえる事も飾る事もなく自然に受け入れることができるように思えます。今回このような機会をあたえて頂き本当にありがとうございました。

4. 実験アンケート調査

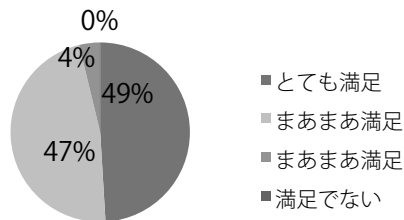
あるきあるき大会アンケート結果

実施日	2010年10月24日（日）
配布方法	ゴール後に実行委員が配布
回収方法	ゴール後に記入
回収率	55

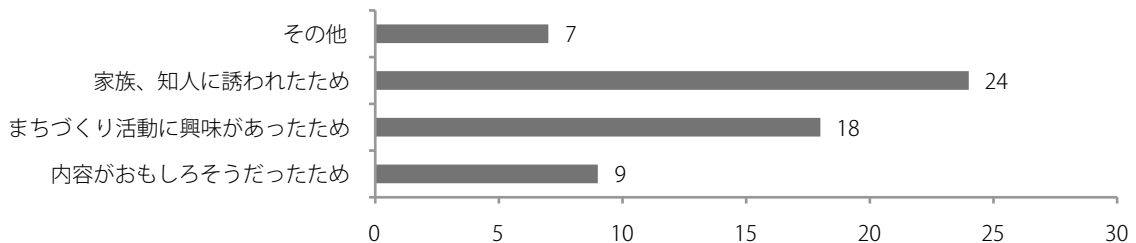
アンケート対象者



1、あるきあるき大会の内容はいかがでしたか。



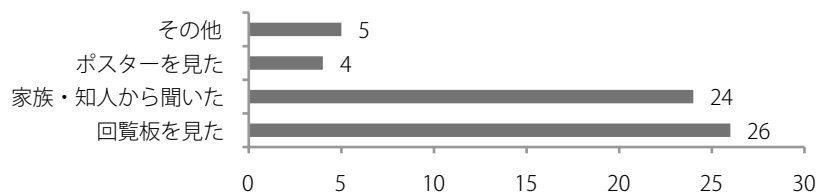
2、あるきあるき大会に参加した理由をお聞かせ下さい。（複数選択可）



その他

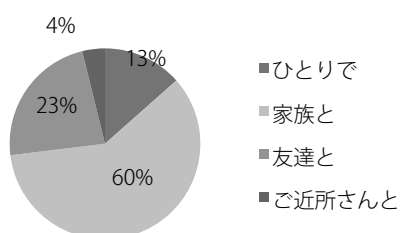
健康のために、子供がはりきっていたので、健康づくりの為、誘われた、ウォーキングのため、子供が参加すると言ったため、体作りのため

3、あるきあるき大会のことを、どのようにお知りになりましたか。(複数選択可)

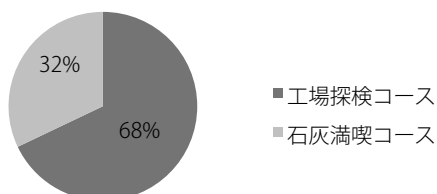


その他 告報、町の放送、知り合い

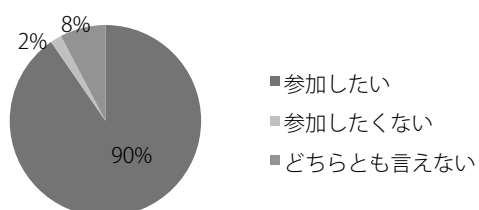
4、本日は、どなたとご参加して頂けましたか。



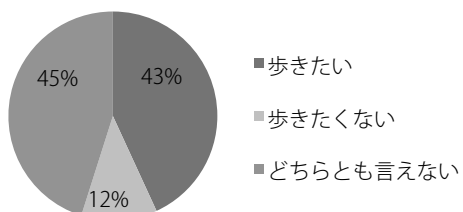
5、どちらのコースを選択しましたか？



7、今後もウォーキング大会があったら参加したいと思いますか？



8、これからもこのコースを日常的に歩いてみたいと思いますか？



9、8で「②歩きたくない」とお答えした方にお聞きます。何故そう思われましたか。(複数選択可)

- | | | |
|--------------|-----|--------------------------------|
| ① 道が歩きにくい | (0) | その他意見 |
| ② コースが魅力的でない | (1) | ・ 1回歩いたところよりも知らないところを歩きたい |
| ③ コースの長さが長い | (1) | ・ ポイントでの説明、歴史ある場所等をもっと活用すべきでは？ |
| ④ コースの長さが短い | (0) | ・ こわい。 |
| ⑤ その他 | (1) | |

10、コースの中で、良かったポイントがありましたら教えて下さい。記入例に従って右の地図に記入して下さい。また、理由を下に書いて下さい。(地図参照)

- | | |
|--|--|
| 1、杉並木
・ 初めて通ってびっくりした。きれいだった。
・ 杉林が林道の様な景色で良かった。
・ 涼しかった。
・ 杉並木がきれい | 5、引き込み線
・ 引き込み線のあるけた。
・ 跡地からの眺めが良かった。
・ 景色がきれい。
・ 引き込み線の眺めが良かった
・ 土手と桜並木があり、車も通らずよかった
・ 引き込み線に登ってみた風景
・ 景色がとても良かった。 |
| 2、採石場
・ 初めて見ました。ラッキーでした。
・ 採石場が見れた。
・ こんな近い所にあると思わなかった。
・ 意見だけ
・ 今まで見たことがなかったのでよかった。
・ 日常働いている石灰採石場を見ることができよかった。 | 6、工場跡地に向かうカーブした道
・ 堤防をほとんど歩かないが歩いたから。
・ 良いカーブ |
| 3、トンネル
・ 初めて通った。よかった。
・ 今までとは違った景色が見れた。
・ 歩いたのが初めてだった。
・ 牛 | 7、田んぼの風景
・ 緑の風景がとてもよかった。 |
| 4、工場跡地
・ 古工場が見れた。
・ 工場の裏はあまり見ることがないので。
・ 長年住んでいたが見たことがなかった。
・ 息子が働いていた工場見学できよかった | 8、線路沿い
・ 見たことのない風景だったので新鮮だった。
9、河川沿い
・ 歩いていて気持ち良かった |
| 印なし
・ 杉並木の中
・ 採石現場 | 10、工場周りの道
・ となっている巨大な工場は見たことのない景色だった。
・ 工場施設が人みたい

11、子ども園まわり
・ 大越子供園をはじめて近く見れたから。 |

1.1、コースの中で、悪かったところ（歩きにくい所、景観が良くないところなど）がありましたら教えて下さい。右の地図に例に従って記入して下さい。また、理由を下に書いて下さい。

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1、引き込み線 | 5、採石場までの道 |
| ・登って下る位置の表示が欲しかった。 | ・採石場までの長い上り坂はきつかった。 |
| ・歩きづらい。 | |
| ・歩きにくい | 6、工場周りの道① |
| | ・足下が悪い。 |
| 2、トンネル | ・悪かった |
| ・方向指示版がなくわかりづらかった。 | ・未舗装で子供と車では大変。 |
| ・虫が多すぎた。 | |
| ・近道がある | 7、工場周りの道② |
| | ・悪かった |
| 3、上大越小そばの道 | 印なし |
| ・道が悪い。 | ・虫がたくさん飛んでいた。 |
| 4、 | ・ガタガタ道で大変だった。 |
| ・砂利道だったので余計に疲れた。 | |

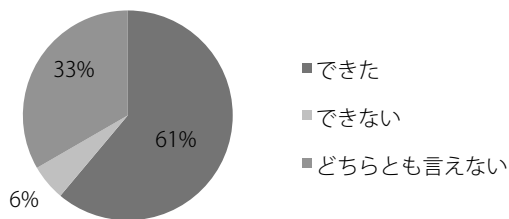
1.2、本日のチェックポイント・みどころ以外で、魅力的なところがありましたら教えて下さい。右の地図に例に従って記入して下さい。また、理由を下に書いて下さい。

- | | |
|--------------------|----------|
| 1、セメント工場跡地そば | 印なし |
| ・杉の木に囲まれていて幻想的である。 | ・こども園の通り |
| | ・でっかい工場 |

1.3、今後、あるきあるき大会を継続するにあたって改善した方がいい内容がありましたら教えて下さい。

- ・歴史を盛り込んだ形で歩き、町の再発見をしてまとめて説明等して歩けたら町に対する見方、意識が変わってくると思います。
- ・歩く距離をもう少し長くして、大越町の風景を見て回ったり、昼食を家族でとったり、ピクニック的な感じにした方が良くと思う。
- ・歩行ペースを取れる様に改善してはどうか。
- ・途中で説明あったところは非常によかったです。
- ・坂道があると余計に息が上がって疲れやすくなる。
- ・長い距離ではなくていいので、平坦なところを入れてほしい。毎日続けられるコースなど。
- ・午前中がよい
- ・出発の始まりがバラバラでしたので、ちょっと迷った。
- ・出発時がもたもたしていた。
- ・途中で休憩ポイントやお楽しみポイントがあるととっても良い。

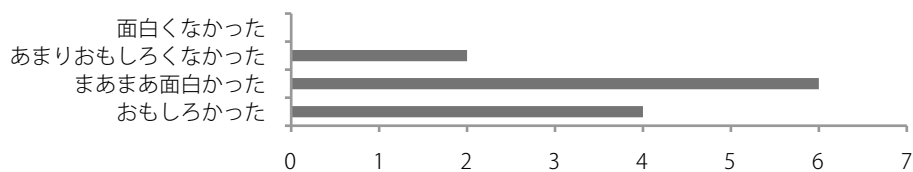
14、本日、まちを歩いてみて、まちの魅力を再発見できましたか。



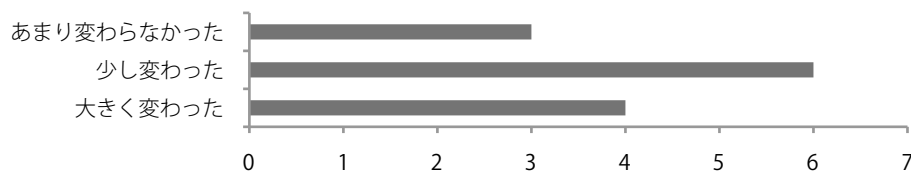
15、14で「①できた」と回答した方にお聞きします。例えばどのようなことですか？自由にお書き下さい。

- ・ 初めて「歩いた」「見た」ところがあったから。
- ・ 出勤でいつも通る道を歩いてみて、普段と違う風景を味わえた。
- ・ 新しい発見があった。
- ・ 今まで歩かなかった所を歩いた。
- ・ セメント工場を初めて近くから見れた。
- ・ ゆっくり地元を歩くのが意外と楽しく感じた。
- ・ あまり歩く事のない所を歩けた事。
- ・ 公民館から小学校までの村道
- ・ 皆で一体感が持てたと思う。
- ・ セメント工場の周りを見て
- ・ 川があつて山があつてのんびりとした雰囲気はそれだけで魅力的です。
- ・ 今まで大越に住んでいて歩いてみなかった所があり、新発見に出来たようでよかった。
- ・ 魅力というよりは4km どのぐらいか(このぐらい歩けば4km なんだと)分かった。
- ・ 今まで知らなかった道を歩けた。
- ・ 沢山の人がまちの中にある景色
- ・ 杉林の散策が良かった。

17、今昔物語展・ドキュメンタリー映像はいかがでしたか？



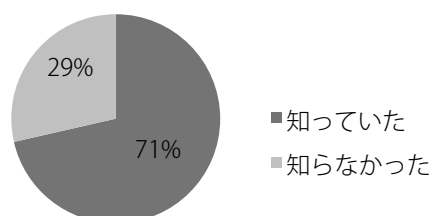
18、今昔物語展・ドキュメンタリー映像をみて、旧娯楽場の印象は変わりましたか？



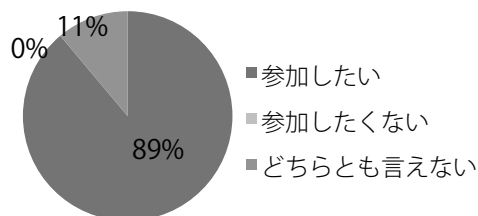
19、18で「①②変わった」と回答して頂いた方にお聞きします。どのように変わりましたか。(自由にお書き下さい。)

- ・ 写真などを見て変わった。
- ・ 昔から住んでいた訳じゃなかったで、こんな建物があるとは思わなかった。なのでこれからもずっと残して行って欲しい。
- ・ 私が小さいころもここは時々映画を上映する場所であった。今なお活用されているのがうれしい。
- ・ 再発見した。
- ・ 旧劇場場を利用することで大越町も町おこしに利用できるので大変よい。

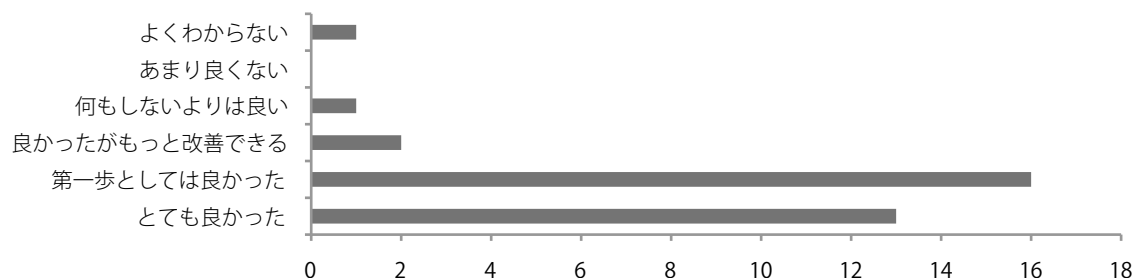
20、今年度、大越町でまちづくり実験を実施していることを知っていましたか？



21、今後も大越まちづくりの一環の活動があったら参加したいと思いますか？



22、大越あるきあるき大会は、大越のまちづくりの取組みとして、いかがでしたか？



その理由をお聞かせください。

①とても良かった

- ・新しい発見があった。
- ・子供から大人まで楽しめたから。
- ・町内の市民に向けた内容ではなく、町外の市民に向けたイベントを町内の人達で出来る企画があればもっと楽しいと思います。
- ・公民館での文化祭もあり、参加者がたくさんいてよかったです。
- ・まちづくりの内容が理解できた。
- ・こういう機会がないと歩かないのでよかった。今度は違うコースで歩きたい。

②第一歩としては良かった

- ・参加者が多かった。
- ・町民が多数参加できるから。
- ・他の町村のことを知ることができた。
- ・自然がいっぱいだった。
- ・車で通らない所を歩いてよかった。
- ・子供から大人まで一人でも多くの方が参加してこれからのまちづくりを考えていくことができたらよい。
- ・一人で参加だけと友達ができて楽しかった。
- ・若い方がやっていくことがよい、これも期限付きなのか

③良かったがもっと改善できる

- ・上りが少ない。
- ・参加人数をもう200位アップ出来ればよい。
- ・山の中だけではなくて町の中ももっと歩いた方がいいと思う。

④何もしないよりは良い

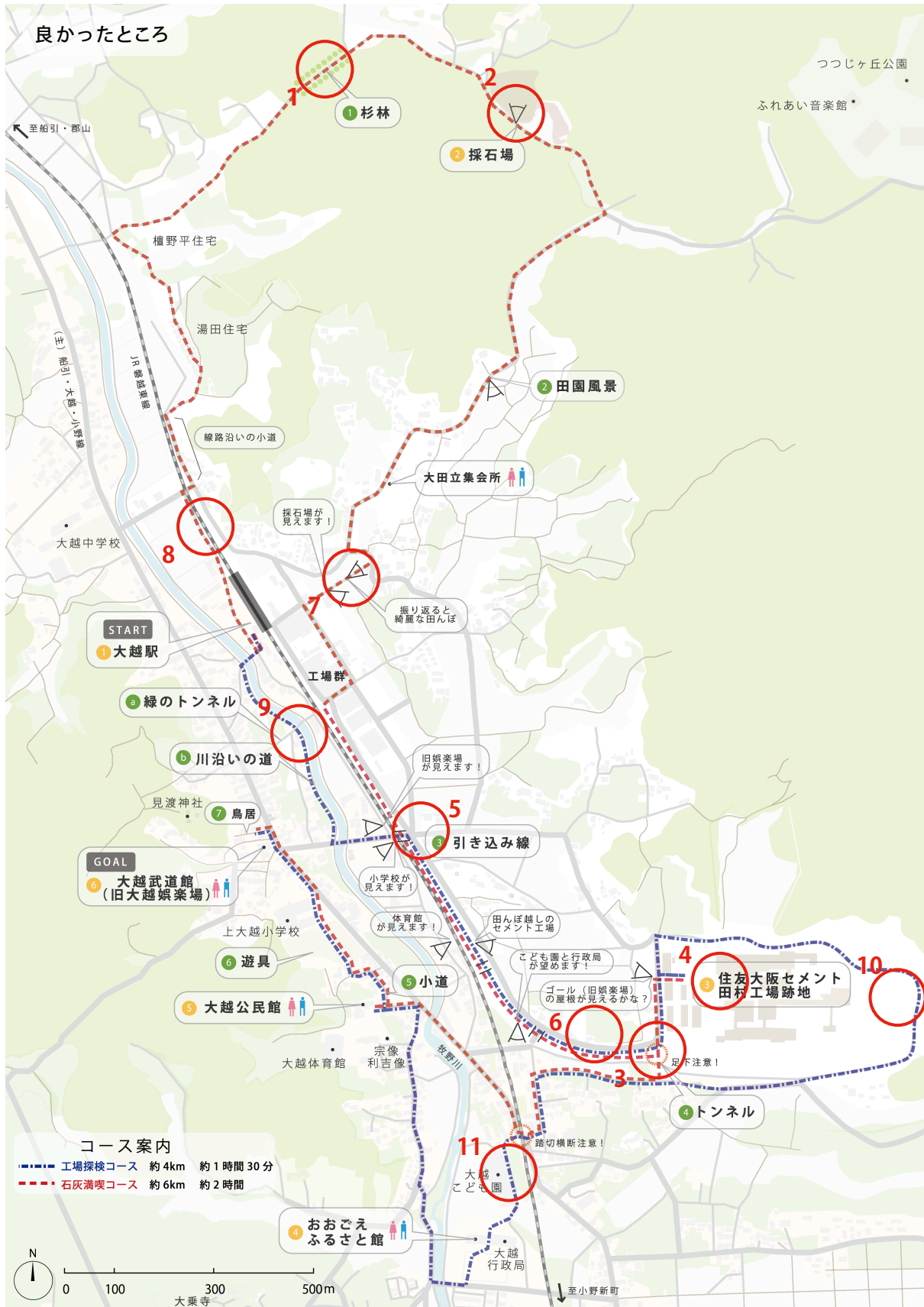
- ・かみの方でやっているのではなく末端まで広がって情報が流れるシステムをつくってほしい。回覧板をすればいいというわけではない。

23、大越のまちづくりについて、感じていることを自由にご記入下さい。

- ・町の活性化には大賛成ですが、何をするにも人選でものすごく大事な気がします。学生さんが何をどのようにしたいのかよく伝わってきません。もっと町民と密着した関係をつくったほうがよいと思います。
- ・町おこしのためのイベント等をもっと若い人達が率先して取り組むことが必要だと感じている。
- ・多くの町民が参加したくなる様な企画が必要だと思う。
- ・色々な方が協力してまちづくり活動を参加されている事、感心しましたが、もっと事務方と住人が話し合い明るく笑顔のあるまちづくりがいい。
- ・町民協力しあって参加することです。
- ・人柄はぶっきらぼうですが、優しくあたかな町民である。どんどん刺激して、良い町にして下さい。
- ・大越町の人達が参加してイベントが出来ればよいと思う。
- ・活性化できたらいいな。
- ・町活性化のためによかったと思う。
- ・大変面白い取り組みだと思う。都市計画として、もっと行政に働きかけてほしい。

4. 実験アンケート調査

良かったところ



良くなかったところ



4. 実験アンケート調査

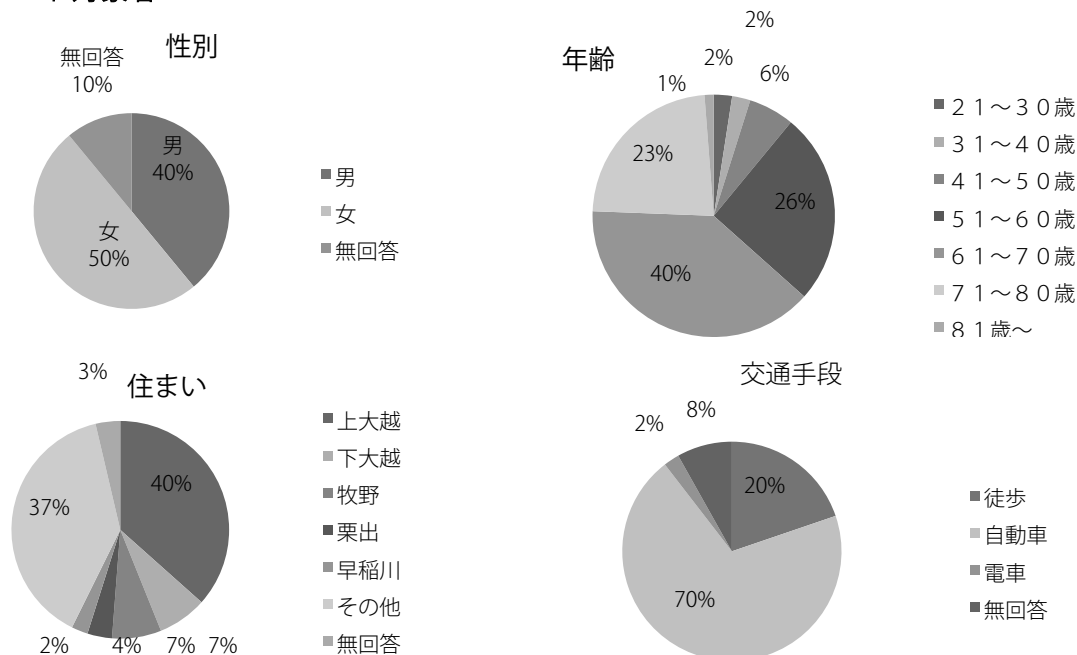
他に魅力的なところ



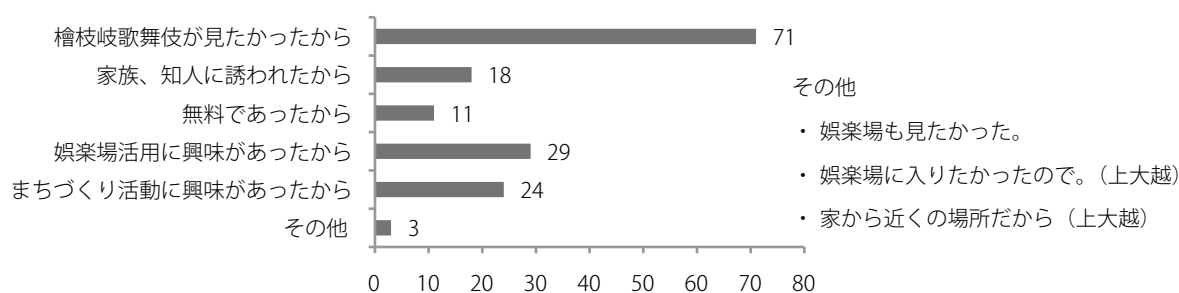
檜枝岐歌舞伎アンケート分析結果

実施日	2010年11月6日(土)
配布方法	受付時に配布
回収方法	各自 UDCT に郵送
回収率	86/146 (回収率 59%)

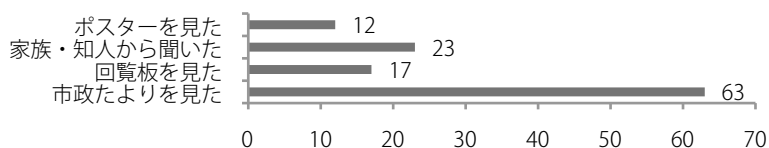
アンケート対象者



1、本日の檜枝岐歌舞伎上演会の抽選に応募したのは何故ですか？（複数選択可）

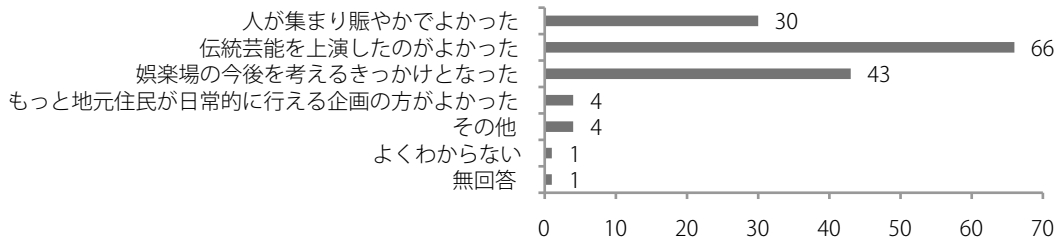


2、檜枝岐歌舞伎上演会のことを、どのようにお知りになりましたか。（複数選択可）



4. 実験アンケート調査

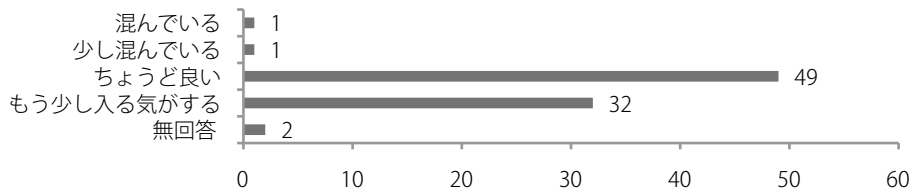
3、今回の檜枝岐歌舞伎上演は、娯楽場の活用として、いかがでしたか。（複数選択可）



その他

- ・ 娯楽場を効果的に活用を考えているのだったら入り口のコンクリートがとても危険。暗いし段差があり冬はもちろん足元は老若男女を問わず安心感が必要です。(牧野)
- ・ 昔ながらの芝居とか映画を年に2、3回？昔は清水朝子一座、懐かしいですね。(滝根)
- ・ もっと地元の人たちが利活用を考えなくてはならない。人まかせでは発展がない。大越の人たちはのんびりすぎている。価値観がわからない。刺激が不足している。(上大越)
- ・ 一回は良いが、お金をかけて上演するのであれば別の人集めを考えるべきである。(牧野)

4、本日は約300人が利用していますが、利用人数は適正でしたか。



5、今後、どのようなことに活用したらいいと思いますか。自由にお書き下さい。

映画	16人
芸能	12人
演劇・芝居	10人
コンサート	8人
展示場	3人
お笑い芸人・漫才	3人
発表会	3人
健康づくりの教室	2人
講演会	2人
落語	2人
祭での活用	2人

その他

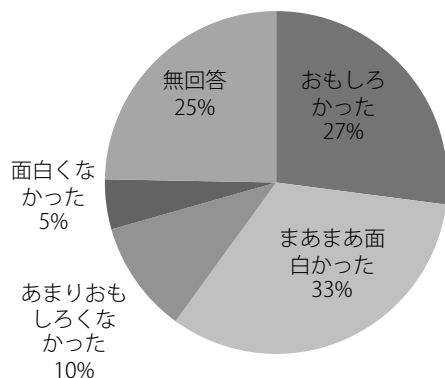
- ・ 若者の集会所
- ・ 朗読会
- ・ ワークショップ
- ・ 手品師
- ・ 学習塾
- ・ 飲食場
- ・ 市内団体の活動の場

※ アンケートの自由回答欄から、キーワードを選び集計

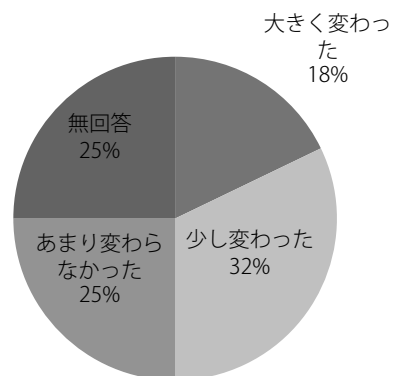
(芸能には和太鼓、大衆舞踊なども含まれる。健康づくり教室はヨガなども含まれる)

※回答例詳細は後ページに記載。

6、今昔物語展・ドキュメンタリー映像はいかがでしたか？



7、今昔物語展・ドキュメンタリー映像をみて、旧娯楽場の印象は変わりましたか？



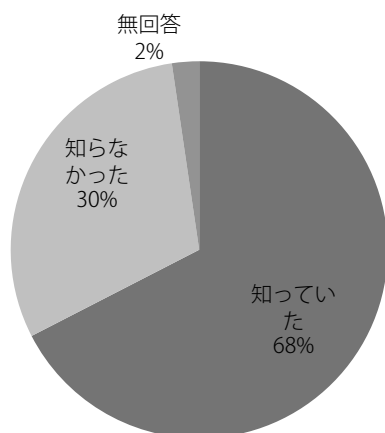
8、7で「①②変わった」と回答して頂いた方にお聞きします。どのように変わりましたか。(自由にお書き下さい。)

- 「より理解できた、知ることができたので良かった」という内容の意見 → 7人
- 「残すべき、活用すべき」という旧娯楽場の今後に関する意見 → 7人
- 「旧娯楽場の素晴らしさ、大切さ、貴重さが分かった」 → 2人
- 「きれいになった」 → 2人
- 「懐かしかった」 → 2人

その他

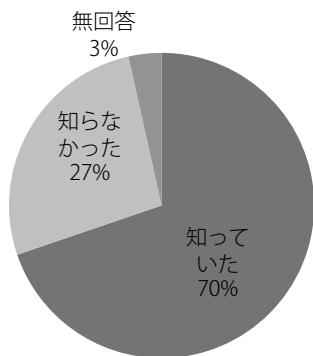
「身近に感じた」「花道や舞台がなくなり残念」「都会の人も参加できるような企画をするべき」「このような建物があつたことに驚いた」

9、今年度、大越町でまちづくり実験を実施していることを知っていましたか？

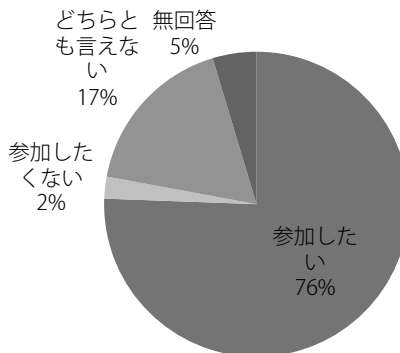


4. 実験アンケート調査

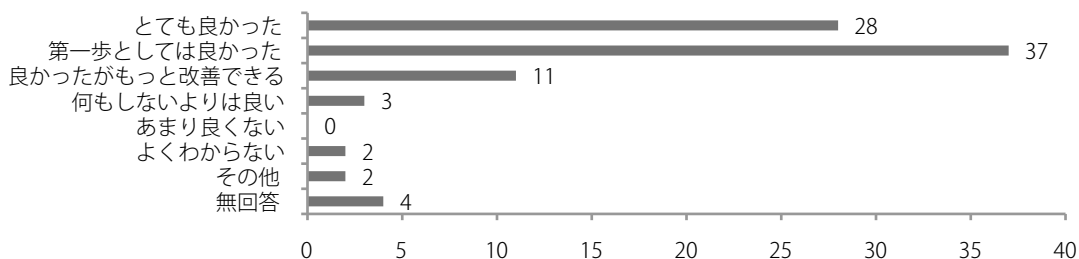
10、本日の「娯楽場の活用」が、まちづくり
実験の一環であったと知っていましたか？



11、今後も大越まちづくりの一環の活動があ
ったら参加したいと思いますか？



12、今回の娯楽場の活用は、大越のまちづくりの取組みとして、いかがでしたか？
その理由をお聞かせ下さい。



理由（自由記入）

まとめとして抜粋（後ページに全て記載）

① とても良かった

- ・ 素晴らしい建物なので、活用したことは町の取組みとして良かった。
- ・ あまり使われなくなり残念に思っていたため、まちづくりとして娯楽場に目をつけたのは良かった。
- ・ 多くの人に建物を知ってもらえたから。

② 第一歩としては良かった

- ・ 娯楽場を知るきっかけとなった。
- ・ 娯楽場に入るきっかけとなった。
- ・ 関心をもてた。
- ・ 町の人々も興味を持ち始めた気がするため。
- ・ なんとか活かしていきたいと思ったから。
- ・ 他人ごとではないと危機感を持ったから。
- ・ 大越町の特徴をうまく生かしていたから。
- ・ 檜枝岐歌舞伎公演を見た事がなかったから。

③良かったがもっと改善できる。

- ・ 子ども、若い人が楽しめるような企画がほしい。
- ・ 年代別の声かけをするべき。
- ・ 中途半端なので、入場料をとってしっかりとした活動をするべき。
- ・ もっと地域に密着した企画をするべき。

④ 何もしないよりはいい

- ・ コミュニティーの機会がもてたから。

⑥ よくわからない

- ・ 大越町に住んでいないため。

⑦ その他

- ・ 娯楽場にいつでも入場できるように娯楽場の利用を考えるべき。

歌舞伎アンケートコメント

1、

⑥その他

- ・ 娯楽場も見なかった。
- ・ 娯楽場に入りたかったの。(上大越)
- ・ 家から近くの間所だから (上大越)

2、

④その他

- ・ 以前より
- ・ 新聞でみて (上大越)
- ・ 職場で実行委員会からポスター刑事の掲示があったから。(上大越)
- ・ 新聞 (早稲川)

3、

⑤その他

- ・ 娯楽場を効果的に活用を考えているのだったら入り口のコンクリートがとても危険。暗いし段差があり冬はもちろん足元は老若男女を問わず安心感が必要です。(牧野)
- ・ 昔ながらの芝居とか映画を年に2、3回? 昔は清水朝子一座、懐かしいですね。(滝根)
- ・ もっと地元の人たちが利活用を考えなくてはならない。人まかせでは発展がない。大越の人たちはのんびりしすぎている。価値観がわからない。刺激が不足している。(上大越)
- ・ 一回は良いが、お金をかけて上演するのであれば別の人集めを考えるべきである。(牧野)

4. 実験アンケート調査

5、

- ・ 娯楽場を気軽に少人数でも使用できるためには、第一の要件は駐車場を確保すること。殊に老人などは歩いては集まらない。少人数の発表会、展示会等をするためにも駐車場が欲しいです。(牧野)
- ・ 年に数回芝居(〇〇座)の様なものも見てみたいです。娯楽場に合うのかも?(上大越)
- ・ 質問6~7に今昔物語があるが、今の娯楽場は娯楽施設とは言えない。建物は立派でも中身がない舞台(ステージ)仮設では施設の目的を決めて、行政に対し予算を処置して活用すべきと思います。(早稲川)
- ・ 芸能を上演する期待を増やして欲しい。高額な入場料にはしないでもらいたい。(牧野)
- ・ 珍しいイベントがあれば行きたい。講演会とか。(常葉)
- ・ 若い人の参加が少なかったように思えました。子どもや若い人も参加できるような物・・・例えばお笑い芸人を呼ぶとか。(船引)
- ・ 上演前のスライド、いろいろなお話を聞いて町づくりの皆様のご活躍とても嬉しく思っております。(上大越 女性)
- ・ 昔のように芝居や映画など年に3、4回でも良いから上映すると老人の楽しさも出来ると思う。(今回も年寄りを楽しみにしていたようだ)(上大越)
- ・ 娯楽場の条件を生かせる様な芸能等々有料でも良いので上演したらどうだろうか。ただしあくまでも上質であり品格のある事を望みます。(牧野)
- ・ 今後若人が集会とか市のあり方のお話の場(上大越)
- ・ 文化祭、若者の発表会等公民館に集約せず活用する機会を増やし生かして行くべきではないでしょうか。(上大越)
- ・ 座席椅子にしてほしいです。(滝根)
- ・ 駅から近くて良いが駐車場が不便な点もあったが他町との交流の場に言えば娯楽場を知ってもらえるような気がした。(船引)
- ・ 芝居、映画、演劇など劇場を保存すべき(滝根)
- ・ カラオケ大会 芸能発表会(滝根)
- ・ 映画上映(船引)
- ・ 地域の方々が参加できるように、芸能・よしもと芸人... 等々を年に数回、入場料金等も考慮してもいいのでは。
- ・ 多面からも活用する方法があると思います。(他地域)
- ・ コンサート、演劇場、映画上映など(船引)
- ・ 津軽三味線、演奏会、詩の朗読会など(滝根)
- ・ 映画、ワークショップ、地元の人が気軽に集まれるイベントなど(下大越)
- ・ 色々な憩いの場にして欲しい(上大越)
- ・ 種々イベントを考えた方が良い。芝居、歌手の公演(小中学生の利用)(上大越)
- ・ 映画の上演など、人が集えるような事。(牧野)
- ・ 隣町に住んでいて今までこのような建物があったことが知らなかった。外側は洋風の建物で内部は和洋でびっくりしました。これからも地元につながるお話会(昔話とか)又伝統芸能をきかして頂ければ私としては楽しみが増すかもしれません。(船引)
- ・ 映画(下大越)
- ・ 落語や漫才、手品師、民謡、いろいろな演劇をみてみたい。みんなが笑えて楽しめる場であり続けることを願います。(下大越)
- ・ いろいろと利用し、皆さんが感動するのがよい(船引)
- ・ 映画、ジャズコンサート、新劇(滝根)
- ・ 映画、ヨガ教室、太極拳、フラダンス(上大越)
- ・ 地域の昔からの芸能を生かして下さい(滝根)
- ・ 昔は移動の映画をやっていたが、ここ10数年やっていないので映画をやって利用してみたらどうでしょうか。(上大越)

- ・ もっと町民が利用（見）に行ける、行きたいと思わせる内容の上演会があればいいと思うミニコンサートでも映画でもいいのでは。（滝根）
- ・ 映画の上映会（上大越）
- ・ 懐つめろ映画会が見たいです。（船引）
- ・ まわりに適当な駐車場がない事が難だと思ふ。それがあれば大衆舞踊等で人を集めることができると思う。（船引）
- ・ 地元の人々の歌、舞の発表会、子ども用漫画の映画とか、学習塾など（上大越）
- ・ 私には大変良かったです。ありがとうございました。（上大越）
- ・ 今回に似た様な出来事に活用してもらいたい。（上大越）
- ・ 今回に似た様な事を何回か続けてほしい。
- ・ コンサート（フォークソング）落語（上大越）
- ・ 年に数回、今回のようなものを上演してほしい（船引）
- ・ 映画の上演、和太鼓の上演、時々旧町の歴史パネルを展示、ヨガや健康維持のための講座を開く（遠方までで行かずとも気軽に参加できるので）（上大越）
- ・ 娯楽のために使用した点（下大越）
- ・ 地元の祭、獅子舞などを何年かおきにやってもらいたい。大越町にはいろんな芸能などがあることをみんなに知ってもらいたい。（上大越）
- ・ 今のままでは良いが何にでも使用出来れば尚良い（上大越）
- ・ 市内で活動している各団体、会等に提供できる場であってほしい（上大越）
- ・ 若い人が参加できるもの。若年、中年が参加できるもの。その中でコミュニケーションが図れると思う、演劇等みんなが見られるものが良い。（上大越）
- ・ 芸能全般で利用できる様、舞台の活用、大型に造作、証明器具も一式（下大越）
- ・ もっと地元住民が日常的に使える企画がほしい。（滝根）
- ・ 今度のように人が集まって賑やかになるように人が集まりは町も賑やかになり、町も明るくなるので（上大越）
- ・ 檜枝岐歌舞伎は見たい人が多いので、もう少し田村市内に話しかけるべき。娯楽場の建物を利用した、ぜひ行ってみたいと思うようなこと。展示場、コーヒーショップみたいな飲食場、絵、等を個人で見せる。農業に関する、特にたばこ産業の古い機械を展示（牧野）
- ・ いろいろな事に利用していったらいいと思う。懐かしかった（早稲川）
- ・ 本日のような小劇場として使うのが最も良いと思います。（船引）
- ・ 昔なつかしい映画を上映する。料金は1000円以内（船引）
- ・ 伝統芸能上演はもとより、いろんな上演をしていったら良いと思う（船引）
- ・ 踊りや芝居など（上大越）
- ・ 映画上映会などをしてみてはどうか（上大越）

6、7に関する意見

- ・ 音が小さく映像も小さく良く聞こえなかった、見えにくかった。
- ・ 映像の組立もいまいち。映像も音響も悪いので内容がわかりにくい。
- ・ 音声が悪く聞き取りにくかった。（上大越）

4. 実験アンケート調査

8、

- ・ 50年ぶりに娯楽場の中にかくわくした気分が入ってみました、「昔の花道」がなくなり、映写室もなくなり、必要がないから仕方がないのかと思いましたが、残念でした。(常葉在住 上大越生まれ)
- ・ まだまだ利用できる建物であると実感した。(牧野)
- ・ 昔の造りでめずらしかったしなつかしかった。残っていた事に驚いている。常葉にも劇場があったのに。(常葉)
- ・ 66才の女性ですが昔が懐かしくなりました。(上大越女性)
- ・ テレビ携帯世の中の変化で人の集いがない。(上大越)
- ・ 旧娯楽場の中身はわかりませんが子ども達から大人達まで集まる場所で人の出入りが多くなるほどこれから変わっていくと思います。(船引)
- ・ トイレが良くなった(滝根)
- ・ 昔・・・映画を観たのを憶えている。もっと活用すべき。
- ・ 私は歌のショーの前座に歌を唄ったのが娯楽場との出会いでした。その時に素晴らしい劇場だと感じました。その時から大越の地元の方にこの劇場を保存し活用するように話してきました。(他地域)
- ・ 建設時の状況が分かり、より貴重な建物であることが分かった。(下大越)
- ・ 中がきれいになった。(上大越)
- ・ 地元ではないのでどう変わったか、昔の状態がわからないのでわかりませんが、今までにこの状態を保ってきたのだから大変だろうと思いますが長く続くことを願います。(船引)
- ・ 外見(下大越)
- ・ 娯楽場の歴史が少しわかりました。外から見ると中から見るのでは違い過ぎ。思ったよりきれいでした。(上大越)
- ・ 私は昔の娯楽場を知らなかったのを見て少しは昔を知ったと思います。(上大越)
- ・ 私は娯楽場を知らなかったが、今回の事でもっといろいろな利用できるのではないかと感じた。(船引)
- ・ 68才の男ですが、初めて娯楽場に入りました。(栗出)
- ・ 大越に嫁いでわからないことが聞いて分かって良かったと思います。(上大越)
- ・ 昔はよく活用していたと言う事、今がただおくのはもったいない。(上大越)
- ・ 貴重な建物だった事に気付かされました。(上大越)
- ・ 設計した人物がわかったのはとても良い収穫でした。古い建物なのに保存状態が良くきれいなのにには感じました。(上大越)
- ・ きれいになりましたし、私の小さいころと全く変わりました。(特にトイレがきれいになりました)(上大越)
- ・ 娯楽場を知ることができた。建物の素晴らしさを知ることができた。初めて入ったが、おもしろい内部に驚いた。改装とかしないでなるべく建てられた当時のままにしてほしい。(船引)
- ・ 今後、この貴重な建物を老朽化させないためにも、少しでもアイデアを出し合い活用して行く事が大切であると考えさせられた。(上大越)
- ・ 大越町の娯楽場の大切さがわかった。(上大越)
- ・ テロップの名前が間違っていた。何を話しているか良くわからなかった。もっと編集を良くしてほしい。(上大越)
- ・ 身近に感じました。(上大越)
- ・ 昔は若者が映画や芝居など見に菅谷から大越に行った覚えがあり、何十年ぶりで10月に入って見たら変わっていました。(滝根)
- ・ テロップの名前が間違っていた。もう少しわかりやすく説明して欲しかった。私はよその町から嫁いだ人間なのでよくわからなかった。(上大越)
- ・ 最近あまり活動していなかったので。武道館としてしか使っていなかった。(上大越)
- ・ 娯楽場の利用がこんな型でするよりももっと地域に密着し都会の人も参加できるようなものにすべき。(牧野)

- ・ 改修し残すべき施設だと思いました。(船引)
- ・ 音声、映像ともにあまりにもおそまつではつきりしない(船引)
- ・ 設計者のこと等がわかり、より理解できた。(船引)
- ・ 今までにこのような催しがなかったので(上大越)
- ・ ドキュメンタリーの中で2階のせり出している所がくつ置き場だった事など今まで知られていない事がもっと他にもあるはず。そこの所を知りたくなりました。(上大越)

12、

①

- ・ 気軽に参加できる行事がいいと思う。(牧野)
- ・ 観客の多くは昔を思い出し思い出話に花を咲かせていたようで良かったが町づくりとしてはスタッフ以外にもっと中高年層の姿があってもと思った。(船引)
- ・ 伝統文化を長く受け継いでいく必要あり、そういう場を利用してほしい(滝根)
- ・ 県内で数少ない娯楽場とのことであり、保存をお願いします。(他地域)
- ・ 駐車場が遠い(船引)
- ・ 歌舞伎を知ることができたので(下大越)
- ・ 今回だけではなく定期的に開催してほしい。内装を建築当時に再現してほしい。(滝根)
- ・ 昔の勉強になったと思う。関東方面の人たちや東大生のおかげで娯楽場の事をより良く知ったと思う。(上大越)
- ・ 小学生くらいまでは娯楽場では映画の上映があったり書道教室が開かれて通っていましたが、その後一般的には入る事が出来なくなってしまいました。せっかく素晴らしい建物があるのにずっと残念と思っていたので、まちづくりとして娯楽場に目をつけてもらったのは嬉しい事だと思っていました。(上大越)
- ・ 歌舞伎を見て感動しました。(その他)
- ・ ただおくのもったいない、大越はみんなで力を合わせると言う事を進んでやらないので、役員になった人ばかりが苦勞する、奉仕の心が育ってほしい。(上大越)
- ・ 実行委員の人々が力を入れて頑張って下さった結果だと思います。(上大越)
- ・ 建物としても素晴らしい。活用しないのはもったいない。町の取組みとしてもとても良かったと思う。実験だけで終わらないで続けてほしい。遠方まで出かけないで観賞できてよかった。(船引)
- ・ 昭和24年～35年頃芝居の劇場で私も10才頃、良く芝居や映画館として通い活用、幼少時が思い出され、泣きながら舞台を観賞。
- ・ おひろめて活用していった方がよい。(早稲川)
- ・ このような素晴らしい建物を多くの人に知ってもらえたころは一番よかったのではないかと？運営は大変だろうが、いろんな上演が出来れば良いと思う。(船引)

②

- ・ 何かを始めないと町の活性化はできない。計画をして繰り返し繰り返し行うことが大事であると思います。(牧野)
- ・ 今回は実験の段階であるので娯楽場の活用も結構だと思いますが今後は町全体はもとより町並などに活気を取り戻す手段を考え若者が定住する様対応に期待したい。(早稲川)
- ・ 大変むずかしい問題だと思いますが頑張ってください。私自身何を求めているのか考えさせられたひと時でもありました。(常葉)
- ・ せっかく娯楽場があるのだから、もっと活用できると良いと思います。運営費も必要だと思うので少額なら入場料を集めても良いのでは？(船引)

4. 実験アンケート調査

- ・ 何度かまちづくりの取組みに参加したが今度は参加者が今までよりも多かったので一歩進んだかなと思った。(上大越)
- ・ 娯楽場を活用してもっと地方の文化の拠点として活用を。(栗出)
- ・ ローマ王国も始めの一步から (上大越)
- ・ 入り口が急で老人は危険だ。バリアフリーにすればいいと思います。(滝根)
- ・ 娯楽場は初めての入場です。他町民でしたので、合併によりこんな所があるんだ、あったんだと、他の地区民・市民にもっと認知してもらえたらと思う。小学生、中学生のころを思い出した。(船引)
- ・ 大越町に娯楽場があったことも知りませんでした。是非活用してほしいと思います。期待します。(船引)
- ・ 大越だけでなく、田村市の多くの人が集まっており、これからの復興にきっかけとなってくれればと思う。(下大越)
- ・ 娯楽場に入る機会がなかった。(上大越)
- ・ 昔なつかしく歌舞伎も始めであり、音響も良かった。今後の種々イベントに生かせると思った。ただ駐車場の問題あり。(上大越)
- ・ 娯楽場を知るきっかけとなった (上大越)
- ・ 良かったです、これからも続けて地域活性化の為頑張って下さい。期待しています。
- ・ 知らなかった人にわかってもらえた事は良い。いろいろな人と交流できて知り合いが増えた。(船引)
- ・ 町の人々も興味持ち始めた様な気がするのです。
- ・ 今まで娯楽場に入るチャンスがなかったが、今回2階に初めて上がり、素敵なつくりになっていると感じた。大越町の財産であると再認識した。(上大越)
- ・ 関心ももてたこと。他人事ではないと危機感を生じたから。何とか活かして行きたいと思ったから。(上大越)
- ・ 近くに大切なものがあることがわからないのでいろんな取組みをやっていくべきである、役所まかせではだめである。(上大越)
- ・ 気軽に集まれるところ。図書館の様な活用は考えられないでしょうか？ (上大越)
- ・ 今後もどんどん活用してほしいです。(滝根)
- ・ 子どもの頃に何度も足を運びましたが、その頃のことが思いおこされなつかしく感じられてわが町にも素晴らしい建物があがり誇りに思いました。(牧野)
- ・ 大越町の特徴(娯楽場)をうまく生かしていた。(船引)
- ・ 檜枝岐歌舞伎公演をみたことがなかったから。(上大越)
- ・ 歌舞伎の内容がもっとメジャーな誰もが知っている義経・弁慶だったらもっと良かったと思いました。大越のまちづくりの起爆剤にはなったと思います。少なくとも私自身の。(上大越)

③

- ・子ども達も楽しめるような企画がほしいと思った。(上大越)
- ・大越町に都会又は大学生等の夏休み、冬休みを利用し音楽活動（クラシックの練習場として活用していただき（無料で）その成果を町民に聞かせたり、スポーツトレーニングの合宿所として利用し運動公園があるのですから、地元の若人に正しいスポーツトレーニングを受けてもらったり合宿所は無料で提供し、光熱費食費は利用者負担とし毎年同じ大学に利用していただき継続していくのはどうでしょうか。農家民宿、農業体験参加を積極的に町づくりに入れたらどうでしょうか。空き家、空きアパートの利用で夏休み冬休みのミニ別荘タイプにして（料金は頂いて）活用する。絵画美術→アトリエ利用書斎も含め最大自然活用が静かな大越にいいのではないかと。大越町は無です。ここから有を生むのが東大生へ望みます。(牧野)
- ・隣人、仲間等への声かけをもっと積極的に行い歌舞伎等盛り上げる必要あり。さらに年代別の声かけ等も必要と思います。一般の人を巻き込む必要があったのでは？(上大越)
- ・年齢別に行事等を実施しては。今回の檜枝岐歌舞伎はあまりにも地域ととけ込めない。もっと身近な劇とか・・・参考 小野町の小野座のような。
- ・中途半端、入場料をとってもっとしっかりした活動をしたらどうでしょうか。(滝根)
- ・もっと若い人達も参加できる内容のものを企画して欲しい。若い人が多く集まらないと、町の活性化にならない。(上大越)
- ・活用回数を多くし、親しまれるようにしたい。一時的なイベントのための活用だけでは町民だけでなく、せめて田村群内の人々が集まってくるようにすべきである、町の元気にはつながらない。(船引)

④

- ・しばらくぶりに顔が見れたね、元気だった？と会話が聞こえて素晴らしいコミュニティーの機会がもてて良いと思います。(下大越)

⑥

- ・大越町に住んでいないから。(常葉在住 上大越生まれ)
- ・他町のため(常葉)

⑦その他

- ・年に2～3回の活用であれば良いがほうとうに人を集めるのであればいつでも入場出来るようなこと娯楽場の利用を考えるべきだ。(牧野)

その他意見

- ・都路から行ったのですが、駐車場が分かりにくく、駅の所に停めたのですが、暗くて分かりにくかったです。
- ・初めて檜枝岐歌舞伎を拝見しました。想像以上に素晴らしくて感動しました。もう少し見たかったです。ありがとうございました。
- ・参加することで応援したいと思います。(船引)
- ・とても興味深く、楽しく見させて頂きました。ありがとうございました。他の演目も是非上演してほしいです。(船引)
- ・最後に、開場時間は午後5時30分とはがきに書かれていた。実際は5時開場だった。時間は厳守してほしい、おかげで、後部の場所となった。残念(上大越)
- ・舞台を組み立て式として舞踏や演劇ができる様大型に造作して頂ければと思います。証明器具一式も希望致します。(下大越)

謝辭

謝辞

この論文の執筆にあたり、お世話になった方々に感謝致します。

まず、何度も指導をして下さった清水亮先生にお礼を述べたいです。いつも長い時間、指導して下さいありがとうございました。清水先生とのゼミの後はとても頭がすっきりとした気分になり、パソコンに向かってはまた悩み、またゼミを申し込む、という繰り返しであったように思います。分析能力がほとんどなかった私にいつもヒントを下さり、分析の方法を学ぶことができました。清水先生の観点で大越をみると、新しい発見がありました。その着眼点を少しでも吸収できていたらいいなと思っています。清家剛先生にも、ゼミでは適確なアドバイスを頂きました。いつまでたってもテーマが決まらない私に、いろいろな事例を教えてくださいました。楽しみながら、ゼミを受け、論文に取り組むことが出来ました。ありがとうございました。浅見先生には、調査の仕方や、学術的な論文として足りない部分などの指摘を多く頂きました。

大越住民のみなさん、調査時に大変お世話になりました。

いつも泊めさせて頂き、美味しいごはんを用意して頂きました。論文調査なのか遊びにいつているのか分からなくなるほど、楽しい時間を過ごすことができました。佐久間辰一さんのお宅に何度も泊めて頂き、いつもごちそうになってしまいました。佐久間さんの、「まちづくりは庭にある花の向きを外に向けるだけでできることだ」という言葉が素敵でした。香西とき子さんには、調査のために大越行政局にある資料提供をして頂きました。ご自宅に呼んで頂き、楽しい時間を過ごせたことが、この論文執筆の活力となりました。橋本重助さんにも、たくさんのお話を伺い、橋本さんのただならぬやる気に負けるまい、と決意しました。ヒアリング調査でお世話になった、大橋重信さん、佐久間建夫さん、どうもありがとうございました。三部秋夫さんには、大越から大量の野菜を送って頂きました。美味しいものを食べ、体調を崩すことなく論文に取り組むことができました。

田中大朗さん、論文の相談にのって頂きありがとうございました。今後の田村でのまちづくりに貢献できる研究であればうれしいです。研究室 OG である柏原さんにも相談にのって頂きました。三牧さんは、M2の間は、あまり田村では関わる事ができませんでしたが、時々会う時に、応援の言葉を言って頂けたのがうれしかったです。いつもにこにこな砂川さんにも、会う度に元気をもらいました。

同じ院生室で机を並べた仲間にもお礼を言いたいです。ふくちゃんの隣の席でなければ、わたしの論文に取り組むスピードはもっと遅かったでしょう。困ったときはいつも即答で助けてくれ、励ましてくれました。ヨンちゃん、いろいろな仕事を抱えて忙しい中でも一生懸命なヨンちゃんをみていて、わたしも頑張ることができました。ソンさんには論文に関するアドバイスをたくさん頂きました。それだけでなく、いつもユーモア溢れるソンさんがいたからこそ、論文をひたすら書く生活でも楽しさを感じることができたのだと思います。なみっちと食べるご飯はいつもより美味しく感じました。まるちゃんはスピードが速すぎてついて行けませんでしたが、まるちゃんが抜群な安定感でペースメーカー的な役割を果たしていたからこそ、次にやらなくてはいけないことが見えてきたように感じます。関谷さんには、いつも会う度にやさしい応援の言葉を頂きました。ジフンさん、こじこじ、阿南くん、尾瀬くん、さいちゃん、大野くん、中村くん、しのちゃん、入山さん、豊辺さんにも同じ研究室のメンバーとして支えて頂きました。ありがとうございました。

尊敬できる、頼りにできる人たちが周りにたくさんいて、とても幸せです。大学院で学んだことを、今後に活かしていきたいです。

2011年1月24日 竹田 恵利加